

增訂
補正
勢陽
五鈴
遺響

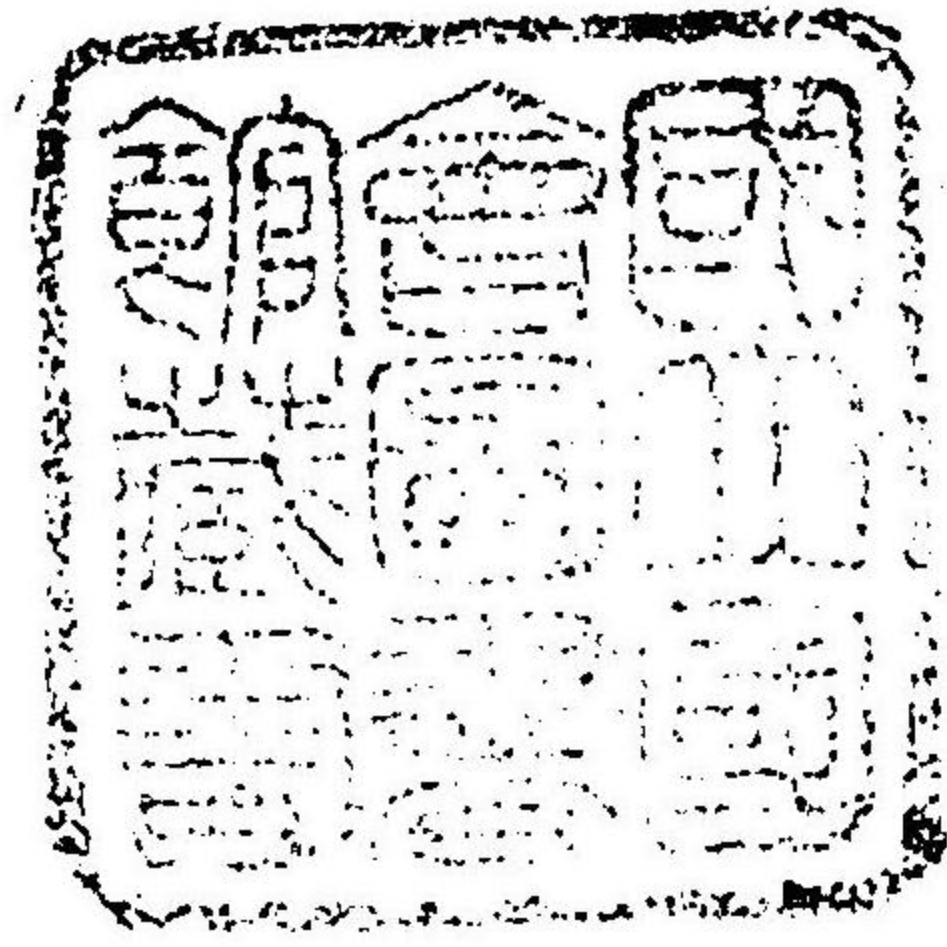
飯高郡
至自
卷

飯高郡
全

八

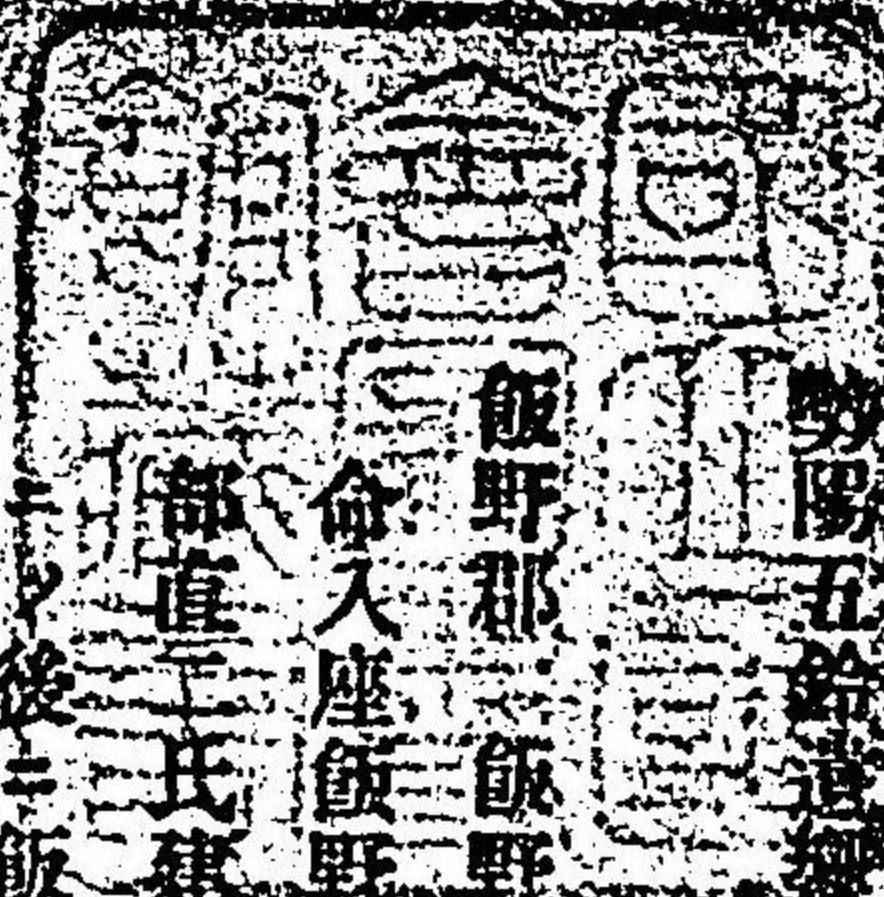
291.56

Y6265



223903

勢陽五給道繼飯野郡 全



飯野郡 飯野ト稱ス名義ハ舊ト飯高郡ニ隸リテ一郡ノ地ナリ 倭姫命世紀神服機殿條曰倭姫
命入座飯野高丘宮爾 作之機屋令織大神之御服 又曰難波長柄豐崎宮 孝乃御宇丙午年竹連儀
部直上氏建此郡云 云既ニ飯野ノ名アリ然レモ稱徳天皇ノ朝神護景雲二年禰宜五月麻呂所撰
ニト後ニ飯野ノ名ヲ填ルナリ延暦儀式帳云大津朝廷 智甲子年多氣郡四箇郡割 氏立飯野高宮
村屯倉爲公郡ト載レハ飯高飯野多氣度會ノ四郡ヨリ割分テ所置ニ似リ或ハ飯野多氣度會ノ
三郡ヲ指ノ道後ノ郡モ稱ス三重郡ヲ道前ト謂フニ對セリ 又飯ノ郡モ上世ハ舊典ニ載ス神
宮雜例集曰飯ノ郡新神戶宇多天皇仁和五年三月十三日勅一代之間奉寄寬平九年九月十一日
符奉永寄 太政官符 應以伊勢國飯郡寄大神宮事 右郡依去仁和五年三月三日勅一代之間
奉彼宮大納言正三位兼左近衛大將藤原朝臣時平宜奉勅自今以後永奉寄仍預官物舍等之類准
弘仁八年十二月格到符行 寬平九年九月十一日度會郡四百四十七烟多氣郡三百十五烟飯
郡二百十烟以上謂之神三郡又云道後世本多ハ飯野ニ作ル後人ノ誤リ加ナリ飯野ハ今格ルニ
飯高ニ准ノ偏ニ飯ノ郡ナリ野ハ助語ニノ阿濃今安濃ト轉スニ異ニノ平垣曠野ノ意ニハ非ス
然レハ前ノ勅制ノ如ク二字ニ填ンカ爲ナリ上世ハ約ノ飯ノ郡モ稱ス事煥然ナリ或云古事紀

云長田別王之子材股長日子王此王之子飯野眞黑比賣命云即長田別王ハ日本武尊ノ兒ナリ
 其女飯野比賣命ハ日本武ノ孫ニ本州ニ因アリ故ニ此神ノ所知スル地ニ飯野ノ名起ルナ
 ルヘシ愚按スルニ舊ト飯高飯野一郡ニ天智天皇即位三年ニ分割テ所置ニ據レハ其前ニ飯
 野ノ郡名亡シ飯野比賣ハ飯高郡ニ辨ス如ク飯ヲ崇重ノ神名ニ稱ス處ナレハ本郡ノ名ニ因ナ
 シ鑿說ナリ從ヒ難シ飯野モ飯高ヨリ分置スル處ニシテ飯野ノ名起レリ別ニ義ナシトイフヘ
 シ本郡受領ハ續日本紀云孝謙天皇天平勝寶四年九月辛巳伊勢國飯野郡人飯磨呂等十七人
 賜秦部姓三代實錄第四十四元慶七年冬十月廿五日甲戌伊勢國飯野郡神戶百姓秦貞成向官
 愁訴大神宮司大中臣貞世犯用神物並不理多氣郡擬大領麻績連公豐世故殺人事大政官擬遣使
 者推問事由左大史九部百世檢故實伊勢大神宮司有犯過之時不遣推問使下符國司令其推擯於
 是停遣使付伊勢國宰推察眞偽神風抄云飯野郡二段並宮御笥作内人徳成勞同所載有名未
 識封戸内官不世止御園一斗九月同羽禰御園二斗九十二月同長倉御園一石号越勝寺九斗
 九升六九十二月同古河御園五斗同柑子御園一斗九月同石河御園三斗同入江御園七
 升九月一堺御園一斗山田御園三斗平内御園内末松一斗外宮鞭出御園四丁二斗同
 佐福御園二斗菖蒲御園峯林御園外宮八田御園口戸御園英胡御園内宮大西御園
 眞奈胡御厨上河御園三十余町黒田平田牧兩御厨鴨田御厨員田御厨古瀬御厨外

宮神領目錄所載未識神封 鞭出御園六九十二一斗ツ、小鞭出御園三斗 佐福御厨九斗内六
 九十二三斗ツ、二升御園十二月一斗 堺御園神稅麥三斗此口入料麥三斗忌部神稅麥三斗
 神宮雜例集云司符飯野郡司可早任先例進上大神宮御遷宮祈天平賀造進穴祭物事鍬一口鋤
 一口鎌一柄木綿一斤木柴垣四丁麻一斤用紙一束鉄二廷清酒五升醴一斗散供米一斗綾六尺絹
 二疋信濃布一端調絹一疋綿一切白布一端燒木卅駄役專當一人右件祭物等任先例早可進上之
 狀下符如件宜承知不可達失以符大司大中臣朝臣在判維大司大中臣少司大中臣 仁安四年四
 月日 和名類聚鈔第六 飯野郡 乳熊 知久 兄國 江久 黒田 長田 奈加 漕代
 古以 神戶 凡テ六郷ナリ 今詳ニスルニ乳熊轉ノ中万ト稱セリ兄國ハ兄國アリ黒田今轉
 ノ黒部ナリ長田後世流田ト轉シ今ノ清水ナリ漕代ハ未詳今稽ルニ佐久目ノ隣比ニ古井アリ
 漕代ノ轉畧ナルヘシ神戶ハ山添アリ太神ノ遷幸ノ地ニノ神戶ノ稱明ナリ 古屋草紙櫛田郷
 ナ加ヘテ神戶郷ナシ非ナリ櫛田郷ハ後世私稱スル處ナリ東鑑ニ載タリ上世ノ郷名ニ非ス伊
 勢名所拾遺ハ長田神戶ノ二郷ヲ脱セリ各妄ナリ 本郡ノ疆域ハ東ハ東海ヲ限リ西ハ飯高郡
 界ヲ限リ南ハ多氣郡界ヲ限レリ北ハ一志郡界ヲ限レリ東西三里南北一里
 村邑 文祿三年 檢地 三十四邑
 正保二年 三十九村

明曆中雜記所載

四十一邑
小邑三村

元祿十三年

四十二邑

今計四十邑小邑十二邑合五十二村

正稅高

文祿三年檢地

二萬三千三百四十四石二斗七升

雜記所載

二萬三千三百二十八石九斗六升七合

内 七千七百四石二斗一升六合

畑方

外 四千九石四斗一升九合

新田

元祿十三年 二萬三千四百五石二斗五升四合

御麻生園

本郡ノ西ノ極界多氣及飯高郡界ニアリ 正稅五百十四石志摩州島羽領ナリ 屬邑

出屋敷本色ノ北ニアリ和名抄乳熊郷ニ屬ス 倭姬命世紀曰活目入彦五十狹茅天皇十八年己

酉四月十六日遷座阿佐加藤方片樋宮積年歷四箇年奉齋 中畧 然度坐時阿佐加縣 爾 多氣連等祖

宇賀彦子吉志姬次吉志彦二人參相奉 支 何者問給 久 汝等我阿佐留物者何止問給 支 荅白 支 皇大

神乃 御贊乃 林奉 止 伎佐志 乎 阿佐留 止 白 爾時曰事恐 止 詔而其伎佐志 乎 命進大神御贊而佐々

牟乃 本杉 乎 割取而生比伎 爾 字 氣比伎世良禮給時 爾 其火 乎 伎俚出而采女忍姬我作志天平元八

十枚 乎 持而伊波比戶 爾 仕奉 支 爾時吉志姬 爾 地口御田並麻園 乎 進二十二年癸丑冬十二月二十

八日遷飯野高宮奉齋四箇年 云 度會清在曰麻園ハ射和邑ノ隣郷御麻生園是ナリ今詳ニス

ルニ御ノ字ヲ冠タルニテ貢獻ノ麻園ナルコ煥ナリ古屋草紙云今ニ内宮ニ麻苧ヲ獻ストイヘ

リ然レハ神風抄ニ麻園ノ地ナシ後世其地名ノ舊キヲ遺失ノ御麻生園ト俗稱スルニヤ今御園

ノ稱ヘキ名ナシ麻ヲ貢獻スルニニ義アリ舊事紀云令麻續祖長白羽神種麻以爲青和幣復令津

姫見神種迫穀以作白和幣諸祭ノ料ニ所用ナリ又倭姬命世紀曰神服機殿因立神社於其地曰名

服織社号麻續郷者郡北在神此奉大宮神荒妙衣麻統氏人等則居此邑ト載ルニ據テ諸祭ノ幣料

ニ非ス荒妙御衣ヲ織ル料ニ獻リタルナルヘシ麻統ノ訓モ麻苧ヲ紡績スルノ謂ナリ 勢陽俚

諺曰紀師神社條機殿儀式帳云 畧文全篇ハ麻統ノ條ニ 如此ナルキハ此處長田ノ郷岸邑ナルヘ

シ此處ニ社ヲ建テ麻統社ト号又河崎社ト名ケタリト是隣邑ノ御麻園ナルヘシ此村名御園御

厨ノ外号スヘキ謂ナシ然レハ此邊ニ長田郷ト可稱據ナシ愚案郷庄共ニ一ナリ阿波曾村庄邑

御麻園村ト並ヘリ此村庄長田郷ニノ長田ノ庄ト唱ヘ上ノ二字ヲ省テ庄村ト名ツケ來ルナラ

ソ此處川俣川筋ニ岸川崎皆縁アル名ナリ飯野郡ニノ長田トイフヘキハ朝田邊ナレ右二

社ノ在スヘキ地ナシ此處飯野高宮ニ在セシキノ機殿ノ古蹟ナルコ決セリ又麻續神社ヲ井口

村ノ服部麻刀方神社相殿ナリトイヘリ此麻刀方神社ハ御麻生園ナルヘシ又麻續社ヲ御麻生園トシ麻刀方ナ井口村トスヘキヤ後賢ノ考チマツ 今詳ニスルニ紀師神社ヲ飯野高宮ノ機殿ノ後ニ遷セル地トスルハ邇シ御麻生園ハ麻續神社ノ地ニハ非ス長田郷ハ和名類聚所載ニノ後世ノ流田郷ニノ今ノ朝田ナリ其故ハ于後機殿遷岸村ノ文ニ據テ考ヘシ然レ岸村ハ阿波曾ノ舊名トイフヘキナリ紀師神社ヲ奉祀スルニ似リ又後醍醐天皇ノ朝ニ官軍愛曾氏アリ上世ハ岸村ニシテ後ニ愛曾或ハ阿波曾ト今轉訛セシモノナリト憶ヘリ猶上件ノ麻續神社一名河崎社ハ御麻生園ニアラス各條ニ論セリ 或云紀師神社ニ一ノ疑惑アリ愛曾國政裔孫伊勢守ハ紀氏ニテ武内宿禰ノ後裔ナリ紀師ハ岸村ノ謂ニ非スノ紀師ノ祖ヲ祭ル處也ト云妄ナリ國政ハ伊勢守カ遠祖トイヘレ垂水廣舒同前ノ時ナリ然ルニ建武以前ノ延喜ノ格式ニ紀氏ノ假音ニテ紀師神社タル謂ナシ荒唐ナリ強ヘシ前ニ論スル如ク建武年中ノ間ヨリ愛曾ト稱シタルハ後ニ愛曾氏ノ居セルニ據ノ名ナリ多氣窗螢ニ國政ノ名ヲ記シ又大平記ニ伊勢守ノ下ヲ載タリ彼ノ廣信諫爭錄ヲ著シ垂水ニ退ク重テ召ル、ニ及テ蛸路村ニ退ク今ニ子孫アリト古屋草紙及俚諺ニ引徵セリ今本郡蛸路ニ垂水吉兵衛某アリ累代津領ノ郷士ナリ此垂水氏ヲ舉ルトイヘレ恐クハ愛曾氏ノ後裔ニテ本郡愛曾モ蛸路モ近キ堺地ナリ後ニ蛸路ニ轉居セシナルヘシ同シク後裔ト稱スニ鑄匠アリ天命ト名ク垂水文次郎某產業トノ飯高郡驛部田ノ林

丘ノ間ニ鑄室ヲ造リテ鑄ル下野州佐野ノ天命氏ト同姓ナリト云ヘリ又近世常保善四郎某ト云鑄匠アリ次テ產業トス

庄村 御麻生園十三町十三間東ニアリ 正稅七百三十九石志州鳥羽領ナリ度會郡同名アリ乳熊郷ニ屬ス 古塚アリ石窟ナリ高一丈濶六尺許長七步許其故知難シ

阿波曾 庄村ノ九町東ニアリ舊名岸村或ハ愛曾ト稱ス今訓ヲ轉ノ阿波曾ト訛レリ 正稅五百六十九石志摩州鳥羽領ナリ乳熊郷ニ屬ス

式内紀師神社 同處川俣川ノ畦ニアリ方俗河原宮ト稱ス又中ノ宮ト云 祭神麻續屋比賣命射和村伊佐和社ヨリ西二十五町

水尾山藥師寺 同處ニアリ天台宗 本尊藥師如來 開山行基大士此刹ニ年ヲ歷テ住ノ本尊ナ彫シ靈驗ヲ遺ス寺僧アリ

子賣岳 同處河俣川ノ畦ニアリ不動岩或ハ子賣岩ト俗稱ス俚民ノ傳ニ子ヲ育スルニ生産ノ七日ノ間ニ其兒ヲ懷テ此岩下ニ到阿波曾ノ土人ノ始ニ來往スル者ヲ招テ幼名ヲ名ケサセ即名ツケ親ト稱シ酒魚及鮭等ヲ贈リテ來往ノ人ニモ進メ喫セシメテ家ニ歸レハ其兒長生ウルト云習俗アリ幼名ハ男名ニ不限各岩ノ字ヲ冠シメテ名クナリ

伊東山西弘寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗ナリ飯高郡諸末寺ノ中山ナリ 本尊阿彌陀佛

射和 阿波曾ノ東ニアリ河俣川ノ水厓ニ民居ス近邑ノ豪富ナル所ナリ方俗市鄙ノ如ク稱ス
乳熊郷屬ス 邑里ノ長六十三間アリ 射和ノ名義ハ伊佐和舊ト伊射和トモ書ス射ハ阿射加
ノ今阿坂ト云同例ニシテ伊佐和神社ノ舊名ニヨリ或ハ伊射和ヲ上畧シテ今射和ニ填ルナリ
民家五百戸

式内伊佐和神社 同處裏町ト云ニアリ 祭神未詳

首楞山蓮生寺 同處ニアリ 天台律宗 開山眞盛上人本州創建三箇ノ第二ニノ安濃津西來寺

成願寺ト同時ノ建營ナリ

伊禮寺 同處ニアリ淨土宗 本尊阿彌陀佛

射和寺 同處ニアリ眞言宗 本尊藥師佛

延命寺 同處ニアリ淨土宗 本尊阿彌陀佛

和傳往昔多氣國司北畠家ノ祈願所ナリ又北畠信雄ノ寄附狀ヲ藏ス表装ノ今ニ存セリ其文曰
以四目指郷之内永樂五十貫文令寄附畢永代可爲寺務者也

天正拾一年拾月 信雄印

延命寺

華押ナシ印ハ朱ナリ十月ノ拾ニ此ノ字ヲ録スハ奇珍ナリ年號ノ拾ハ往々舊案ニ見ル處ナリ

本宗寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗ナリ舊名信樂寺ト稱ス今更テ土呂御堂本宗寺ト號ス三
州渥美郡土呂ノ地ノ廢跡ヲ此ニ移シ寺號ヲ轉シタルナリ 村民輕粉ヲ燒テ四方ニ霽アリ多
氣郡四疋田ニテホツヅキト云土器ヲ製ス粉ヲ燒製ス具ナリ合セ土ハ畿内ヨリ運來テ其土ヲ
和シ製スルナリ舊ト丹生ニ水銀ヲ往昔堀出セシコアリ其遺製ナルヘシ舊キヨリ伊勢オシロ
ヒノ名ハ京俗モ稱セリ本州ノ産貨トスヘシ元祿年中ノ俳諧ノ地産ヲ記セシ毛吹草ト云キモ
載マリ

上蛸路 射和ノ北ニアリ乳熊郷ニ屬ス林丘ニ傍テ民居ス正稅 津領ナリ

屬邑大上 本邑ノ北ニアリ 楠林本邑ノ巽位ニアリ 萩尾 本邑ノ南ニアリ舊名蛸道又蛸

途ト記セリ 神鳳抄云内宮 道大藏山御蛸一石五斗 外宮神領目錄云萩尾御圍九斗

八田 上蛸路ノ巽位ニアリ 正稅四百二十三石津領ナリ 外宮神領目錄云治田御厨九斗内六

月三斗菓子九月十二月同 神鳳抄云治田御厨九斗

下蛸路 乳熊郷ニ屬ス八田ノ巽位ニアリ 正稅 津領ナリ

中万 下蛸路ノ南ニアリ松坂府ヨリ巽位二里正稅 津領ナリ舊名乳熊 屬邑上野本

邑ノ西ニアリ 神鳳抄云中万郷七十六町七段

式内石前神社 同所上野ニアリ生土神ノ域内五社並座セリ其左ノ祠ヲ石前神社トス祭神未詳

兄國村大分社ヨリ乾位三十町

并十

神生山乳熊廢寺 本邑ノ坤位ニアリ古刹ニノ今廢ノ纔ニ方三間ノ觀音堂ノミ存セリ

聖德寺 同處ニアリ聖德太子建立寺傳云本尊自作大神宮ニ奉納ノ後此ニ遷スト云

神山一乘寺 同處山嶺ニアリ天台宗大小乘兼學近江州坂本安樂寺末 本尊藥師佛

飯野高宮舊墟 此地ニ必セリ識者亮鑿スヘシ猶詳ナル考アレモ別記ニ載セテ此ニ零ス

仁木右京太夫義長墳 一乘寺境内ニアリ 南朝文中元年三月國司北畠顯能軍ヲ率テ仁木義長

ヲ擊リ敗純ノ此處ニ自刎ノ其骸ヲ葬ス地ナリ詳ニ安濃郡長野ノ條ニ錄ス

法田 中万ノ巽位ニアリ漕代郷ニ屬ス 正稅四百十石志州鳥羽領ナリ 神鳳抄土田御園土舊

訓ニ垣ニ同ク波爾トス或波布ト轉ス舊名ハ土田ニノ後世法ニ轉セシナリ

山添 中万ヨリ東ニアリ乳熊郷ニ屬ス 正稅五百七石津領ナリ 山林ニ副フテ民居スルノ名

ナリ舊記ニ山副ト錄ス

式内神山神社 今同處山上ニアリ村邑ヨリ八町石階ヲ登リテ到ル方俗山添大明神或神山明神

或論取明神モ稱ス 祭神未詳

安樂 山添ノ東ニアリ櫛田郷ニ屬ス 正稅百七十石津領ナリ安樂寺舊名ニノ今安樂ト略セシ

ナリ

安樂寺天滿宮祠アリ靈驗多シ

山下 安樂ノ乾位ニアリ櫛田郷ニ屬ス正稅百三十石津領ヨリ和泉領主ノ稱ヲ避テ後世ニ更

神鳳抄云内宮泉御園一斗九月

陰陽 安樂ノ東ニアリ田郷ニ屬ス正稅百十八石津領ナリ

伊賀町 山下ノ良位ニアリ官道ニ民居ス旅貨茶店アリ 正稅五百二十八石津領ナリ 或云豊

原ニ屬セリトス今賣饅店アリ詣人多憩食ス

豊原 伊賀町南官道ニ民居ス旅舍貨茶店多シ櫛田郷ニ屬ス正稅四百六十八石紀州松坂津領入

組ナリ旅客方俗櫛田ト稱ノ通名セリ舊ト櫛田ハ五六町許北ニアリトイヘモ古街道ニノ舊名

ノ地ナリ故ニ本郷ト名ク豊原ハ櫛田ト一郷ニノ後世街道ノ今ノ如クニ變スルニ據テ櫛田ト

私稱ノ通スルナリ 櫛田川ノ名モ然リ

五智堂 同處民家ノ傍官道ニアリ釋迦阿彌陀佛大日如來阿闍佛彌勒佛ノ五尊ヲ安セリ是ヲ五

智ノ如來ト稱ス

式内櫛田槻本神社 同處ヨリ二丁北裏ニアリ方俗御櫛社ト稱ス祭神未詳

櫛田 豊原ノ東六町許ニアリ 正稅千百七十二石津領ナリ今ノ豊原ノ舊ト一邑ニノ街道ノ後

世變ノヨリ賑富トナリタルナリ故ニ大櫛神社モ其地ニアリ今ハ豊原ヲ櫛田ト私稱シ本邑ヲ

大櫛田ト私稱ス

井十二

式内櫛田神社 同處四丁許南田間ニアリ櫛田槻本社アリ乾位十丁 祭神大若子命 櫛田ノ名義舊ハ竹田ト名ク處ニ御櫛落セシヨリ櫛田ト名ク倭姫命ヨリ後ノ名ナリ故ニ齋内親王伊勢ニ下向ノ群行ノキ大極殿ニテ天皇自御櫛ヲ齋王ニ賜ヒ再都ニ歸ルコ勿レト勅ノ齋王ハ群行アリテ此櫛田マテ出向ノキ其御櫛此川ニ捨サセ玉フ故事アリ是嚮ニ倭姫命ノ御櫛墮シ玉フ遺事ニヨレリト舊記ニ所載ナリ此櫛ソ別レノ櫛ト稱ス
千首 師兼

君と我わかれのくしのさしもなどふたゝひあわぬ中と成けん

本邦ノ俗夫妻ノ贈リ物ニ櫛ヲ送ラヌハ此縁ナリ

名寄 舊ハ家集
出ダリ

俊頼

君か住むくした川にや亂れたる髪のこゝろも打とけぬらん

櫛田川 今ノ官道豊原ト早馬瀬ノ間ニ流ル春冬ノ内ハ假橋ヲ架ス夏秋ノ間ハ舟涉ナリ本州二三ノ洪河ナリ砂川ニノ岳石ナシ本邑ノ坤位ヨリ東ニ流ル 水源ハ飯高郡高見嶺ヨリ流出テ多氣郡飯高郡ノ界ヲ經テ川俣川ト稱ス河俣七里ノ間ノ溪澗流合ノ粥見大石丹生及多氣郡飯高ノ間ニシテ津留村ニ津留川ト稱ス舟涉アリ本郡射知中万ニ至テ北東ニテ二派トナリ一

ハ稻木川ト稱シ稻木ニ至リ舟涉アリ前野及藤原ニ到テ東海ニ入ル一ハ安樂豊原櫛田ニ至テ櫛田川ト稱シ七見及松名瀬ニ至テ東海ニ入ル凡テ十七里許ノ長流ナリ往昔ノ御道ハ今豊原ノ官道ヨリ五六丁下流東ヲ涉リシナリ即今ノ大櫛田ノ地ナリ

清水 櫛田ノ東ニアリ長田郷ニ屬ス 正稅三百九石津領ナリ 神鳳抄云長田郷四十六丁五段三十歩和名類聚長田郷ナリ後世ノ流田ノ郷ニシテ此地ヨリ朝田ニイタリ古ノ長田郷ナリ長田ハ流田ノ轉ナリ

式内流田神社 同處伏拜ト云ニアリ方俗午頭天王ト稱ス生土神トス八王子トモ云 祭神未詳

立利村穴師社ヨリ十丁

流田上社神社 同處流田神社ノ西ニ舊墟ニアリ明曆中圖ニモ載タリ祭神未詳

菅生 清水ノ北ニアリ長田郷ニ屬ス正稅二百九十石津領ナリ

立利 清水ノ乾位ニアリ長田郷ニ屬ス 正稅九百二十一石津領ナリ 屬邑齋田本邑ノ西ニア

式内穴師神社 今俗同處ノ北田畔ノ間ニ杉社ト稱スアリ此ニ充ツ 祭神穴織神 上七見村奈

々見神社ヨリ十三丁

和屋 立利ノ坤位ニアリ長田郷ニ屬ス 正稅八百七十一石津領ナリ 翁塚ト云アリ

井十三

朝田 立利ノ乾位ニアリ長田郷ニ屬ス 正稅千四十九石紀州松坂領ナリ 神鳳抄云長田郷四十六丁五段三十步舊古流田郷ニノ和名抄ニ長田郷ニ作ル

式内意非多神社 同處朝田寺ヨリ二丁坤位ニアリ舊名森塚或天王塚ト云 方俗チサ田ノ社トス土ノ宮トモ稱ス 清水流田社ヨリ十町 祭神未詳 今詳ラカニスルニ雜記所載長田ノ郷ノ名ニ據テ忠宗カ靈ヲ祀レリト云又土ノ饒ヲ獻スルコトナトヨリ土ノ宮ナト、稱ノ附會ノ妄誕ハ不足論トイヘ凡式内崇祀ノ神社チ如斯兇賊ノ靈ニ汚蔑スルハ懼ル、ニ足レリ

光福山朝田寺 同處ニアリ 天台宗 本尊地藏尊半身枯木牡蛎殼チ着ケリ本堂五間半四面南向正面ニ石灯笼アリ巽位ニ手水鉢坤位井泉西ニ鎮守祠東ニ客殿庫裏廊下アリ寺傳ノ緣起ハ畧ス 今詮スルニ當寺開基行基僧正或弘法大師トモ云續日本紀チ閱スルニ空海誕生ハ行基遷化ヨリ二十五年後ナリ又延曆十五年緣起ニヨレハ本尊彫刻ハ空海二十三歳ノ時ニノ行基開創ノ地ニ空海本尊ヲ所安置トメ宜也古屋草紙ニ空海開山トスハ稍ク差ヘリ然レモ寺記ニ據レハ堂宇ノ所有ニ非ス練公長者ノ所創トセント欲ス志ニ似タリ空海チ開山トスモ又稱ヘリ其故ハ雜記ニ光福山朝田寺ノ号ハ空海ノ名ノ處ナリ孰レ寺記緣起ノ文ハ上世ノ所錄其質ノ野モミツヘシ朝田ノ名ハ後世ナリ然ルチ空海ノ名クトスルハ非ナリ又七月二十四日ヲ會式トスルハ練公長者ノ枯木感得ノ日時チ用ルヘシ領主ヨリ十石ノ免許地ナリ 國花万葉記

ニモ昔大師此處ヲ通ラセラレ鉞チ以テ作ラセ玉フ湖ノ干ル間ニ出來玉フ故塩干ノ地藏トハ申奉ル

宮田 朝田ノ北ニアリ黒田郷ニ屬ス 正稅二千九百石紀州松坂領ナリ 今大宮田ト稱ス公牒ニ然リ舊名ハ宮田井領ト稱ス永正年中舊案アリコレ今ノ古井ノ舊名ニシテ舊ト宮田ニ隸セル處ナルヘシ 屬邑西野 本邑ノ西ニアリ今西野ト稱ス佐久目 今佐久米ト轉ス本邑ノ坤位ニアリ 古井 本邑ノ北ニアリ明曆中圖ハ各本邑ニ隸セリ今ハ佐久米西野古井凡ニ一村ノ別ニノ公牒等然リ明曆後ニ割分置ナルヘシ各紀州領ナリ

西黒部 古井ノ北ニ海瀕ニアリ黒田郷ニ屬ス松坂府ヨリ東一里 正稅千百十石紀州松坂領ナリ 屬邑四ツ屋 本邑ノ西ニアリ 高洲 網屋 中村等アリ湊口アリ飯高郡河俣溪谷ヨリ所出ノ材チ此地ニ河俣川ヲ流シ運送ノコレヨリ四方ニ鬻ク處ナリ櫛田川ノ下流ニノ東海入ル處故ニ此連漕ノ便路ナリ陸ヨリ二町餘海中ニ大船ノカ、リアリ 食鹽チ燒テ出ス方俗黒部鹽ト賞ス 耕地ハ砂土ニシテ綿花チ多ク裁テ綿絮ヲ出ス或ハ木綿チ織リテ業トス屬邑高洲ノ地最勝レリト云高洲綿ト稱ス 神鳳抄云二宮黒部御厨四十三石當時東七百西八百 今稽ルニ七百八百ノ字解シ難シ疑ハ關文錯字ナルヘシ 外宮神領目錄云 黒部御厨三石内六月一石九月一石十二月一石

式内牟禮神社 同處ニアリ 祭神大中津日子命 朝田邑意非多神社ヨリ北へ三十町 本邑ノ北ニ一社アリ立付明神ト額掲タリ産社ナリ大概前輩此社ニ詣ノ足レリトス高六石一斗領主免除ナリ

又村落ノ良位ニ牛頭天王社アリ

又本邑ノ北ニ山王權現祠アリ

西蓮寺 同處ニアリ紀州領主ヨリ高二石免除ナリ

松名瀬 西黒部ノ東ニアリ黒田郷ニ屬ス 正税三百十九石津領ナリ 屬邑向松名瀬本邑ノ川

西ニアリ櫛田川ノ下流ナリ高橋ヲ架セリ西黒部ニ渉ル路ナリ此下流往昔ハ今ノ向松名瀬ヨ

リ西ニ流レテ西黒部ノ地界ヲ經テ東海ニ入シカ洪水東ニ流レテ今ノ地勢トナシテ故ニ本邑

ト向松名瀬ト此川ヲ隔テ居スルナリ其地ヲ方俗古河ト稱ス西黒部ト同ク村邑ニ墟庵アリ食

鹽ヲ出ス 久保 松名瀬ノ南ニアリ井手郷ニ屬ス 正税四百三十石津領ナリ 屬邑新開今出屋敷ト稱ス

本邑ノ川西ニアリ櫛田川ノ末流ナリ

魚見 久保ノ南ニアリ井手郷ニ屬ス松坂府ヨリ東二里 正税千五百七十五石津領ナリ 正名

魚海ナリ 屬邑川島本邑ノ良位ニアリ新開本邑ノ東ニアリ 門前本邑ノ東ニアリ新屋敷本

邑ノ乾位櫛田川ヲ隔テリ 神風抄云内宮魚見東御園三斗五升九月内宮魚見新御園二斗五升

神風徴古録云前御園ハ今ノ川嶋ナリトス

式内魚海神社 北魚見川嶋邑ニアリ本郡井口村麻績機殿ヨリ十八丁 祭神二座豊玉彦命豊玉

姬命月讀命荒魂 兩黒部邑ヨリ土手堤ヲ歷川橋ヲワタリ久保村ノ堤ノ上ニ登リ川嶋邑ニイ

タル字ハ墟ツ、ミト云處ニ坐ス 垣内田邑須磨比賣社ヨリ坤位八丁

高德寺 川嶋ニアリ國司北畠政郷ノ建立ト云今廢セリ

上七見 魚見ノ西ニアリ井手郷ニ屬ス櫛田川ヲ隔テリ 正税八百七十一石津領ナリ 神風抄

云七見散在神符名田

式内奈奈見神社 同處良位二丁ハカリニアリ方俗今社ト稱ス 祭神未々詳ナラス 櫛田社ヨ

リ二十町

康平寺 同處ニアリ 寺傳云後冷泉天皇康平年中奥州安倍貞任追討ノ調伏願所ナリト云今纔

ニ遺レリ

下七見 上奈奈見ノ北ニアリ 井手郷ニ屬ス 正税六百四十石津領ナリ

六根 魚見ノ巽位ニアリ井手郷ニ屬ス 正税四百八十六石津領ナリ 神風抄云外宮若菜御厨

八十五町二段三石 外宮神領目錄云若菜御厨三石六月一石九月十二月同ク 外宮神領記云

當時差定候調進七見村漕一籠魚見邑菜二籠ト菜ト漕ト二品ナリ神境ノ方俗モコレニ倣テ此
二菜ヲ戸々ニ正月七日朝粥ニ煮テ食セリ 内裏ニ献スルハ今モ山城州寺田村ヨリ七種ノ若
菜ヲ献スルナリ

保津 六根ノ東ニアリ井手郷ニ屬ス 正税四百二十七石津領ナリ 本邑ニ檜木笠ヲ造リ出ノ
四方ニ鬮ク今尾張州ヨリ木曾山中ニ産業トノ所造ノモノヲ多ク販ク

式内天香山神社 同處ニアリ方俗耕作ノ宮ト稱ス服部麻刀方神社ヨリ南五町 祭神ハ天千々
姫命 志貴村佐貴栗柄社ヨリ本邑ニイタリ産神ノ森ニ坐ス 腹太宇留布都社ヨリ北へ五町

中河原 保津ノ南ニアリ漕代郷ニ屬ス稻木川ト櫛田川ノ下流ノ間ニ民居ス故名ク 正税百二
石津領ナリ

井口 中河原ノ西ニアリ井手郷冠邑ナリ 正税二百二十五石津領ナリ
式内麻績神社 同處ニアリ方俗上館ト稱ス又麻績機殿或御機殿ト云田圃ノ中ニ三町四方森々

タル林中ニ坐ス保津天香山社ヨリ十丁許道傍ニ鳥居又杜ノ口ニ鳥居左ノ傍ニ領主奉行ノ高
札ヲ掲ク其次ニ祠部家其次殿宇葺葺ナリ右ニ折テ鳥居一基左ニ齋館正面本社鳥居瑞籬左右

八幡春日ニ社瑞籬ノ中ニ并座ス左ノ傍ニ機織殿其左ニ寅社奏社小祠二字アリ本社右傍雅産
靈祠土宮田三狐神小祠四字并立リ神木榎木二園ナルアリ 祭神未詳例祭正月十六日六月同

九月同四月十四日ノ神衣祭ハ中世廢絶元録年中一禰宜荒木田守洪再興シテ今ノ形ハカリノ
祭奠ニ纒ノ御衣ヲ織テ献スルナリ 今詮スルニ神服殿ハ服村ニ在ト載タルハ今ノ大垣内ノ
舊名ニテ又麻績殿ハ井手ノ郷ニ在ト載タルハ疑ラクハ村ノ誤ニシテ井手村ナルヲ今井口ト稱
スナラン郡名ノ差ハ例アリ服部麻刀方服部伊刀麻ノ兩社ニモアルヘシ又麻績ハ即麻績神社
ヲ填テ妨ナシ神名秘書雜例集所載ノ如シ然ルニ機殿儀式帳ハ殘篇ノミニテ全篇ナシ垂仁天
皇ノ朝ニ飯野高宮ニ遷座ノ時機殿ハ長田郷ニ建テ麻績及河崎社ト稱シ又後ニ岸村ニ遷スハ
岸ノ社ノ稱アルニ據テ飯野郡阿波會村紀師神社ノ地トスイマタ諸家不稱トイヘトコ、ニ標
的ス 其所謂服部ハ和妙ノ御衣麻績ハ荒妙ノ神衣也服ハ絹ヲ貴フ春冬ノ服也夏秋ノ服也猶
服部ノ地ハ服部麻刀方ニシテ万葉集所詠ナリ其舊キヲ貴ヘリ故ニ其舊址トシテ麻績ノ井口
ハ後世ノ所置ノ地ニシテ明徴也 因云神祇令所載三河國赤引御調糸ハ遠州敷智郡岡本村ニ大
神宮初生衣料ノ神戶二十九石八斗二升慶長八年九月二十三日ノ 台命ヨリ歷代今ニイタリ
テ御朱印ヲ載此人假名ナシ神目代トノミ稱シ來レリ享保七年三月七日祭主大中臣德忠
造宮使トシテ下向ノキ大宮司ニ淹留ノ間神目代參謁ノ代々ノ朱印證文等ヲ出シ假名ヲ乞フ因
テ以後ハ神目代主稅ト名クヘキト德忠ヨリ命ス然ルニ赤引糸ハ繭ノ糸ト惟ハルニ洛東幼阿
遠江記ヲ看テ檢スルニ今ハ麻ヲ績テ布ヲ織ルナリ幼阿此地ニ到テ錄セシナレハ妄ナルニモ

非ルナリ然シナカラ三河ト式ニ載セテ遠江ニ其地ノアルモ疑アレ上世國郡ノ差ハ多クア
 レハ万葉ノ例ニ倣フテ見解スヘシ又赤引糸ノ考アレトモコ、ニ畧ス 今ノ井口ノ地ハ承暦
 年中宣旨ニ據テ移シ造ル所ナリ雜記所載ト其祠部麻績氏ノ傳ト年月ノ差ヒアリ又神服機殿
 御政印麻績機殿御政印何ノ時ヨリ居置レシ其徵詳カナラス神服機殿ハ紛失ノ嘉應年中造リ
 改トイフコト神宮雜例集ニ載タリ當社ノ古老樹ハ天正年中松坂城經營ノキ浦生氏命シテ伐ラ
 シム故ニ下館ヨリハ老樹スクナシ 寶永七年領主藤堂和泉守其臣朱雀頼母須知彦之丞ニ命
 ノ二人ノ連署ノ制札ヲ社域ニ建シメ又享保三年此二氏封内ヲ巡檢スルニ後代社宇ノ斷絶セ
 シテ憂テ公侯ニ白シ永代兩機殿ニ修理料新田三十石ヲ寄ス兩神部左門久古右門久富ニ令セ
 ラルヨリ今ニ至リテ然リ 隣比ノ村邑十六郷ヲ方俗御米郷ト稱スルハ神衣織作ノ奉獻ノ名
 ニ據レリ 兩御機殿ノ事蹟ハ倭姫命世記神宮雜例集延喜式大神神衣祭條延曆儀式帳三代寶
 錄第七貞觀五年八月十九日條神名秘書百諫抄崇徳帝保延二年正月條神祇令神宮雜事記天喜
 四歲九月條等ニ載タリ

高木 井口ノ坤位ニアリ漕代郷ニ屬ス 正稅五百五十五石津領ナリ 此上世ノ街道ニノ櫛田
 ヨリ櫛田川ノ涉口ナリコレヨリ東ノ稻木川ヲ涉リ多氣郡坂本ニイタリ齋宮ニ入ルノ順次ナ
 リ 高木ニ三郷アリ 別所出屋敷本里ナリ 本里ヨリ北ニ石田坪ト云處アリ四地ナク古昔

大神宮へ柳葉ヲ獻セシト云今ハ廢ス併神宮ニ其所傳ナシ稽得カマシ

式内神垣神社 同處字出屋敷ニアリ方俗産社ト稱ス 祭神未タ詳ナラス 延喜式本郡四坐ノ
 内ナリ

早馬瀬 高木ノ西今ノ官道櫛田河ノ東ノ水涯ニアリ 漕代郷ニ屬ス 正稅二百三十石津領ナ
 リ 古昔ノ櫛田ヨリ街道ノキ驛馬ノ停止スル處ニノ齋内親王及公卿勅使例幣使等ノ櫛田ヨ
 リ高木ニ歷玉ヲキ伊勢國司ノ祇承ヨリ大神宮檢非使ノ祇承ノ辭シ迎フ地ナレハ傳馬ノ次カ
 ヘル處モアルヘシ其驛傳馬ヲ置ク處ニノ瀬ハ河涯ノ謂ナルヘシ 驛傳馬古典ニハイマト訓
 ス日本書紀延喜式等ニ出タリ 令儀解職員令曰凡給驛傳馬皆依鈴傳符尅數事速者一日十驛
 以上事緩者八驛云 東鑑第十四建久五年十一月八日乙未早馬上下向並御物匹者彼支配海
 道驛驛十宿分八人小宿分二人云 云是日者雖被沙汰置之新宿加之間重及此儀云 同第五
 十弘長元年二月二十五日丁巳海道驛馬御物送夫事御使上下向每度依犯定數爲土民及旅人愁
 之由頻達上聽之間今日所仰六波羅也其狀云

早馬ノ事

宿々被定置二疋之處雖非急事近年連々下向之輩或三四疋或四五疋申載著帳煩役所於路次致
 狼籍之由有其聞尤不便也自今以後非殊卒爾之事之外可任先例之狀依仰執達如件

文應二年二月廿五日 下畧

廿二

今詳ニスルニ早馬ハ東鑑所載ハ今驛舎ノ非常卒急ノ用馬ニノ早駟ノ馬ノ如シ驛馬ノミノ謂
ニアラス後世ハイマノ訓ヲ轉ノ早驅ノ事ニ庸ヒシナルヘシ然レトモ古訓ハ驛馬ニ通ノ稱ス
處ナリ

目田 早馬瀬ノ坤位ニアリ漕代郷ニ属ス 正税三百七石津領ナリ

横地 目田ノ坤位ニアリ漕代郷ニ属ス 正税四百四十五石鳥羽領ナリ菴藝郡同名アリ

伊勢場 横地ノ巽位ニアリ早馬瀬ヨリ九丁五十間坤位ニアリ 漕代郷ニ属ス 正税三百一石

志州鳥羽領ナリ

稻木 早馬瀬ノ南ニアリ 正税七百六十五石志州鳥羽領ナリ 属邑小稻木 本邑ノ西ニアリ

旅食貨茶店多シ漕代郷ニ属ス 神鳳抄云中稻木御園内宮稻木神田一石二斗九十二月又内宮

池田神田一石九十二月同處攝池田御園一斗

式内大櫛神社 同處官道ヨリ巽位叢林ノ間ニアリ方俗竹塚ト稱ス 祭神大稻與命

稻木川 稻木ト多氣郡金剛坂村ノ間官道ニ流ル水源ハ飯高郡河俣谷ヨリ出ル處櫛田川ト同派

ニノ本郡法田ニノ分流ス官道ヨリ高木多氣郡坂本ノ間ヲ歷テ本郡中川原ノ東ヲ流レ多氣郡

ニ入テ前野藤原ニイタリ東海ニ入ル今ノ官道ニノ舟涉アリ冬春ハ舟ヲ架ノ假橋トス方俗拔

川ト稱ス例幣使ノ禮稔ノ地ナレハ名ク又舊名ハ磯部川ト稱ス多氣郡ノ所在ニノ上世竹連磯

部直等カ所知ナレハ磯部ハ此地ノ名ニノ地名ヲ冒ノ川ニ名クルナリ或櫛田川ヲ磯部川ト稱

スルハ非ナリ倭姫命世紀云御櫛落給 支其所 乎 櫛田 止 号此ニ據テ櫛田川ト稱スルハ著明ナリ

又多氣川ト稱ス多氣ハ和名類聚多氣郡竹ト注スルカ如ク多氣郡ニ所在ナレハ名ク及竹川

ト稱スルモ同義ナリ今多氣郡竹川邑アリ此ト別ナリ然レモ多氣川ノ南庄ニアル處ノ邑

村ナレハ竹川ノ名モ此川ニ據テ名ツクナルヘシ

延喜式云凡祈年月次祭使參入者大神宮司ノト部祇候多氣河解除 セヨ 江次第云多氣河稔大

神宮司儲稔物又伊勢祇承於下見橋退去渡櫛田川大神宮檢違使可祇承多氣川稔下樋小河或云

停鈴聲神領與國領之界也件河在齋宮東 神宮雜例集云飯高郡下樋小河此稱神之邊堺常入參

大神宮驛使鈴口寒飯野郡磯部河稱神近堺内宮延曆儀式帳モ同文ナリ 又曰長曆三年三月十

三日宣旨稱二所大神宮禰宜等自今以後不得入京若有背此旨之輩永停止見任若有可訴事者權

禰宜一人聽上道丁慶安二年外宮引付曰 舊 正禰宜越禁河 今竹川 不可他國上京但或依病氣致湯

治或不得止之子細於有之者縱雖有舊例自今以後者不觸祭主而他國上京堅可停止事 雜記所

載 稻木ノ涉ヨリ三丁許東ノ林中ニ社アリ伊勢祭主二宮ヘ祭禮ニ罷リ侍ル時コ、ニテ櫛稔

ト云フアリ櫛ハ山田岡本ヨリ進獻スル恒例ナリ 名所圖會今ノ往來ヨリ北ニ古道アリ昔ヨ

廿三

リコ、ニ勅使ヲ迎ヘ奉リ稜ヲ修スル式アリ故ニ祓戸ノ森ト云處モアリ今ハ宮川テ其式行ハル齊宮群行ノキモ前鎮ノ祓アリシナリ 今詳ニスルニ古昔ノ涉口ハ榑田及高木ヨリ多氣郡坂本ニ至ル古街道ニノ今ノ官道ノ稻木川涉口ヨリハ七町許東ヲ涉リシナリ其南ニ林中ニ祓戸ノ森ト稱スル處式文ノ如ク河禊アルニヨリ雜例集及儀式帳ノ遠近ノ堺ヲ得タルモ此多氣川ニ決スヘシ上世ハ此河及榑田河等ニ公卿勅使例幣使ノ時ハ舟橋ヲ架セシニ神宮ヨリ修營ス舊式アリ今ハ公私領故ニ神領ヨリカ、ル例モナシ故ニ今ハ此處ノ禊事ヲ豐宮田ニ修スルナリ然レハ豐宮川ヲ神領國領ノ界域トシ上世ノ下樋小川及多氣川ノ遺例ニ倣テ禁河ト稱シ正員ノ禰宜ノ漫リニ他州ニ趨ルヲ禁セリ雜記所載ノ祭主祓禊ノ櫛ヲ進スト云ハ妄傳ナリ其徵ハ式文ニ檢スル亡シ猶舊古ノ街道今ト異ナルニ據リ多氣川下樋小川ノ名モ遺失スルニ至レリ 又名所拾遺云幸ノ橋再拜橋ト云幸橋説々多シ古老傳ニ稻木川ノ東ニ稜川トテ祭使參向ル此處ニテ祓アリ其東ニ土橋アリ是ヲ再拜橋ト云トソ

名奇

大宰大貳高遠

たのもしき名にもあるかな見て行はまつさいわひの橋を渡らん

神祇百首

元長

祈りつゝ猶幸ひの橋柱たつ名もくるしおもひやまはや

紀由章追考曰此哥ハ伊勢國ノ哥枕ニ再拜橋ヲ幸ノ橋ト讀タル姿也凡テ倭哥ハヤワラカク假名ニ書クナレハさいはひ幸ナルニヤ侍ラン 今詳ニスルニ名所拾遺所載ノ駁雜ノ説多シトスハ今ノ稻木ヨリ七丁許良位ニ其祓禊ノ舊址トスル祓所ノ森ノ東ニ上世土橋ヲ架セリソノ橋ヲ再拜橋或幸ノ橋ト稱スノ舊説アリ其再拜ノ名ハ祓禊ノ處ニ據レリ又幸ノ名ハ上件紀由章名所拾遺追考ノ如ク和哥ニ言ノイヒカケナリ然レモ又一説アリ 飯高郡下樋小川橋モ再拜橋トイヘリ 内外宮諸社記云皇大神之宮所覓足幸坐時竹川 止爾川有利橋有利川橋毛古者大長加利毛留爾今者川毛阿勢橋毛失只黑木打渡志天倭姬命此橋爾氏御禊坐毛留土會其名下樋ノ橋下樋小河 止云毛留乎再拜橋 止云其時倭姬命天津宮事大神呪乎唱給比再拜八開手有之故名多利云云 又此橋ノ杭古ク遺リタルヲ削リテ小兒ノ夜啼ノ呪ニ用レハ驗アリト云所傳アリ然レモ今下樋小川ニモ上古ノ往還モ絶テ其川ノ禊事モ廢シタレハソノ地ニ橋ヲ架セルモナシ唯遺名ノミ存セルヲ此ニ標出ス

雜記云 竹川

哥枕

よみ人しらす

たけ川の橋のつめなる花園に我をはゆるせめさしたるへて
此歌ゆるせといふをならへと替て催馬樂ノ呂歌ニウタフトナリ心ト同シトイヘリ河内國ニ

同名アリ其竹川ヲ詠タルト梁塵秘抄藻蘆草等ニ謂ヘリサレト當國竹川ニ今ニソ絶ケレ齋宮ノ座セシ昔ハ橋モ有シト也其近キ邊ニ今モ花園ト云處アリ皆土民ノ田地ニ耕タレハ古ノ花園ノ跡ノシルシトテ椿ナト遺シ置リサレハ竹川ノ橋ノ詰ナル花園ト詠セシハ此竹川ノヨク適ヒテオホヘケレハ古ノ竹川ノ哥コ、ニ言傳ヘケルナラン

名寄

竹川やゆた野を見ればはるくと山田の原の松はくもれり

今稻フルニ名寄ニハ長明ノ詠トス追考ニハ降心法師トス名所拾遺花園ノ舊址ハ齋宮ノ北ニ古道ト俗稱スルトコロアリ多氣川ノ南涯ニハアラス稍ク隔テリ

名寄

源順

神代より色もかはらす竹河の世々を君にろかるへ渡らん

以上三首ハ各本州ノ所在ノ竹川ヲ咏スナルヘシ後ノ二首ハ未詳

家集

みつね

紅葉、の流るゝ時は竹川のふちのみどりも色かわりけり

夫木

定家

後に又誰か來て見ん竹川やむすふ車も紅葉ちるなり

度會清在曰河禊ノ事久ク絶タルニ承應二年九月十四日例幣使參向ノ時橋村度會正滿大宮司ノト部代トノ櫛田川ノ禊勤仕セリ宮川ニハ龜田度會末之禊禊再興セリ今惟フニ多氣川ニ非ス櫛田川トスルハ式文ニ差タルニ似リ名蹟聞書等ニモ載タリ上件所載ノ竹川ハ今ノ竹川村ノ事蹟ニ非ス故ニ此ニ標出ス竹川ノ邑ハ後世所置ニノ多氣郡ニ出ス其條ニ併稱スヘシ

飯高郡 飯高ト稱スル名義ハ飯野ト同ク舊ト一郡ニ隸ルノ處ニノ後ニ分置セルナリ倭姬命世紀曰活目入彥五十狹茅天皇二十二年癸丑冬十二月二十八日遷飯野高宮奉齋四箇年于時飯高縣造祖乙加立知命汝國名何問給白^久意須比飯高國^止白^而進神田並神戶倭姬命飯高^{志止}白事^{貴止}悅給^支其意須比ト謂フハ古事紀曰此八千矛神將婚高志國之沼河比賣幸行之時到其沼河比賣之家哥曰 夜知富許能加微能美許登波夜斯麻久爾都麻々岐加泥氏登富斯故志能久邇々佐加志賣遠阿理登岐加志氏久波志賣遠阿理登伎許志氏佐用婆比爾阿理多々斯用婆比邇阿綿加用婆勢多知賀遠母伊麻陀登加受氏淤須比遠母伊麻陀登加泥婆^{下累}同中卷美夜受比賣歌云 和賀祁勢流意須比能須蘇爾同下卷女鳥王歌曰 婆夜夫佐和氣能美淤須比賀泥萬葉大伴坂上部女祭神歌曰 手弱女之押日取懸 外宮延曆儀式帳曰大物忌无位神主岡成女着明衣木綿手次前垂懸^氏天押日蒙^氏洗手不予之^氏二所大神乃朝大御饌夕大饌乎日別齋敬仕奉又延喜大神宮式御裝束中曰帛意須比八條長二丈五尺同度會宮御裝束中帛絹忍比四條各長三丈五尺廣二幅又正中年中御傍記云綾忍比弘一幅ト記ス本居宣長曰其狀ハ一幅二幅ニモアレ最長キチ後世ノ婦人ノ被着タルサマニ頭ヨリ被リテ左右ニ垂レ下ノ帶ノ邊ニテ取違ヘテ腰ニ絡ヒ前

ニ廻ノ結ヒ端ハ禰ヘ垂ル、ナルヘシ上代男女^氏ニ人ニ知レシト而貌ヲ覆ヒ隠ス料ノ服トミヘタリ契冲曰意須比ハ結緒ノ轉ナリトイフハ非ナリ然ルニ奈良朝廷ノ比ハ男ノ着ルコハナク婦人ノ古ノ禮服ノ如クナリテ祭祀ノ時モ着ケルナルヘシ有職家ニカクシ衣ト稱ス名アリ是上古ノ制ノ遺名ナリ或說飯高國ノ冠辭ニ負セタルハ延曆儀式帳ニ所載如ク坤日蒙リテ大御饌ノ飯ヲ高ク盛ナセルモ上古ノ遺習トノ飯ノコニ據テ此郡ノ名トスト謂ヘリ案スルニ倭姬命世紀ニ意須比飯高國トアルハ儀式帳ヨリ以前ニノ器食ニ物ヲ盛ルチ方俗余會布又意會布^氏謂フ其謂ニテ意會比タル飯高シト云意ナリ此ニ所謂ノ忍比ノ事ニハ非ス飯食ハ生命ノ本基故ニ神世ヨリ物名ニ誠ノ負ス處多シ莊子馬蹄篇曰赫胥氏之時民居不知所爲行不知所之含哺而熙鼓腹而遊又荒政要覽曰倉廩實乃知禮節衣食足乃知榮辱禮生於有而廢於無其飯高ハ前漢書食貨志曰卵貴^氏賤ト謂フ其糶フノ價ニ非ス生命ノ基タルヲ貴重スルノ謂ナリ本郡ノ名コ、ニ據テ起レリト謂ヘシ古事紀曰天押帶日子命御眞津日子訶惠志泥命即孝照天皇八子娶尾張連祖興津余會命之妹余會多保比賣命所生御子天押帶日子命者伊勢飯高君壹師君等祖續日本紀聖武天皇天平十四年夏四月甲子飯高君笠目之親族縣造等皆賜飯高君姓 同十七年正月乙丑飯高君笠目從五位下 同天平寶永四年春正月乙卯高野天皇及帝^廢幸大師第授飯高公笠目正五位下賜倍從五位已上錢 同五年六月己卯正五位下飯高君笑因藏昆登於酒美從

五位上同天平勝寶四年十一月辛酉伊勢國飯高郡人正八位上飯高君家繼等三人賜宿禰 同光
 仁天皇寶龜元年十一月己未朔授從四位下飯高宿禰諸高正四位下同六年夏四月丙子授正四位
 下飯高宿禰諸高從三位 同八年春正月甲戌從三位飯高宿禰諸高年登八十勅賜絕八十疋絲八
 十約調布八十端庸布八十端 同五月戊寅典侍飯高宿禰諸高薨伊勢國飯高郡人也性甚廉謹志
 慕貞潔聖奈保山天皇御世直內教坊遂補本邦采女飯高氏貢采女自此始歷仕四代終始無失薨時
 八十 同九年正月癸巳右衛門士府生少初位上飯高公大人左兵衛大初位下飯高公諸九二人賜
 始宿禰 同天平十年九月甲寅伊勢國飯高郡人无位伊勢國直族大江授外從五位下 同神護景
 雲元年十二月丁亥伊勢國飯高郡漢人部乙理等三人賜姓氏忌寸 文德實錄卷四仁壽二年正月
 戊辰朔壬午從四位下春澄宿禰爲但馬守飯高朝臣永雄爲播磨介 同正月甲午從七位上飯高朝
 臣在世无位春原朝臣内子並授從五位下 卷六齋衡元年三月辛卯朔戊戌從五位下丹堀真人氏
 永爲諸陵双飯高朝臣永雄爲刑部少輔 三代實錄卷七貞觀五年正月七日庚午授散位從五位下
 飯高朝臣永雄從五位上 卷八齋衡三年冬十月辛未朔辛卯從五位下飯高朝臣永雄爲主祝双
 卷十天安二年三月壬戌朔丙寅囚獄司正六位上飯高朝臣氏文少令史從六位下中臣習宜朝臣
 弘門等下刑官而斷其罪也 同五月辛酉朔辛未飯高朝臣永雄爲尾張守 三代實錄第八貞觀六
 年正月十六日癸卯散位從五位上飯高朝臣永雄爲丹波守 全第二十三貞觀十五年二十九日壬

辰散位外從五位下飯高朝臣貞宗披訴貞宗不可賜外階於是刊除外字改賜從五位下告身 三代
 實錄卷二十四貞觀十五年十二月壬辰越前國敦賀郡人右大史正六位上伊部造豐持賜姓飯高朝
 臣即改本居貫左京五條三坊其先出自孝照天皇皇子天足彦國押人命也 多氣窗螢曰ひかし飯
 高武藏塚といひ武士は名を忠友といひ鎌倉のされものなりりれか子太郎忠郷といひけるも
 の廣舒か集の序は書たり其文云躬是從四位上伊勢の大江の齋州正は三州第一之鴻名云々大
 江か事いまた詳かならず姓氏かきたるものにもみぬす上官おもふに大江氏なるや 今詮ス
 ルニ天平十年九月伊勢直族大江ノ事蹟續日本記ニ載マリ 神風抄云飯高郡神戶百九十三丁
 三段御神酒三岳長薙廿四枚祭料並造酒米十八石三斗懸刀稻四十束端裏薙十四枚長薙六枚年
 魚郡所當御神酒米一石薙六枚御稻米二十七石一斗在糶斗八石異本四十石二斗祭料並造酒米
 十八石云 類聚和名抄第六飯高郡上牧加無都比良 下牧 丹生 爾布 英太 阿加多 立野 多
 千乃 驛家 神戶 上牧ハ今牧三郷ト稱ノ上牧下牧中牧アリ牧ノ字麻伎ト訓ス後世ノ轉ナ
 リ多氣郡ニ隸レリ 丹生即丹生村アリ 英太縣ナリ今阿形ニ轉セリ 立野立野村アリ 驛
 家ハ上世ノ飯高驛ニ今石津村ナリ一志ノ驛ヨリ齋宮ニイタルノ順次ナリ神戶ハ今下村ニ
 ノ其隣比ニ六邑ノ屬郷アリ本郡界域ハ東ハ海瀨ヲ限リ西ハ大倭州宇陀吉野二郡ヲ限リ南ハ
 飯野多氣度會三郡ヲ限リ北ハ一志郡ニ限レリ 本州疆域行程 本郡舟戶ヨリ大和州吉野郡

杉谷村へ一里二丁五十六間紀州和州ノ街道ニノ高見越ト稱ス高見嶺堀切アリ二州ノ堺ナリ
 又鳥居アリ船戸ヨリ三十三丁十八間又杉谷ト船戸ノ間鬼木茶屋アリ二丁六間ニ一里塚アリ
 又船戸ヨリ和州宇陀郡檜卷村へ一里十二丁乾位ニ山路アリ又本郡多羅木ヨリ和州宇陀郡土
 屋原村へ一里三十一丁十八間溪澗四十一處難嶮牛馬不通歩荷ハ稍ク通ス本郡波瀬村ヨリ大
 和州宇陀郡土屋原村へ二里十丁十八間難處牛馬不通又本郡月出ヨリ和州宇陀郡上村へ一里
 二十七丁五十四間及和州宇陀郡大森へ一里二十四丁五十一間嶮路曲賜ノ地九十九ヶ處アリ
 其徑ヲ經ルニ艱苦甚ク忽白頭ト變スルカ如シ故ニ方俗白髮越ト稱ス雜記所載シカラシ越ト
 云ハ非ナリ韋誕カ凌雲ノ額ヲ寫スト同譚ナリ又本郡富永ヨリ和州宇阿郡神末村ノ内杣谷へ
 二里二十七町三十間牛馬不通又本郡桑原ヨリ和州宇陀郡菅野村ノ内大森へ二里三町五十間
 嶮路牛馬不通ナリ 神風抄云飯高野郡一丁字ハ阿良木神田勢海神事料所 神風抄所載有名
 未識神封戸 内宮牟右山神田 同深田御園 内長峯、、有重神田 二宮光用、、内宮
 薦御厨深田新御園 内宮大矢御厨 同高志御園 同若松、、同提御園 同久米、、宗
 重神田 芝井御厨 眞良、、外宮梅田御園 光用名忠越御園 内宮松山御厨 岩藏御厨
 會田、、櫛比、、河南河北、、神田玉垣荒田 近吉御園 本忠光 忠光名 光吉
 忠越新光吉 春光新光吉 永萬御厨 正延永方 藥丸得光名 得重 春丸開田得光 久

富名 永重 成忠 犬丸 光富 成清 荒田河原 豐富安富 武國友武 忠近 清成 泚
 藏御園 宮野開田 清松田枚 外宮忠近御園 比那田 外宮日井御厨同園 白加志、、
 平田御園 酒木、、入江、、富基、、堺、、松尾、、位田、、内宮上津原、
 、神戶名田 守忠 成忠 武清 永平 犬丸次男名 得光 福富 武本童子丸 同岡童
 子丸 信田童子丸 釋尊寺返童子丸 童子丸次男 牟山神田 吉永 本福延 福永 五覺
 院 安樂寺 禍社 久富 延吉 餘戸寺 外宮神領目錄所載未識封戸 外宮領光用御厨三
 石六月一石後同前 梅田、、一石五斗六月五斗後同前 日井、同上 忠近御園三石内
 六九十二一石宛 松山御厨六石此外於上分三石 境御園九斗 深田御園三斗 松尾御園五
 斗 福末神田 上分三石 位田御園 永用神田一丁二反
 村邑 文祿三年檢地六十八村 正保二年百二十八村 明曆二年雜記所載百十二村 外小邑
 四村 元祿十三年百十四村 今計百八村 外小邑七十四村 合百八十二村 松坂府城町一
 處

正稅高 文祿三年檢地三万八千七百九十七石三斗六升三合 雜記所載四万三千七百四十八
 石七斗三升三合 内三万二百一石四斗四升一合 田方 一万三千五百四十七石二斗八升八
 合 島方 外四千百三石四斗七升八合 新田 元祿十三年四万六千四百八十六石七升七合

船戸 本郡西ノ極界ニアリ大和州吉野郡界ナリ正税二十三石紀州松坂領ナリ屬邑 鬼木 茶
屋高見嶺ノ中ニアリ 八木カ谷高見嶺ノ麓ニアリ本邑ノ西ナリ 所傳云鬼木ノ稱ハ往昔此
茶店ヲ建ルトテ巨樹ノ槐一株ヲ用テ全材ニ剪採リ所建ナリ故ニ槐ノ字ヲ分テ鬼木ト稱ス名
アリト口碑ニ謂ヘリ

高見嶺 本邑ヨリ大和州吉野郡竜門庄杉谷村ニ至ル此嶺ノ南ヲ經テ和州ニ入ル街道也山坂ノ
中間ニ鳥居アリ船戸ヨリ嶺ニ至リ二十三丁本州和州二國ノ界ナリ高見嶺越ト稱ス松坂府城
ヨリ國界堀切マテ十四里二十六丁四十八間アリ 古屋双紙及拾遺等舊名去來見山引万葉石
山大臣歌曰 吾妹子訶去來見能山乃高見訶見毛日本能不見國遠可聞故ニ後世高見ト稱ス
此證ナリトス 今詮スルニ吉野郡ニ行駕在シ南朝ノ帝朝ヨリ伊勢神宮及本州ノ國司等ニ勅
使及軍使ノ往還ハ此路ナルヘシ故ニ今モ本郡ニノ大道ナリ然ルニ前説ハ石上大臣ノ大和州
ノ都ヨリ伊勢ニイタルノ時古郷ノ妻ヲ愛慕ノ咏ル處ナレハ此嶺ノ所名トスルハ恐ク發明ニ
似テ臆斷ナリ吉野帝朝ヨリハ孰レ上世添上下及西郡ニ及テ帝域ノ時ハ凡テ伊賀州ニイタリ
本州一志郡一志驛等ニ至リ今ノ阿波越ナリト謂ヘシ此嶺經テ到ルハ甚迂遠ナリ猶万葉第一
ノ題辭曰日本紀曰朱鳥六年壬辰春三月丙寅朔戊辰以淨廣肆廣瀨王等爲留守官於是中納言二
輪朝臣高市麻呂脫其冠位擊上於朝重諫曰農作之節車駕未可以動辛未天皇不從諫遂幸伊勢五

月乙丑朔庚午御阿胡行宮石上大臣從駕作歌告妹子乎去來見乃山乎高三香毛日本能不見國
遠見可聞此時持統天皇大和州藤原宮ヨリ伊勢ニ行幸ノ時從駕ノ時ノ歌ナリ藤原舊址ハ今高
市郡大原村ニアリ然レハ伊賀州ニイタルヲ近シトス又此高見山ハ和州吉野郡小川庄平野村
ノ東ニ登テ舊名高角山ト稱ス天狗巖獅子崑及冠巖等ノ奇巖此嶺ノ南ニアリ又延喜式内高角
神社山嶺ニ坐今ノ高見明神是ナリ故ニ高角山ト稱ス俗説ニ蘇我入鹿臣ヲ祭ルト云ハ非ナリ
然ルニ高見ハ俗稱ニシテ本州西南ノ高嶽ヨリ和州ヲ眺望スルノ謂ニノ名ク處ナルヘシ後ノ
哥ハ伊勢名所拾遺ニ載ス

顯朝

夫木 尋來ていさみの山の紅葉、の時雨にあへる色のてこらさ
新六帖

咲ぬらんいさめの山のさくら花霞はよりに立へたつとも

紀由章名所拾遺追考云万葉考曰イサミノ山テフハシラヌニ式ニ伊勢國多氣郡伊佐和神社志
摩國答志郡伊佐婆神社ナト云モアレハ此國ノ中ニ伊佐美ノ山テフモ有ヘシニヤ猶山ヲ
雀衣着猶ノ山ト云類ニテ佐美ノ山テフ有ルニイサミト謂カケシニヤト云 稽ルニ眞淵万
葉考ヲ引テ未其徴ヲ得ス又臆斷ナリ伊佐和神社ハ射和村伊佐波神社ハ志州磯部村ニアリ此

ニ社ノ地ニ高嶽ナシ石上大臣ノ所咏ニ非ルハ必セリ或曰日本ハ大和ナリ其高岳ニノ和州ノ藤原ノ地ノ千里ノ目ヲ窮ルヲ能サルヲ比スル故ニ志州及紀州行幸時ナレハ日本紀ニ據テ英虞ノ地ナルヘシト云又鑿說ナリ今ノ高見嶺ハ高角山ニ去來見山ニハ非ス去來ハ陶潛カ歸去來辭ニ去來チイサト訓シイザ歸リナント釋ス如ク大和州ヨリ伊賀ニ到リ旅情ニ舊都ヲ去來ニ見ルノ謂ニノ敢テ去來山ト名ク處アルニ非ルヘシ然レハ實ニ其山伊賀ニ到ルノ間ニ所在ヤ未許ト雖此地ニ非ルハ必セリ他ノ替ヲ容ルニ及ハス說高見加毛或ハ御阿胡行宮從駕作歌ノ辭ニ從ヒテ異說ヲ設タルナリ其地ニ跋涉ノ其真ヲ得ヘシ帝上ノ空譚ニハ其徵ヲ得ルヲ難シ 神宮雜事記云延久元七月一日乙丑同廿日始被下宣旨於大神宮司 天 河俣山 仁 追討使等差遣 天 伊賀伊勢志摩大和紀伊國等 乃 要害等令問 天 彼山 乃 惡人散信 爲房同近助同宗近朝臣 及各等男女子共被追討已丁但同年九月三日始同二十三日戮了 天 進官了大將軍左衛門從三位下源朝臣家宗伴判官從大和國入件山副將軍前駿河守平惟盛朝臣自伊勢國飯高郡入件山平前司隨兵三千余也於步兵者不知其類也依件事 天 大神司被下宣下己及五箇度也是爲令支神郡之要害也今詳ニスルニ此嶽ハ本州大和國吉野郡ノ疆界ニ此ヨリ東方本州ニ屬スル地波瀨村ヲ始トシ粥見村ニイタリ行程七里ノ間チ方俗川俣谷ト稱ス川俣ノ名ハ川俣川ニ側テ居スルニ據レリ雜事記ニ所載ハ上古ヨリノ名稱ナリ推知ヘシ

青田 舟戸ノ巽位ニアリ正稅百四十三石紀州松坂領ナリ森ノ郷ニ屬ス

盛田寺 同處ニアリ高二石八斗二升六合紀州領主ヨリ免除ナリ

藥師寺 同處ニアリ高二斗一升八合上ニ同シ

木梶 青田ノ南ニアリ正稅十七石紀州松坂領ナリ木梶ノ名義ハ舟戸ニ對ス名ナルヘシ

雲林寺 同處ニアリ高一斗三升八合紀州領主ヨリ免除ナリ

朝見嶺及國見嶺 大和州界高見嶺ノ南ニ聳タリ本邑及蓮村ノ山上ニアリ

草鹿野 舟戸ノ良位ニアリ正稅二十六石紀州松坂領ナリ

多良木 草鹿野良位ニアリ正稅三十石紀州松坂領ナリ

峯城舊址 同處山上ニアリ峯某天正年中住セリ波瀨ノ條ニ詳ニス

朽谷 木梶ノ東ニアリ正稅 紀州松坂領ナリ

落方 舟戸ノ東街道ニ民居ス正稅三十六石紀州松坂領ナリ船戶ヨリ粥見ニイタルノ間凡七里

河俣谷及河俣街道ト稱ス紀州大和州ノ通路ナリ東ノ入口ニ一里塚ハ釜谷ニアリ大橋ヨリ一

丁二十一間ニ置ク屬邑コモフ平瀨アリ

波瀨 落方ノ東ニアリ百八十六石紀州松坂領ナリ波瀨一志郡同名アリ方俗河俣波瀨ト稱ス一

志郡ハ北ノ波瀨ト分別ノ稱セリ一里塚字ハ作り道ニアリ白髮越ノ巷ヨリ六町四十三間

天開山泰運寺 波瀨ノ内口峯谷ニアリ觀音院ト稱ス本尊觀世音禪宗院内ニ鐘樓アリ八角ノ鐘
ヲ掲ク八方ニ八大竜王ヲ畫キ彫シ大乘妙典法華經一部八卷三萬九千三百八十餘字ヲ四方ノ
鐘面ニ鐫セリ奇異ノ梵鏡ナリ然レモ八角ナルカ故ニ其韻ハ甚温雅ナラス

波瀨城址 同處ニアリ伊勢兵亂記曰國司具教卿ノ舍弟南都東門院當家ノ一族滅亡ヲ聞大ニ憤
リ密ニ南都ヲ落伊賀國ニ越エ長木吉原某ヲ憑ミ還俗ノ北畠具親ト号シ其後三瀨河侯多氣ノ
諸士ニ謀テ義兵ヲ舉ントス三瀨谷ニハ栗谷唐櫃某等河侯谷ニ波瀨峯乙栗栖某等悉ク一味ス
小倭谷ハ一族七人衆味方トナリ河侯谷ハ東門院ノ領知ナレハ波瀨峯等はヲ迎ヘテ森ノ城ニ
入レ奉リ峯森鳥屋尾家城等守護ス織田家退治ノ爲三瀨ヲ森清十郎ニ給ハリ河侯ヲ日置大膳
ニ給リ坂内ヲ足助十兵衛ニ給ハリ小倭ヲ瀧川三郎兵衛尉ニ柘植三郎左衛門尉長野左京等ニ
給ハリ何レモ命ノ此城ヲ攻シム天正五年春河侯谷瀧野有馬野鉄中ト云フ處ニ砦ヲ造リ國中
ニ打出ントスル故ニ信雄瀧川三郎兵衛尉池尻平左衛門尉天野佐左衛門尉田丸中務少輔日置
大膳亮等ニ是ヲ攻シム其後和睦ノ開城ノ退ク又泚野山崎城ヲ攻ム日置次大夫智謀ヲ以テ終
ニ城ヲ拔ク諸軍皆信雄ニ屬ストイヘトモ河侯谷波瀨峯以下諸士五十餘人一味ノ二心ナク具
親ヲ守護ス是ニ據テ日置大膳兄弟朝暮挑ミ戰次大夫關伽桶九曲ノ兩城ヲ攻落ス其後秋山澤
芳野本多左京亮三郎左京森清十郎勢日置次大夫ニ加ハリテ波瀨峯ノ城ヲ攻ム精力盡テ峯氏

生害ス同舍弟乙栗栖生虜トナル故ニ落城ス此寄手ニ此時舟江ノ森菊右衛門以下戰死ス其後
日置カ勢鳥屋尾右近カ城ヲ破リ森城ヲ落ス城主具親中國ニ下向ノ毛利家ヲ憑ミテ備後國鞆
津ニ住セリ森落城ノキ家城主水佐河侯山ニ退ク追討使秋山右近カ士上津郷新坊山中ニ討
取レリ此故日置大膳河侯谷ヲ盡ク退治ノ城ヲ七日市ニ築キテ是ヲ守ル元來東門院領ニシテ
處半分ハ大和國ノ内ナレモ日置武功ヲ以テ從ヘシ故今伊勢ノ分領トス詳ニ雜記ニノセタリ
其餘諸城ノ舊址ハ後號其邑ノ條ニ贅ス

桑原 波瀨ノ巽位ニアリ正稅八十九石紀州松坂領ナリ

桑原寺 同處ニアリ高四斗八升紀州領主ヨリ免除ナリ

八幡祠 同處ニアリ高六升四合同上

月出 桑原ノ北ニアリ正稅八十七石紀州松坂領ナリ

加波 桑原ノ巽位ニアリ正稅八十九石紀州松坂領ナリ高見街道ナリ加波ト七日市ノ間大定峠
ノ坂路アリ打越十七丁廿五間嶮岨ナリ一里塚本邑ノ東乙栗栖屬邑紙屋ノ邑中ヨリ東八丁二
十一間ニアリ

乙栗栖 加波ノ河南ニアリ正稅二百五十五石紀州松坂領ナリ屬邑世木本邑ノ北加波ノ東ニア
リ向加波本邑ノ西ニアリ街道ノ南河向ニ在故ニ名ク

乙栗栖岩 同處ニアリ天正四年北畠具親河俣舉兵ノ時乙栗栖平八郎屬ス同五年多羅木峰城ニ挑戦ス舍兄峯某生害ス日置次大夫カ爲ニ虜トナル此時ヨリ廢絶ス乙栗栖平八郎眞善院名録ニ載タリ今居室ノ舊墟及歴代墳墓存セリ

蓮村 朽谷ノ巽ニアリ正稅四十石紀州松坂領ナリ森郷ノ内ナリ

蓮生寺 同處ニアリ高八升四合領主ヨリ免除ナリ

猿山 蓮村ノ東ニアリ正稅二十五石紀州松坂領ナリ森ノ内ナリ

圓照寺 同處ニアリ曹洞宗高一石六斗四合領主ヨリ免除ナリ公牒舊名猿昌寺今更ム

大俣 猿山ノ東ニアリ正稅百七十七石紀州松坂領也森ノ内ニ隸ス大俣ノ名義ハ深野家野ノ間ニ

溪川アリ高見嶺ヨリ出ル處ノ河俣川トス故ニ河俣ニノ大河ト合スノ義ヲ以テ名クナルヘシ

東漸寺 同處ニアリ曹洞禪宗高五斗三升四合領主ヨリ免除ナリ

福泉寺 同處ニアリ高一斗九升二合同上

塩ヶ瀬 大俣ノ河南ニアリ正稅四十七石紀州松坂領ナリ森ノ内ニ隸ス塩ヶ瀬名稱ハ大河ノ傍

ニ往昔海潮ノサス處アリ石柳ヲ搦テ方俗温泉ノ如ク入浴ス疝瘕及脚疾ヲ療ス今其地理レ

テ廢ス既ニ奥州大塩村ノ所産如ニ山中ニ塩ヲ生スニ同シ塩泉トイヘ凡實ハ東海ヲ隔テ十

八九里ニ及ヘリ何ソ海潮ノ脈ヲ通スルノ理遠キニ似タリ疑クハ礬石ノ氣ナルヘシ然レ其

地廢埋ノ試テ能ハス故其眞ヲ得難シ孰レ塩ヶ瀬ノ名ハコ、ニ起レリ

久谷 塩ヶ瀬ノ東ニアリ 正稅紀州松坂領ナリ森ノ内ニ隸ス

家野 大俣ノ東ニアリ正稅六十石紀州松坂領ナリ森ノ内ニ隸ス北畠家臣家野權右衛門尉住ス

眞善院名録ニ載タリ

柏野 久谷ノ東ニアリ正稅四十四石紀州松坂領ナリ

深野 家野ノ東ニアリ正稅百三十一石紀州松坂領ナリ森郷ノ内ニ隸ス本郡同名アリ

加福院 同處ニアリ高二石一斗一升二合同上

天神祠 同處ニアリ高八升四合同上

犬飼 家野ノ北ニアリ正稅百二十七石紀州松坂領ナリ森ノ内ニ隸ス

雲林院 同處ニアリ曹洞禪宗高八斗一升八合紀州領主ヨリ免除ナリ

森城舊墟 同處山上ニアリ天正五年北畠源具親ヲ老臣鳥屋尾右近將監家木主水佐等扶起ノ義

兵ヲ舉ルノ時所築ノ本城ナリ此邊森ノ郷ト稱スルニ據テ森城ト号ス猶河俣谷ハ南都東門院

舊領ナルカ故ニ此ニ所築ナリ伊勢軍記ニ詳ナリ前號波瀨條ニ併稱ヘシ

谷野 深野ノ巽位ニアリ正稅百五十一石紀州松坂領ナリ屬邑平瀬アリ

長樂寺 同處ニアリ高二斗八升八合紀州領主ヨリ免除ナリ

七日市 加波ノ巽位河俣街道ノ傍ニ民居ス驛舎旅貨食店アリ正稅四百五十七石紀州松坂領ナ

リ屬邑棕原本邑ノ北ニアリ一里塚村邑ノ中ニアリ本陣ヨリ二丁四十三間ニ置ク

東谷寺 同處ニアリ紀州領主ヨリ高七斗六升六合免除ナリ

法專寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗本尊阿彌陀佛高一石一斗四升領主ヨリ免除ナリ

碧雲院 同處ニアリ高一石四斗八合同上

地藏堂 同處ニアリ高五斗二升八合同上

十王堂 同處ニアリ高一石八斗四合同上

天神祠 同處ニアリ高八斗同上

七日市城舊墟 同處南ノ山上ニアリ麓ニ河俣川流ル追手ノ要害ナリ天正四丙子日置大膳亮北

島具親敗績ノ後河俣谷ヲ戰功ニ據テ織田信雄ヨリ給テ此地ニ始テ城壘ヲ築テ居セリ河俣及

三瀬谷大和州等ヲ鎮護スル爲ニ置ク前號波瀨條ニ詳ニセリ今其宿驛ノ分野ヲ檢スルニ谿淵

ノ間ニ狹小ナリトイヘトモ城壘ハ南ノ山上ニ在テ其麓ノ大道ニ民屋ヲ列シ東西ノ口ハ稍

ク凸ニノ坊間ノ如シ所謂城府ト謂ヘキノ設ノ形アリ今河俣街道驛舎茶圃多シ

枋川 七日市ノ河南ニアリ正稅百九十石紀州松坂領ナリ本郡同名アリ方俗上枋川ト稱ス

長昌寺 同處ニアリ高一石五斗九升二合領主ヨリ免除ナリ

枋河城址 同處ニアリ天正五年北島家臣島屋尾右近將監所置ナリ富永城ノ詰城ニ築ク

富永 七日市ノ東ニアリ街道ニ民居ス正稅二百五十石紀州松坂領ナリ屬邑築瀬本邑ノ河南ニ

アリ福本本邑ノ乾位ニアリ七日市富永ノ間河俣川ヲ涉テ枋河ニイタリ多氣郡栗谷靈符山ヘ

徑路アリ枋河谷ヨリ栗谷ノ内湯谷ヘ三十丁十六間左傍ニ一里塚アリ

直心寺 同處ニアリ高一石三斗四合領主ヨリ免除ナリ

福泉寺 同處ニアリ一石六斗六合同上

阿彌陀堂 同處ニアリ高二斗同上

福本城址 福本ニアリ島屋尾右近將監天正五年所居ナリ

粟野 富永ノ東ニアリ街道ニ民居ス正稅三百二十六石紀州松坂領ナリ屬邑 向粟野本邑ノ河

南ニアリケワラチノソヒ 九曲 本邑ノ東ニアリチノソヒ方俗上粟野ト稱ス本邑ノ

西ニアリ一里塚上粟野高橋ヨリ七丁十五間東ニアリ字ハ大鶴ト稱ス處ナリ粟野度會郡同名

アリ

仙瑞寺 上粟野ニアリ高九斗二合領主ヨリ免除ナリ

退藏院 下粟野ニアリ高一斗八升同上

藥師堂 上粟野ニアリ高九斗九升二合同上

栗野九曲城址 下栗野東ノ口ヲ九曲ト稱ス巽位河俣川ノ岸ニ傍テ山上ニアリ字ハ城山ト稱ス平坦ノ郭及堀切ノ趾アリ今八幡宮ヲ祠レリ嶮岨絶壁ノ要害ノ地ナリ北畠家臣栗野半六郎眞善院名録ニ載タリ

田引 栗野ノ東ニアリ街道ニ民居ス旅食貨店アリ正税二百九十石紀州松坂領ナリ屬邑口野小田アリ多氣郡粟谷ヘ徑路アリ田引越ト稱ス一里塚滿橋ニアリ北畠屬臣田引正六郎住ス眞善院名録ニ載タリ北畠信雄河俣軍ノ時捕虜ニシテ誅ス伊勢軍記ニ詳ナリ

禪深寺 同處ニアリ高一石二斗八升四合領主ヨリ免除ナリ

赤桶 田引ノ東ニアリ街道ニ民居ス正税三百三十石紀州松坂領ナリ屬邑 向赤桶本邑ノ南河

俣川ノ向ニアリ右栗子谷出アリ舊名關伽桶今訛テ阿加宇ト稱ス一里塚本邑ノ東字ハコガント口礫岩ノ橋ヨリ六丁四十五間ニアリ礫岩橋ハ方俗逆橋ト稱ス

關伽桶舊址 本邑ヨリ一丁許一志郡舟生俣障路越ニ至ル徑路ノ右ノ山上ニアリ城山ト稱ス北畠家臣關伽桶善四郎住ス眞善院名録ニ載タリ俗傳城主佐々木彈正ト稱スハ非也

心光寺 同處ニアリ高一石一斗四升領主ヨリ免除ナリ

西岸寺 同處ニアリ高一石三斗四升領主ヨリ免除ナリ

赤池 赤桶ノ巽位ニアリ正税六十五石紀州松坂領ナリ舊名關伽池ナリ今赤桶ト同ク轉セリ

作瀧 赤桶ノ巽位ニアリ河俣川ヲ隔テリ正税八十四石紀州松坂領ナリ作瀧ノ名義ハ河俣川遡流ノ破裂シ瀑布ヲナスノ名ナルヘシ

式外瀧野神社 同處ニアリ村邑ノ西字ハ飯野藪ト稱ス林叢ノ中ニアリ紀州領主ヨリ高四石四斗七升四合公牒作瀧大明神ト載タリ神主瀧本奎之允今左門ト稱ス 勢陽俚諺曰延喜式神名

帳大神神社祭神二座乙加豆知命天照大神又号作瀧大神宮 傳云八花形之神鏡者天照大神之御靈形倭姬命奉齋祭也寶龜本紀云於磯宮以天宮命齋等鑄造神鏡ナルヘシ金鈴者倭姬命乙

加豆知命授之喜賜天以爲寶給而後勝長是乎乙加豆知命之靈形 奉齋 云倭姬世紀曰伊勢伽佐波夜之國汎有美宮所 利止 見定給 比自天上 志天 投降坐 比支 金鈴 爾天 坐也垂仁天皇御宇佐古

久志呂宇治五十鈴之河上 爾御鎮坐之初覓御宮所給之時於當所乙加豆知命大神奉迎獻神田神戶四箇年奉寄進跡也其苗裔勝長貢柿栗御綿于時大神喜給而自今以後汝守此境勿怠此調 止御

神勅有之自然以來栗柿御貢當社御厨而三日三夜致調備古今無怠慢奉調進內宮諸祭之御饌料而每御厨之度令供進之天下國家之祭事被勤仕者也 神風抄曰瀧野御厨綿二十兩菓子御費在

之河北河南六丁倭姬命世紀云垂仁天皇二十二年癸丑冬遷飯野高宮四箇年奉齋于時飯高縣造祖乙加豆知命 爾汝國名何問賜白 久意須比飯高國 止白而進神田並神戶 支倭姬命飯高 志止 白事

貴 止喜賜 比支 內宮儀式帳曰飯高縣造乙加豆知 乎汝國名何問給 支白 久忍飯高國 止白 支即神田

並神戶進支 而飯野高宮坐支 神宮雜事曰遠江國濱名神戶一宿御坐時國造進濱名神戶從是等國更還天 御坐伊勢國飯高郡御坐三月後度會郡宇治郷五十鈴之河頭爾 進祭遷幸要畧曰垂仁天皇廿二年癸丑冬十二月二十八日飯高宮奉齋于時造進飯野神戶 當社ヲ大神宮或神明宮ト奉稱ル處寛文六年正月内宮長官氏富指圖ニ依リ瀧野社ト稱シ奉ルナリ古來ハ飯高宮凡唱ケル當社ノ神職ハ乙加豆知命ノ裔ニノ于今連續セリ飯高神主瀧本奎之允ト稱ス 勢陽雜記曰飯野高宮ハ即神山ナリ今飯野郡中万村ノ東神山ノ巽ニ鑰取大明神凡山添明神凡稱スル社アリテ千木鯉木モ同宮ノ制ニ從ヒ村民皇大神宮ノ行宮ナリト云又飯高郡下村ニアリ神館ノ宮ヲ飯野高宮ナリト云ヘリ右諸書ニアリ然レ度會清在曰飯野郡河俣郷作瀧村ニ瀧野神社アリ其祠部瀧野空允富勝ハ乙加豆知命ノ後胤ナリ七代ノ祖虎若大夫勝顯ト云者應仁ノ亂ニ戰死ノ系圖ノ錄並舊記紛失スト云世紀ニ出タル飯野高宮ハ此作瀧ノ社ニテ飯野高宮ハ飯高文字ノ誤ナリ此社古ヨリ大神宮ノ行宮ナリト傳ヘ祀ル處ノ神ニ坐アリ靈形ハ八花形鏡ト鈴ナリ鏡ハ大神ノ靈鈴ハ乙加豆知命ノ靈トス按スルニ是妄ナリト云ヘカラス元々集飯野ト云ヘルハ是世紀ノ誤ニ從フモノナリ勢陽雜記ニ謂ヘルモ飯野郡中ニ神山ト云ニ由テ求テ是ナリトスル者ナリ鑰取大明神社ヲ古ヨリ高宮ト稱スル俗傳ナシ且勢陽雜記ノ一書吾神宮ノ事實ヲ記シタルノ違多キニ由テ觀ルルハ信ズルニ不足書ナルコト明ナリ又飯高縣造參迎ル者ハ飯高

郡ナルヘキ一證ナリ又作瀧神社ニ屬ノ公稅ヲ免ス田地アリテ古ヨリ今ニ至マテ内宮神嘗祭日ニ毎年栗柿ノ調物ヲ獻シ富勝自是ヲ持參ス是此時神田神戶ノ遺事ナルヘキ一證ナリ然ノ飯野鑰取明神ニ於テ一ノ故事ノ傳タルコト無シ富勝カ家ハ代々内宮ノ應宣ヲ蒙テ神役職掌ヲ帶タリ云 神鳳抄曰瀧野御厨綿二十兩菓子御費在之河北河南六丁

高宮 在本社之坤方祭神三座瀨織津姬命大已貴命伊已呂比命或記曰延喜式飯高郡大神社意美豆奴命大已貴之別名比古佐倭氣命奇日方之別名此神名屬北方水此社傍涌泉出助農可以證之此社地自北方水涌出助農以可考一說飯野高宮唱侍留也又深長村泉明神大神社凡稱スル說前ニ出タリ大神社地二處岡山谷口ニアリ一處祭神二座勝長靈神大山祇命一處祭神二座諸高靈神小彥名命神領畑本新高合六石三斗五升二合並山林四ヶ處自往昔御免除地ニノ祠官瀧本松允所知ナリ公牒高四石四斗七升四合ト載ラル

礪石 作瀧ノ内河俣川ノ筋宮前ヨリ赤桶ニ至ル街道菟塚ノ北堺カ瀨ノ河中ニアリ眞ニ礪ヲ打タル如キ巨巖ナリ長凡三間許ナリ傳云昔天照大神乘白馬出現坐而視國堺舉言宣誰有國堺知人耶于時申西方森與利翁一人出現出向而奉遇大神而白久此堺賀瀨古會伊勢大和兩國之堺仁天侍止云利天照大神宣久荒珍農天兒屋根命也此堺不審止宣天大石乎取河中爾打入給此處号珍布到下此川瀨云堺賀瀨川水俄爾瀧乃如久此處号瀧野川上仁張登留其浪之寄港留所号加波里波瀨里舟戶波之寄留所号波留里佐賀登留波爾添天駒乎步勢給比天波乃止留所爾至而舉言志天宣久此日高見嶽兩國之堺與止宣翁曰草毛木毛大神之御國也止須々志女給此礪石トイ

フハ當國八石ノ内ナリ今尙存セリ伊勢參宮往來ノ旅人礪ヲ以テ彼石ニ打當ルニ中レハ男子ヲ生産シ打ハツセハ女子ヲ産スト云又云瀧野社ノ神前ヨリ流出ル小河ヲ下樋小川ト云此水ハ村中ノ農ヲ助ケ其ヨリ大河ニ流落ルナリ

掬水唱歌

わき出る下樋小河の水むすひ眠をさます鈴の音かな

ト三返唱テ本社ヘ參ルヘシト又此宮ヲ古來ハ鈴ノ宮凡飯高宮凡堺宮凡稱シ奉シナリ哥ノ心モソレニヨルヘシ然レモ下樋小河ノ事ハ同郡下村ニアル河ヲ謂フトイヘル說多ケレハ此處信用シ難シ

鏡池 在神作代大河傍岩上中央亦号國見池昔天照大神乘白馬出現座而御形乎摸賜此池之傍駒蹄跡今尙在傍有落星石是洛星之跡今尙存

作久瀧 在本社東方大河瀧祭神一座速秋津彥傳曰當處号瀧野小名号作瀧一云折瀧昔天照大神乘白馬出現坐而視國之堺取大石河中打入賜河水俄爾瀧乃如久依号瀧野今詮スルニ以上前說ハ瀧野神社傳記ヲ引徵ノ勢陽俚諺ニ所載ナリ其訛傳ヲ徵セン爲ニ全說ヲ舉テ概論ス俚諺曰延喜式大神社二座乙加豆知命天照大神ト此神社ヲ混同スルハ非ナリ大神社ハ本郡深長村ニアリ祭神意美豆努命比古佐和氣命二座トス是ト同シカラス然ルニ度會清在所謂大神遷

座飯野高宮ハ雜記所載ハ孟浪ニシテ此作瀧神社ヲ飯野高宮トシ元々集等ニ飯野ニ訛ルハ世紀ノ飯高ヲ訛寫セシヨリ起レリ故ニ飯高郡ニシテ飯高高宮ニ訂正ノ此神社トス今詳ニスルニ既ニ飯野神山ニ論スル如ク世紀及元々集ノ訛ニ非ス異說者流ノ妄僞ナリ清在所謂古典ヲ誹斥スルノ至罪コ、ニ止レリ其訛傳ヲ愈寫ノ俚諺ニ引徵スル亦訛ナリ猶前ニ大神社ヲ此神社ニ混シ又清在異說ニ惑テ神山神社トス何ソ妄ナル社傳云垂仁天皇御宇佐古久志呂宇治五十鈴之川上爾御鎮座ノ初覓御宮所給之時於當所乙加豆知命大神奉迎獻神田神戶四箇年奉寄進跡也乙加豆知命大神ヲ奉迎神田神戶四箇年奉寄ト謂フハ眞ナリ於當處奉迎ト謂カ如ハ僞ナリ礫石ノ條ニ傳曰昔天照大神乘白馬出現坐而視國界舉言宣誰有國界知人耶于時申西方森與利翁一人出迎而奉遇大神而白久此界瀨古曾伊勢大和兩國之界仁天侍止云利天照大神荒珍シノ天兒屋根命ト宣此界不審ト宣ヒテ大石河中ニ打入玉フ此處ヲ界カ瀨珍シ嶺ト名ク河水俄ニ瀧ノ如クナル處ヲ瀧野ト名ケ河上ニ漲リ登ル重浪寄セ湛ル處ヲ加波波瀨船戶波ノ寄留ル處ヲ波留ト名ツク逆上ル浪ニ添テ駒ヲ歩セ玉フ處波ノ留ルニ至テ舉言ノ曰高見嶺ト稱シ大和伊勢兩國ノ界ヨト宣ヒ其翁大神ノ御國ナリト奏言ス赤桶村午頭天王社條云自此森大杉本天兒屋根命出現ノ大神ニ奉遇勅答セシ處天照大神翁カ住處ハ大和ト宣テ天兒屋根命此處ニ歸座同村八幡祠條云文治年中源義經ニ大神神託アリ白幡ヲ降ス故ニ此處ニハ八幡神ト奉祀ス

又云鏡池條云昔天照大神白馬ニ乘出現坐シ御形ヲ摸シ玉フ故ニ池傍ニ馬蹄ノ跡アリ上件ノ數舉各天照大神飯野高宮ニ遷座ノ時ノ事蹟ヲ傳タルヨリ起レリ各非ナリ倭姬世紀曰活目入彦五十狹茅天皇十八年己酉四月十六日遷座于阿佐加藤方片樋宮積年歷四箇年奉齋下零同十二年癸丑冬十二月二十八日遷飯野高宮奉齋四箇年于時飯高縣造祖乙加豆知命汝國名何問給白久意須比飯高國止白而進神田並神戶倭姬命飯高志止白事貴止悅給支次佐奈縣造祖彌志呂宿禰命爾汝國名何問給白久許母理國志多備國眞久佐牟毛佐向國止答白進神田神戶亦大若子命乎汝國名何問給白久百張蘇我國千々五百枝刺竹田國答白支其所爾御櫛落給支其所乎櫛田止乎給櫛田社乎定結支從是所而御船爾乘給其河乃後江爾到坐次多氣郡魚見次濱田次大淀次野尻ヨリ豐宮河ヲ下テ五十鈴宮ニ遷幸順途ナリ垂仁天皇十八年一志郡阿坂宮ヨリ同二十二年飯野高宮ニ遷幸ナリ其次ニ櫛田ヨリ御船ニ乗ノ上件ノ如ク遷幸前後此飯高郡作瀧乃河俣高見嶺ニ到坐スノ徵ナシ此地ヲ飯野高宮ノ遺址ト罵ル類多シ社傳及方俗ノ習流ヨリ四方ニ傳聞ノ訛レリ或一志郡櫻嶺ニ天照大神國覓ノ時遷幸地トテ其櫻花ヲ愛シ玉ヒ神詠アリ

行暮て木の下かけをやとせは花やこよひのあるしなるらん
故ニ櫻嶺ノ名ヲ存ス余漫遊ノ時村老ヲ教導ス此事蹟ニ誇ルヲ聞リ既ニ本居宣長大倭紀行名

菅笠日記神功皇后陵ヲ探ルニ農夫ノ指揮スルニじんにくんの陵ト訛レルカ如ク野ニ求テ故
 實ヲ得亦如斯ノ訛傳モ若干ナリ方俗ニ據テ眞トシカタキモ多シ社傳云古昔神明宮ト稱ス寛
 文中内宮氏富一禰宜ノ瀧野社ト稱シ更ム又乙加豆知命ノ裔ニノ飯高公ヲ姓氏トス或ハ九
 月神嘗會祭ノ菓子貢獻ハ瀧野御厨ノ遺事ニノ各眞ナリ此社地ヨリ流ル小河ヲ下樋小川ト稱
 スハ大非ナリ後號本郡下樋小河條ニ論セリ又大神社岡山谷ニアリ祭神飯高靈神ナリ是ハ其
 遠祖ヲ私ニ祀スル處ニノ延喜式所載大神社ニ非ス大神ハ大已貴命ノ奉祀ノ社号ニノ大三輪
 ト同シ本郡深長村ニアリ上件ノ數說各下樋小河大神社飯高宮ヲ混淆ノ此地ニ罵リ稱スルニ
 據テ後人ノ惑ヲ生ス方俗作瀧大神宮或ハ輪取明神ト稱スルモ飯野高宮ヲ混駁スルニ據レリ
 又上件ノ如ク大和本州ノ堺域ハ上古ハ此地ヨリ以西ハ大倭ニ屬シ此ヨリ以東ハ本州ニ隸ル
 ニ似リ延喜式内高角神社高見嶺ノ頂ニ坐ノ大倭州ニ屬スルヨリ天正年中本郡河俣谷南郡東
 門院領ニ屬スルノ外典故ニ所載ナシ故ニ其徵ハ得ス正中南都寺領ニ隸セルヲ以テ大倭ニ
 隸ルノ異說ヲ設テ堺カ瀨等ノ名ヲ傳フナルヘシ其訛傳毒習菽麥ヲ辨ノ其眞ヲ窮ムヘシ
 野々口 作瀧ノ異位ニアリ正稅五十八石紀州松坂領ナリ
 淨願寺 同處ニアリ高一石二斗紀州領主ヨリ免除ナリ
 神殿 赤池ノ異位ニアリ正稅百五十九石紀州松坂領ナリ神殿ノ名義ハ瀧野神社ニ對スルノ名
 ナルヘシ即隣比ニアリ

正法寺 同處ニアリ高七斗五升紀州領主ヨリ免除ナリ

宮ノ前 赤桶ノ東街道ニ民居ス驛舍ナリ松坂府ヨリ坤位六里正稅八百八十八石紀州松坂領ナ
 リ舊名瀧野ト稱ス公牒ニ今ニ然リ宮前ノ名義ハ他州ノ旅客其驛郵ノ生土神ノ鳥居前ニ多キ
 ナ以テ私稱ノ尋ルノ稱ヲ傳ヘテ自方俗モ稱スルニ至レリ今通稱トナレリ神鳳抄曰内宮瀧野
 御厨綿二十兩河北河南役菓子御贄在之六丁今作瀧神社ニ此贄調進アリ舊ト瀧野作瀧共ニ一
 邑ニノ後世ニ分置スルナルヘシ所謂河南ハ作瀧河北ハ此瀧野ナリ方位今尙然リ

慶法寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗本尊阿彌陀佛高一石五斗四升六合紀州領主ヨリ免除ナ
 リ

瀧野城址 同處河俣川ノ南字ハ高城ト稱ス山嶺ニアリ秋葉山權現ヲ祀ル又其山ノ麓ニ字ハ上
 野原ト稱ス處ニ館舍ノ舊址アリ 源平盛衰記第四十曰伊勢瀧野合戰條元暦元年八月十一日
 九郎判官義經ハ和泉守平信兼カ伊勢國瀧野ト云處ニ城廓ヲ搆ヘテ西海ノ平家ニ同意スト聞
 テ軍兵ヲ指遣ノ是ヲ責ム信兼ニ相從フ郎等百餘人城内ニ籠リテ皆甲冑ヲ脱棄テ大肩肌ニナ
 リ楯ノ面ニ進ミ出テ散々ニ射ケレハ義經カ郎等多ク討捕レニケリ矢種盡キニケレハ城ニ火
 ナ放チ信兼以下自害ノ火ノ中ニ燒死ケリ寔ニ勇々敷ソ見エシ負意 之讒遂ニ失ケルコソ無

慙ナレ 又伊勢兵亂記云北畠具親天正五年瀧野有馬野鉄中ト云處ニ取出テ拵ヘ桶籠ケレハ
信雄卿瀧河三郎兵衛池尻平左衛門尉天野佐左衛門田丸中務少輔日置大膳亮ニ仰テセメラル
、渠等馳向ヒ晝夜トナク攻戰日置瀧川モ疵ヲ蒙リ其後和睦ノ城ヲ開退瀧野山崎ノ兩城ハ日
置大膳亮カ弟日置次大夫ヲ大將トシ攻トリケリ 今檢スルニ元暦元年平信兼所居ハ今ノ高
城ト稱ス處ナリ即伊豆國目代ハ牧判官平兼隆カ父ナリ其時本州ニ領居スルヲ以テコ、ニ據
レリ又或曰天正五年具親今ノ上野原ニ營ヲ築ク兵亂記所載ノ瀧野城トスルハ非ナリ所謂瀧
野鉄中城ト同ノ今有馬野ニ屬セリ然レモ古昔ハ作瀧及神殿神原有馬野各瀧野ノ内ナリ故ニ
今ノ高城山ト鉄中ハ西東ニ隣テ犬牙ノ地ナリ瀧野鉄中ト同城トスヘシ其城墟ハ各異ナリ多
氣眞善院北畠家士名錄ニ載ル處瀧野傳八郎居スト云ハ此鉄中ノ城警ナルヘシ元暦中所據ノ
城ト異ナリトス高城ノ趾ヨリ今矢鏃及陶器等ヲ鑿出ス

珍布嶺 同處ヨリ赤桶ニイタリ街道ニアリ長三町ハカリノ小坂ナリ前件瀧野神社ノ條ニ概論
スルトコロナリ方俗ニ倣フテ姑クコ、ニ載ス

神原 宮前ノ河南ニアリ正稅百二十二石紀州松坂領ナリ瀧野神社ニ對スルノ名ニシテ神殿ニ
相同シ

淨土寺 同處ニアリ高二斗一升二合紀州領候ヨリ免除ナリ

下瀧野 瀧野ノ東街道ニ民居ス正稅百四十五石紀州松坂領ナリ屬邑枇杷野本邑ノ北ニアリ明

曆中ニ新田ト載ス一里塚本邑ト此野ノ間街道ノ橋ヨリ九町三十六間ニアリ下瀧野ヨリ以西
本郡船戸ニ列リ通計五千石餘金納年貢所ニノ河俣谷七里ノ間ナリ是ヨリ河俣谷ト稱ス此地

ヨリ領主ニ煎茶芋茸貢獻ス有徳院吉宗公御代ヨリ東武御用茶ヲ獻ス松坂郡奉行及多良尾四
郎右衛門點檢ノ東武ニ貢ス其外川芎芍藥葛粉杓子本地下駄紺屋灰等產物ヲ出ス

叢泉寺 同處ニアリ高四斗四升四合領主ヨリ免除ナリ
木地小屋 下瀧野ノ北局ケ嶽ノ南麓ニアリ正稅二十五石紀州松坂領ナリ

有馬野 下瀧野ノ坤位河南ニアリ正稅二百五十五石紀州松坂領ナリ屬邑下有馬野本邑ノ東ニ
アリ多氣郡上眞手ニイタル徑路アリ山路ナリ有馬野越ト稱ス

鉄中城舊址 同處山上ニアリ天正五年北畠具親ノ屬所居ナリ前號波瀨條ニ詳ニセリ
極樂寺 同處ニアリ淨土宗高九斗一升六合紀州領主ヨリ免除ナリ

下朽川 有馬野ノ東ニアリ正稅七十八石紀州松坂領ナリ上朽河ト對シ稱ス
正念寺 同處ニアリ高四斗九升六合紀州領主ヨリ免除ナリ

高山 有馬野ノ乾位ニアリ正稅二十二石紀州松坂領ナリ
蛇野 下瀧野ノ東街道ニアリ正稅九十八石紀州松坂領ナリ屬邑柏野本邑ノ東ニアリ

正順寺 同處ニアリ高八斗四升紀州領主ヨリ免除ナリ

粥見 蛇野ノ東ニアリ街道ニ民居ス正稅八百二十四石紀州松坂領ナリ屬邑床並本邑巽位河俣

川ヲ隔テリ畑井本邑ノ東ニアリ立梅本邑ノ西ニアリ小字柏野高東同シ赤灘本邑ノ東ニアリ

一里塚本邑ノ正中ニアリ 神鳳抄曰粥見御園七丁三段百二十步神宮雜事記云永承四年六月

條又同郡粥見御園司時季殺害犯人丹生山住人紀重常同常晴爲直等也而令号寮威天不被令糺

正云

禪林寺 同處ニアリ禪宗

導專寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗飯野郡射和本宗寺末

善龍寺 同處ニアリ同宗同末

教西寺 同處ニアリ西本願寺派專念宗

横野 粥見ノ東ニアリ街道ニ民居ス大倭州長谷街道及河俣街道ノ衝ナリ正稅百九十石紀州松

坂領ナリ屬邑横谷本邑ノ乾位山間ニアリ一里塚本邑正中ニアリ

地藏院 屬邑横谷ニアリ淨土宗本尊地藏尊

下仁柿 横野ノ乾位ニアリ長谷街道ニ民居ス正稅二百三石紀州松坂領ナリ屬邑横谷本邑ノ東

山間ニアリ谿淵ヲ隔テ西ナ下仁柿ニ屬シ以東ハ横野ニ屬セリ日山舊名檜山ナリ本邑ノ南ニ

アリ 神鳳抄寒河御園三石今惣郷ト稱ノ小字本邑ノ南ニアリ是寒河ノ轉訛ナリ 神宮舊記

云延文二年二月注進狀云飯高郡若木御園一名号寒河愛湏押領之間不及神稅也又一記云永寄

進飯高郡仁賀木寒川御園口入所職事 合二拾石者右常御園者良雅重代相傳所帶也爰依有所

存奉加進上分云爲後代寄進狀如件

康永三年七月廿三日

領主法眼良雅

上仁柿 下仁柿ノ西ニアリ正稅百十二石紀州松坂領ナリ舊名苦木今轉ノ仁柿ト録ス苦木ノ名

義ハ黄檗樹ヲ多生ノ貨賣セシ處ナリ今時ハ絶テ其業ナシ 神鳳抄曰苦木御園二十丁屬邑神

名原本邑ノ良位ノ山間ニアリ志手原ト稱ス舊名ハシテノ樹多生スルノ地名ナルヘシ本州神

宮ニ據テ神ノ字ヲ負スル地多シ故ニ今神名原ト更ナリ及皆俣本邑ノ南山谷ノ間ニアリ仁柿

河ノ南ナル故ニ水ノ俣ノ起ナリ及櫃坂嶺ニ茶貨店旅舎アリ畔ノ茶屋ト稱ス本邑ニ隸レリ

櫃坂 本邑ノ西一志郡多氣ニ到ル山坂ナリ長凡十八丁許嶮岨ナリ本邑此坂ノ南ニ古坂ト稱ス

アリ一志郡丹生俣ニイタル是往昔多氣城ノ本道ナリ寛文中ノ後今ノ新坂ニ變ス古跡ハ溪

澗ノ細路ニ迂遠ナリ大倭州ヨリ本州ニイメリ大神參詣ノ輩ノ爲ニ新路ヲ開闢シ今ノ地ヲ

櫃坂ト稱ス古跡ニ寛文中ノ港ヲ數ル標石アリ故ニ眞路トス今ニ於テ山澗ノ幽僻ノ處ニ何ソ

標石ヲ建ル所爲アラン推知スヘシ

赤松教康臣木所某甲遺物 本邑兜屋十大夫農家ニ傳藏セリ嘉吉元年逆臣赤松教康本州ニ奔
 一志郡丹生侯ニ自刎ス其臣木所某又奔テ此ニイテ今ノ農夫カ祖先ノ家ニ入テ生害ス其
 遺物ナリ文化四年丁卯八月余親見スル松坂ノ煤黒ニ腐タル篋ノ中ニ三品ノ武器ヲ藏ス甲一
 列全体黒漆ニヌリ筋金ナシ朽爛ノ地鉄ヲ出ス額金及鉢付朽損ノ無シ八幡座眞鍮ニノ菊花座
 アリ其餘鉢ノミニノ立物等ナシ又銅三枚重子威糸ハ紫紅黃ノ威交セナリ鉢付ヨリ切損ノ離
 タリ又小手左右アリ地金鉄金具ナシ墨漆ニ塗り鎖惣ノアリ朽損ノ分裂ス地絹ハ黒絹裏ハ白
 布ナリ其餘六具全備セス甲ノミヲ稱ノ後世ニイテ兜屋ト稱セリ其農家今ノ地ハ後ニ遷住
 ス處ニシテ舊ハ仁柿河ノ岸ニ傍テ本邑ノ西ニ河原アリ其地歷代ノ舊屋ノ地ナリ其地ノ北畠
 圃ノ中ニ四五株ノ鬱林アリ小祠ヲ安ス是木所某ヲ葬埋ス古塚ナリ其後崇アリテ小祠ヲ居テ
 赤坂塚ト稱シ其靈ヲ神ニ祀ル舊年ハ燈明田アリ其地ヲ犯スキハ必靈アリト云今詳ニ稽ルニ
 其甲ノ全体質樸ニノ兵卒ノ用ル處ナリ眞トスヘシ事蹟ハ一志郡丹生瀧條ニ詳ニセリ然レモ
 逆黨ノ賊徒ノ遺物愛玩スルニ不足トイヘモ其尙古ノ僻ヲ以テコノニ親見ノ録ス其曰家ハ可
 惜ニ足レリ今微薄トノ産ヲ失フニ至レリ甲ノ全圖ハ別録ノ他本ニ載ス 勢陽俚諺云仁柿村
 ニ鹿伏兎屋某アリ建武亂世ノ時大塔宮護良親王此ニ一宿坐ノ家名ヲ問王フニ鹿兎サヘ心易
 ク伏フ處ト聞召テ其夜ハ冑ヲ脱テ快ク臥玉ヘリ故ニ此ヨリ尙屋ト稱ス子孫今ニアリ否ヤ云

云鹿伏兎ハ鈴鹿郡村名ニアリテ今加太ト換タリ此ニ其字ヲ假リテ妄説ヲ設ケルナリ非トス
 ヘシ

深野 横野ノ東ニアリ長谷街道ニ民居ス正税三百九十九石紀州松坂領ナリ山野深奥ノ處ニ屬
 邑多シ故ニ名ク 夏明本邑ノ北ニアリ長野小字ナリ明寺同シ鍛冶屋瀬舊鍛冶屋敷ナリ神路
 山等本邑ノ北ニアリ

午頭天王八王子祠 同處ニアリ領主ヨリ高二石寄附免除ナリ
 來迎寺 同處ニアリ淨土宗智恩院末本尊阿彌陀佛

寶泉寺 同處ニアリ淨土宗
 大石 深野東街道ニ民居ス正税五百十七石紀州松坂領ナリ旅食貨店驛舍多シ其溪澗及街道ニ

巨石多シ故ニ名ク屬邑矢下本邑ノ乾位ニアリ谷村本邑ノ北ニアリ 神風抄曰内宮大石御園
 九月御糶

八王子神祠 同處ニアリ領主ヨリ高一石五斗免除ナリ
 石勝山不動院金常寺 同處東口街道ノ傍ニアリ眞言宗本尊石佛不動明王弘法大師作

勢州飯高郡大石郷石勝山金常寺儀軌云弘仁三年九月沙門空海參詣大神宮時見光明空海許行
 邊小瀧有之空海見瀧下草庵赤衣老翁居焉空海問主此幾歲姓名爲誰荅曰吾名飯盛翁昔日神此

那來臨時出現天照太神宮五十鈴河上鎮座之後此地陰約居我待汝久棲岡翁化去此岡草創始三
 間檜皮堂執青石空海刻不動像彼堂置号石勝山金常寺也彼翁常世翁云空海當寺之鎮守也當寺
 邊河中有岩天女出現之岩也号辨才天岩自竜宮通之處也當寺邊大岩觀音岩有之空海聖觀音面
 切号觀音岩佛法神道以岩爲大事又天津石村云天河邊成五百五百五行至極也石天上成星春秋
 日金之氣也打金出火其散氣誠如星也星石也金石相生人相應黃金屑五輪石塔是起也當寺鎮主
 者鹿島大明神香取大明神二座空海祭祀也是大石村氏神也神書曰武藝槌命者天進力神也其先
 出自稜威雄者有闔霧方四里許其中有小孔化爲石窟々中有神是謂雄走走生變速日變生燻生武
 藝槌是鹿島大明神也亦本地不動明王應現也亦天津石村神也天書曰經津神者香取明神也天之
 鎮地也其先出自伊弉諾尊初諾尊斬遇突血成赤霧天下陰陽直達天漢化爲三百六十五度七百八
 十三磐石是謂星度之精也氣化爲神号曰磐裂是謂歲星之精裂生根生是謂熒惑之精去生磐箇男
 是謂大白之精男生磐箇女是謂辰星之精女生經津王謂鎮星之精是香取大明神也本地大悲之應
 現也天神地祇根本昔天津石村今當大石村神靈亦靈佛空海鎮淵素之巖美亦有杵不動尊靈杉也
 經曰一劔八万四千斷識或即秦廣王通力矣亦曰十田青山秀處白雲盡不動尊王現古今亦曰是大
 明王無其所住在衆生心想中矣亦云中央主地實無體無而又均功空尊王現出種種々形也伊勢國飯
 高郡大石郷者自虛空青石降此墮即成大石故号大石村後弘仁年中空海來地刻石像之不動明王

造三間檜皮堂置石像号勝山金常寺是也同瀧下飯盛翁者鹿島香取二神當寺之鎮守祭空海給也
 右當寺不動之佛餉田大石村東浦地方八丁在之件書永代儀軌也 于時文治元年沙門天眞以
 古書撰定儀軌也 此儀軌正應元年八月當寺宗順法師寫之書者也遺書僅存千一于時法焙爐于
 入鹿之亂也上古之遺風餘烈也

石勝山金常寺什物

今寺記ヲ閱スルニ文治元年ハ六百廿餘年正應元年ハ五百廿餘年ニ了レリ舊古ノ簡眞トスヘ
 キニ足レリ然レテ其野文頗例多ノ解シ難キニイタル最モ古昔ノ文運未至ノ設ト惟フヘシ其
 習合ノ流傳ハ時俗ノ風ナリ然レテ神典ニ所載ノ引據ハ古事記及日本書紀所謂ト異ナリ神此
 郡ニ來臨時ハ天照大神ヲ指ス前條ノ瀧野神社ノ下ニ論スルカ如ク本郡ニ遷幸ノ事實ナシ訛
 傳ナリ辨天岩ハ今河瀧川ノ水厓ニアリ觀音岩ハ寺前ノ東ニ所在ノ炮烙巖ト俗稱スモノナリ
 又不動岩水厓ニアリ長一丈許山神ノ遊化スル處ト方俗ノ傳アリ又河中ニ長五間許ノ巨巖ア
 リ淨岩ト稱ス水神ノ遊化ス處ト云惣ノ堂後巖石峨々トシテ堂ノ左ニ瀑布アリ長六間許其下
 ニ鎮守小祠二字アリ鹿島香取明神ヲ祀ル本堂其右ニアリ本尊石像不動尊彫鑿甚麗ニシテ近
 世ノ作ニ非ス寺記ニ此地ヲ上古ヨリノ遺蹟ストイヘ今稽ルニ此瀑布ハ白猪嶽ヨリ直下ノ
 二十餘丁ノ山頂ニアリ其地ヲ與ノ不動瀧ト稱ス古昔此地ニ安置スルノ石像ナルヘシ後ニ此

處ニ堂宇ヲ建シ其佛軀ヲ置ク處ナリ上世ノ佛宇ニシテ街道ノ巷ニ建ツヘキ由ナシ況ヤ其瀑布
ト稱スルモ稍少小ナリ敢テ勝地トスルニ不足例莫八月一日本郡近邑ヨリ詣人群ス古昔佛餉
田八丁ノ領知アリ今ハ没シ無シ方俗ノ口碑モ然リトス高八斗今領主ヨリ寄附免除ナリ

觀音巖 堂ノ東山ノ尾崎道ノ傍ニアリ方俗炮烙岩ト稱ス高十四五間許ノ巨巖ニシテ甚危ク岨
立テ既ニ街道ニ墮ヘキ勢ナリ其巖ノ頂上ニ鉄鑄アリテ日光ノ透ル處アリ然レトモ地ニ未墮
故ニ俗傳云往昔土器ヲ售者此處ヲ過ルニ墮ノコヲ危ミ踟躇ノ日ヲ晩スルニ及ヘリ爾シヨリ
ホウロク岩ト稱ス眞ニ知リ知命者ハ不可立ノ地ナリ其過者踟躇スルノ俗說ハ肥前國長崎ト
時津ノ間ニ往還ノ街道ノ上ニ巨巖聳テ墮ヘキ勢アリ唯魚者猶豫ノ進歩セズ其魚ノ腐爛ス
ルニイタル故ニ方俗鮓腐石ト名ク近江州木内重曉カ所著ノ雲根志ニ載タリ同日ノ譚ナリ
ともかくもつらきは人の心かな千引の石も引はひかるゝ

勢陽雜記及勢陽俚諺等大石村ノ條ニ此歌ヲ引テ此地ノ徵トス大ニ非ナリ大石を引ける折ふ
シナルヘシ今稽ルニ一志郡多氣城館ニ泉石ヲ造リテ其用ニ本州及志摩州ノ海賊ヲ運漕セシ
時ノ咏ニシテ世人ノ情意ヲ比シテ作ル處ナリ本邑ヲ經過スル時ノ咏ニノハ何ノ意ナシ其詠
ヲ舉テコトニ贅ス本郡雲津川ノ條ニ參稽スヘシ

大石城址 同處ニアリ今御所屋敷ト稱ス田畝ノ字ニアリ公牒檢田簿ニモ載ス國司六代北畠權

大納言材親隱棲ノ城居ナリ 勢陽雜記云材親元ハ具方權大納言正三位永正八年出家四十四
法名心江號大石御所 多氣窗瑩奧書曰下官生于文道之家而無其能也生于烹鮮之職而不知其
法也好讀書而不通其義也頃日爲病休于山上聊集多年之草書而作上下篇遺志於末裔誠可謂井
蛙之所爲者歟

永正七年三月

材親

松坂雜集曰教王山來迎寺寺者人皇百五代後柏原院御宇永正中勢州刺史北畠權大納言材親
卿建立也 中畧 永正十四年丁丑第二世慶運法師寺ヲ嗣ク此年十二月十三日材親卿逝ス淨眼院
殿無外逸方大居士ト號ス牌面ヲ立テ僧侶相會シ大乘妙典ヲ誦シ中陰ノ式ヲ勤メ高施ノ恩ヲ
謝ス一志郡阿坂淨眼寺神儀相同シ今稽ルニ雜記所載法名ハ其父政具卿文明ナリ出家法名逸
方ト錄ス材親法名心江ト所載ハ淨眼寺來迎寺ノ所傳ト異ナリ恐ハ非ナリ永正七年罹病テ其
職ヲ亂シ本邑ノ山上ニ遁隱ス同八年薙髮同十四年下世ノ後廢絶ノ舊墟トナレリ公檢田ニ所
載ナリ永正中圖ニナシ隱棲ノトキ其庵モ此地ニ移遷スト云又城墟ト同ク今荒廢セリ其隣ニ
城山ト字スアリ其邊ニ矢坂馬場等稱ス地アリ又青雲寺廢セリ田圃ノ字ニ遺レリ是其據ナリ
其餘其臣大内山但馬守朴木藏人頭家士ノ居宅ノ墟等今耕田ノ字ニアリ詳ニ余所編大石雜著
ニ錄セリ

蓮淨寺 同處ニアリ淨土宗本尊阿彌陀佛松坂府樹教寺末同處字ハ間谷ト稱ス處ニ山上舊地ア

リ元和年中今ノ地ニ遷ス其舊地ヲ蓮淨寺山ト稱ス公檢田牒ニ載タリ

藥師堂 同處生土神ノ祠前ニアリ

林光寺 同屬邑矢下ニアリ淨土宗本尊阿彌陀佛同末

善龍寺 同屬邑谷村ニアリ東本願寺派專念宗飯野郡阿波會西弘寺末

白猪嶽 本邑及深野ノ北ニ聳タリ二十餘町ニノ山頂ニ至ル近郡ノ高嶽ナリ所謂本郡堀坂嶽同

局嶽及白猪嶽ノミ岳ヲ海東ヲ涉ル運船ノ的トス蟻人三ツト稱ス各隣比ノ大嶽ナリ一志郡柚

原本郡坂内辻原及小片野深野横野下仁柿等ノ村邑ニ躰扈ノ其峰ニ石室ニ不動像ヲ安ス每歲

三月十五日修驗者修法アリ安永二癸巳年霖雲洪水ノ坂内河及松坂府城北ノ民家ヲ損ス 安

永二年六月二十日白猪山大崩數千箇處大水漂木石平地水深五六尺也流鹿鹿牛馬於街坊村落

得魚於牀上田宅破壞者不可舉數也

惟年六月終 霖雲白猪坂 山谷霧千里

風波天咫尺 街坂怒水聲 村落變魚宅

神禹盛稱功 空論疏鑿役

赤須山人明了題赤須詩ニ出

小片野 大石ノ東街道ニ民居ス正稅三百二十三石紀州松坂領ナリ多氣郡片野河俣川ノ向ニア

リ其ニ對シテ小片野ト稱スナルヘシ山谷稍ク闊テ平坦ノ田野ナリ故名ク一里塚村中ニアリ

午頭天王祠 同處ニアリ領主ヨリ高一石四斗免除ナリ

大乘寺 同處ニアリ淨土宗本尊阿彌陀佛

鶴石 什襲ニアリ長一尺有奇濶八寸重一貫七百目石質淡灰色ニノ石面ニ鶴首ノ形凸然トシ

アリ淡黒色眼背全備ス背ニ銘アリ 全貌背面ニ周旋ノ隱起ス孰レ全体ノ物ニノ破裂シ河水ニ

磋磨スルモノナリ

鶴石銘併記

勢之南垂有僧名宗阿号騰譽隱居而修道其邑曰小片野其寺号大乘初出寺十餘年于茲不交時俗
不走名利以專唱佛號爲業也有性好石癖也故就河邊而求之其所得者或如白或如笠或如芝或如
筍或如龜或如蛇或如虎或如豹或如蟲或如魚或如貝或如玉其突兀者如山其湧沸者如波漠々者
如雲皚々者如雲潤乎黑者如漆赫々赤者如火艶彩如花豐實如果或如人鬼之面也衆形之變態已
及一百有餘矣置之於左右叙其次第曰以更之至甚則夜以續日月以及夜也一日專修之餘復出裙
石左顧右眴目不見山川遠望近俯如暴虎貪糜鹿橫視斜窺如饑鷹待鳥雀也如此而行既十數里足
疲心昏不知自踞河邊茫乎吾喪我也時有鶴鳴過雲間聞之忽然而覺神清氣定於是乎仗杖而起飄

咏詩將進歩杖頭有石半出砂中有文如臂以杖鑿之有鳥形泥沙汚之不可悉辨焉以水澆之忽見鶴形彫琢如人工也上人踴躍不休抱歸廬使社友高信明見之信明一見之愕然曰是真奇也雖工輸之巧乎誰能為雖然措之則恐終陷民間俗士手焉予示之於有識之人以請之銘藏之於我邑神殿中則庶幾不朽乎上人曰諾信明持石來示不佞請之銘見之其石白色鶴文泥色目精如漆光彩射日真如披雲霧而下者也夫鶴之為物也其壽千年不曾食生物以此食道之所回異衆鳥也實仙家之禽哉往昔有隕星為石者矣如此得奇石亦鶴下而化石者乎石而有此文則造物者使石化鶴乎不可得而知也記將舉之時鳴鶴於中天謂信明曰子聞鶴唳乎此亦不物類相感而為不佞作之銘鳴者是邪非邪信明正襟避席起對曰昔日得石之時鳴雲間今也作之銘之日鳴中天鳴示之形鳴遺之事非阿公焉能得之非若誰更作之銘願速下筆使此石不朽曰諾不佞亦不知無不鳥石相別歎而天已生此石則如真宰殊有命者豈揮毫銘曰

確惟此石 煥如鶴文 不依飲啄 不立雞羣 造物有力 無勞披雲 其壽爭到 永舞紫氛 僊乎夫天 終古未聞

維時明和三丙戌中冬

勢南赤須真人題細頸城東雞鶴亭南窓下

放鶴亭邊白鶴飛 西湖烟水映荆扉 訪僧常約林和靖 有鳥曾還丁令威 何日化成一塊石 終年翅伴七條衣 長調羽翰靈池上 不向蓬瀛方丈歸

釋悟心

同

孤石幾年隕水濱 驚看化鶴似天真 乘軒猶自耻明主 洗幘偏宜逢異人 林下著論消竟易 溪邊聞法轉還頻 蕭然堪怪華亭唳 仙梵聲寒明月新

石金竜

其餘諸君詩及歌畧詳在木院所製原本

上出江 小片野ノ巽位河侯川ノ水厓ニアリ正稅二百三十石紀州松坂領ナリ

午頭天王八王子祠 同處ニアリ高一石領主ヨリ免除ナリ

醫王坂 小片野ト出江ノ間ニアリ河侯川ノ水厓ニシテ深潭アリ醫王ガ淵ト名ク今本邑藥師堂

ニ所置ノ佛軀ハ往年此淵ヨリ漁網ニ羅リテ得ル處ナリ故ニ善逝醫王ノ號ヲ冒ノ名ク處ナリ

勢陽五鈴遺響飯高郡卷之二終

五箇條山羅城舊墟 醫王カ坂ノ奥ノ山頂ニアリ字ハ城山ト稱ス天正五年篠山城ヲ擊ツキ向ヒ
城ト稱ノ織田家ヨリ所置ナリ山上平坦ニテシ一千騎ヲ容ルヘシ北ノ山下ニ廐ノ趾アリ字ハ
鴨或ハ田古加ト云ニ峯アリ城壘一二ノ郭ニシテ其威儀今尙存セリ

下出江 上出江ノ東ニアリ正稅五百五十二石紀州松坂領ナリ 北畠家臣出江式部少輔居住ス

眞善院名錄ニ載メリ今馬場ト稱ス地名アリ

八幡祠 同處ニアリ高五石紀州領主ヨリ免除

丹生 下出江ノ東河侯川ヲ隔テ向ニアリ正稅千二百二十五石紀州松坂領ナリ屬邑西河本邑ノ

西ニアリ和名類聚抄所載丹生郷ナリ

式内丹生神社 同處ニアリ丹生大明神ト稱ス領主ヨリ高三十石免除アリ鳥居額アリ丹生高野

兩大明神石階ヲ上リ左右各鳥居二基アリ左ハ丹生社右ハ高野社各南面並ヒ坐ス兩社ノ前中

間ニ椿樹アリ又丹生中神社ハ右石階ノ下右ノ傍ニ鳥居本社西面ニ坐ス 神名帳考證云祭神

埴山比賣命再考及式社考相同シ神名帳考證同再考證參考スヘシ 丹生大神宮儀軌云吾是自

天地開闢爲丹生津姬此山爲本主吾亦天照太神宮妹也 高野大神宮儀軌云高野大神者吾大郎

王子伊勢外宮豐受大神宮荒魂是也 和漢合運曰丹生大明神繼體天皇十六年垂跡伊勢國

丹生大明神儀軌 高祖空海撰 延曆二十一年 歲次壬午 沙門空海令參詣天照皇大神宮之祠依御告勅

住法樂常明寺彼寺善記元年 歲次壬寅 繼體天皇依天明在天照大神宮御勅託建立七間一宇瓦屋內無

体無座不知爲何天下人民攸爰上宮太子十二歲春吾今歲欲奉祭天照大神宮鏡常四年歲次甲寅

忝太神宮御勅託曰爲始上宮公卿大臣 掌^{ヲカケ}耳明可聞我國皇豐大神宮御田邑無結緣生鬼神精于

時本朝神產國也念過去久遠劫佛出現說法吾護持所然今釋尊涅槃及正法既像法今時來吾持尊

顯在常明寺曰顯在御本尊自覺覺他覺行圓滿法身究竟佛東方過去久遠劫佛每無戲論如來西方

慈觀大士佛王威持正法明王如來十千大士圍繞故速曉臺勤宗勤操諸法護持高祖皆住之祈威福

云 云空海欲行是寺住矣延曆二十一年歲次壬午令常明寺住每日六時參宮兩宮鎮座白仰願天照豐

受兩大神宮吾授圍繞供養檀那特威福力令遊行三國爲佛法捨身命利末世深信心入觀藏心臥子

起寅汲闕伽水登峰摘穢不懈怠行祈一千日來臨一人天女在曰吾是奉請天照大神宮勅託爲可成

佛法興隆相那故來矣今可奉見吾住栖見給定可入御隙急以是渡唐仕給爲佛法可在御行向每日

旭須載頂之與在寶函高祖深秘是頂載在焉可在國王大臣護法歸朝后可爲吾一人長男相那曰乘

金鷲還幸在空海忝皇太神宮親成化女東臨在思召延曆二十三月十三日在渡唐唐朝長安城奉

遇青竜寺惠果大和尚大法祕法如寫瓶在相承云々唐帝奉抑留飯依供養如佛在世雖然空海戀日

域給肆儀軌密教繪像祖法治世安樂重寶令求得版朝仕給事大銅二歲次八天國家泰康殿天皇御

并七十

宇也先於小栗栖三古寺令行住天下人民圍饒供養如市於是空海與大僧都成天下成務任東寺長者日集八宗生僧企宗論各々欲唯雄露顯當日空海宗々教論雖揮文殊智富樓那舌端不正內證真實爭唯真言法中即身成佛於諸教中闕而不書矣往昔法祖源仁僧都住唯識唯心三昧給禁裡洪水三論道昌禪師入八不中道觀念給忽然燒失禁中矣天台最澄禪師立草木成佛南殿枯木令咲花云云華嚴道雄律師住十玄大想觀法取鈴杵投大床爲獅子吠廻鳳池云其日空海大僧都先住遷字觀竜闕燒失住元宇觀禁裡爲巨海次住大日如來六種震動出起七寶莊嚴獅子座自虛空中雨五智寶冠忽焉身金色成大日如來當日帝王紫震下謹作禮拜大臣公卿五体投地八宗張睛疑心皆入高祖室中而受法先法想源仁真雅僧都爲遺弟受法三輪道昌轉法輪寺入堅惠室受法華嚴道雄西岡寂照院實惠僧都爲遺弟受法天台最澄高雄山真濟附從空海始傳法灌頂令授與然而空海弘仁七歲次爲兩峯結緣入先葛城人於紀州粉河寺與給日遇一人獵師獵師曰爲何空海薩埵入此峰空海答曰吾是我朝爲法務雖經位大僧都爲未行令行道金胎兩峯欲奉祈國家安寧亦在一願吾延歷年中天照皇豐受大神宮威福奉祈得故三國傳灯悉地成就又自大唐投三鋒五古杵五古在東寺獨古杵丹波州獨古投在佐伯山今一杵三古不知在所故立三古寺行祈不見其靈驗皇豐大神宮有御

告間入這峯加之皇大神成福奉祈得其時檀那御神誓奉過耳當日獵師大笑曰吾是爲杵那給明神第一子吾母自是當東在吾栖所給尋在三峯自是當地方一有靈地古佛說法砌久絕結緣非今道場忝天照大神宮日々夜々御影向所也其山有一護法導師來待時節此三峯二六時中放光明護持天童之攸也吾每日母御神所在忝間不及引攝猷是犬任犬行路給曰奉授白黑犬二疋空海隨犬行今到高野見寂々松枝有三峯高祖奉禮拜曰是之三世了達寶普賢肉身三昧是法也被御袈裟袖受令頂戴二疋犬曰汝等是普賢文珠二菩薩爲助法變禽獸忝皇大神宮杵那御神在所奉引攝宣問其犬今伊勢州飯高郡丹生山來深山茂古木自枝雨露如下米二犬蹲踞處有一宇堂閣古勤行床無灯光見堂棟有一札寶龜五年勤操和尚草創見之彌希有思召攸來臨杵那御神在建面右座空海相對宣曰雖預每日祈念不及對面吾王子高野神以神獸令現鎮宅吾是自天地開闢爲丹生津姬爲此山木主吾是天照大神妹也其故伊弉諾伊弉册相談曰吾寓知彌子產生日以左御手持白銅鏡則化生御子天照大神宮同左眼見巡時化生天照大神宮共神土金水三精一切衆生肉色也皆丹生所爲也此山如意寶珠滴不斷不絕靈地也自此勝氣降雨露霜雪養万物故天地万物爲父母也吾是爲大辨才天女分三昧二身椿津姬吾初女栲幡千千姬大戶若宮是妙見八幡大人星是也高野大神宮吾大郎王子也伊勢外宮豐受大神宮也共見其時高祖曰我於高野山欲建立堂塔先令住此地神社佛閣立又衆生信不信義如何答丹生津姬曰有衆生信心有五福田相以五福田得十種德力矣五福田者第

一精進者口三度已利嘉喜第二孝行者國王與一切衆生如父母師君忠孝第三慈悲者不論親疎施與上下君子務本矣第四信心者摧肝膽致社稷心中盡信心令神慮歡喜第五萬物興隆者若欲成我心中存望建立堂塔破壞井垣瑞羅玉垣者必隨轉願令得福報自由自在焉吾是現大辨功德天女以八手供八天國家受八神受之轉一粒一滴充滿山海峯谷與寶財福田若無山福德可奉祭山口神宮秘祭故不注委細六十六膳可奉備大海女一宛飯赤色淪菜焦七魚三寸幣帛六十六本大庭山松六十六把積燒奉詠神樂頌打水金具足成解除身心清淨連步奉祭山口神自吾寶宮當辰已二十五丁半也每年四月晦日抑客來神達者天神伊弉諾地神伊弉册天照皇太神兩宮眷神日本國中大小三千餘座山神木神江神竜王八大竜宮諸富神等集會此祭祀日晝影向五寶宮在此御供御魚獸悉皆父母肉乳御供八膳白蓋位立龜足惣三千大千寶福自此山口雨涌出潤此山潤三界乾此山乾三界此山水銀深廣四萬由旬縱橫也風雨順時逆節時皆以當山十二天所行也故皇豐大神宮混沌未分常住有大靈志意御坐奉成吾勅託三世諸佛出世本懷一切衆生現當來世直道也何況奉祈國家安至高祖空海者諸佛菩薩諸天善神樞要三界所有館轄云云自過去遠々現當日臻未來永々梵天帝釋四天王等預晝夜頂奉圍饒國王大巨貴賤上下耶高野大神宮春日大神宮同休三大神宮三神一土羽瓊尊也今住椿山給神是高皇產神御女栲幡千千姬高野大神宮后宮云云大戶若宮是外宮大神宮荒魂此福田魂神現四辨才天故高祖忝弘仁七歲次丙申設信心人先授精進人和久田禰宜

義爲一人授孝々仁上田禰宜佐家又一人授慈悲仁者上津村禰宜公豐今一人授信心下津村禰宜言兄與隆高請取給深山切分欲建立新御殿依不知關於一鳥居起行三七日仕給令祈念處丹生津姬令來臨影向勅託宣言吾正殿如外宮大神宮不可萱葺矣爲守護禁裏如鳳地可葺柏皮給云又建立丹生高野兩大神正殿三間一字丈長等作社殿正殿左椿宮栲幡宮右大戶宮若宮前一殿大已貴命卯鑰取宮別亦素盞鳥尊牛頭天王御社云云六殿四所四人禰宜遠祖春日四所在山口土公二殿亦天照皇太神宮納言神也一鳥居三丈三尺也神宮寺勤操和尚草創同本尊十一面三昧即一千千手千眼六大觀音合形作深秘密在焉寶龜五歲次庚戌祭主子老人化來承丹生津姬勅託奉安置亦高祖山口神垂跡福田涌泉毘沙門不動奉副作處空藏如意輪地藏彌勒高祖御製作錦樓經藏法樂舍實惠僧都造立攸高祖三七日立行跡六地藏閣眞雅僧都御造立六跡地藏中高祖御作一跡有之五跡眞雅作也初葛城高野神吾栖居宣言今丹生屋志呂也丹生山神與高祖御對面石座如意輪觀音号深石如此造立社殿調五福田想於丹生河原涌出水銀無疆然間人民群集造家々重棟々並弘仁八年一萬間造同九年戊戌二萬家重去程山口祭祀正殿奉備八膳御供十二時中前後諍然間高祖定日每月一日十一日二十一日御膳造車可山曳五穀之料下積可成祭會四鄉氏人等每朝成解除任心參宮爭路家々富貴如集長者亦未法惡世退轉則調五福田相於世人弘件儀軌者雖爲濁亂濁世不違誓願可涌湧水錄云云此四人禰宜皆天津兒屋裔也每日在攸令遊駕電馬高祖誘引而上田

野現四所御姿山口土公二神示宣丹生津姬在御詠哥曰 伊具比佐而今平久於毛意天加與伊阿
蘇波如右能上田野能阿羅奴加義利和 與 御詠在還幸了假令雖世末世守伴儀軌制法者現得安樂
子孫長榮當來到上天解脫大果伴儀軌爲末世龜鏡可有丹生山常明寺朝熊岳丹生津姬諸天善神
慮授與直注焉耳 高祖空海撰定于時弘仁九歲次戊戌四月晦日乙巳午刻右筆實惠大德書了
法務大僧都空海於神護寺作之

同皇大神宮式二本五段三段南無佛王法守護保持大粗那丹生高野天照皇豐兩大神宮遍照金剛
力士秘々深秘藏上田野中在常不輕菩薩塚是釋尊出世砌這丹生津姬轉常不輕菩薩法華第七軸
不輕品說給云 云往昔釋尊御袈裟五寶水金令封納壺給大行事宇賀神將菩薩御靈守護耳

於高雄山神護寺

弘仁九立冬十三日

眞濟大德書之

長井淨蓮筆記曰 万治四年四月筆記ス山田 當社丹生大明神ノ御本地ヲ尋ルニ八葉中臺ノ心主
慶法寺兼意法印ナリ 三世常住ノ法帝ナリ其垂跡ヲ惟ヘハ乾道七世ノ胤子ハ荒鎮將ノ武神ナリコ、ナ以地神第三
ノ瓊々杵尊始ヲ丹生ノ廟祠ヲ立是ヲ常世ノ宮ト名玉ヲ人王十六代應神天皇殊ニ丹生明神ノ
靈威ヲ崇メ山ノ地境ヲ定玉ヲ爰ニ永文中ニ異國ノ蒙古頻ニ本朝ヲウカ、ヒ奪取ントス然
間弘安四年四月蟻通明神託宣ノ曰日本ノ神神蒙古ニ發向ストイヘ凡丹生明神一陣備ナキカ

故ニ力足ラス丹生明神ヘ武具ヲ奉ルヘシト宣ヘリ其後同年四月ニ鎮西ヨリ關東ヘ注進アリ
異國ノ賊船海上ニ浮フヲ幾千万ト云數ヲ不知ト我國色ヲ變シ貴賤度ヲ失フ處ニ彼蟻通神ノ
託宣ニ依テ神威疑ナキカ故ニ關東ヨリ託宣ニ依リ弓矢幣帛御劔マテ丹生明神ヘ送リ玉ヲ則
蒙古四月來朝ス其砌丹生山下ノ鳥一羽モナク悉飛去キ同四月ヨリ神殿鳴動六月ニ至ルマテ
地震ヒ社殿動搖ス國民ハ世界轉變ノ謂カト恐レズト云ヲナシ同七月二十九日暴風俄ニ吹テ
異國ノ船一時ニ海中ニ沈ミ滅亡ノ海内靜謐ニ都鄙悅ノ眉ヲ開キ兼テ蟻通明神ノ託宣掌ヲ指
テ合ス其軍中關東ヨリ丹生明神ヘ弓矢兵具奉ル處ニ彼鎮西ニノ海上流箭ノ瑞アリ又合戰ノ
キ船中ノ外ニ虚空ニ紅火氣フリテ交ヘ波ヲ飛シ彩竜風ヲ起シ様々ノ奇瑞筆端ニ盡スニ違
アラス其後土御門院御宇ニ社号ヲ改テ宮号ヲ下シ玉ヲ皆是賴朝軍中ノ祈願ハ丹生明神ノ御
計ヒニ依テナリ誠ニ丹生明神ハ武將ノ神ナリト云大政官符ニ悉ク記シ玉ヘリ我朝中興ノ神
ナリ誠ニ仰テモ猶餘リアリ敬テ祈リ怠ルコナカレトナリ當社明神ハ辱モ天照皇大神ト御兄
弟ニテ一休分身ノ御神ナリ天地開闢ヨリ飯高郡丹生郷ニ住鎮シ玉ヲカ故ニ丹生津姬申ナ
リ此山ノ本主ナリ故ニ神代卷上曰伊弉諾尊曰吾天下シロシメスツツノ御子ヲ生ムト宣テ則
左御手ニ白銅鏡ヲ取玉ヘルキ則天照大神ヲ生マス右ノ御手ニ白銃鏡ヲ持テ月讀尊ヲ生シ玉
ヲ又頭ヲノシラシテ生玉ヲ神ヲ素盞烏命ト申ナリ云 云丹生大明神ト申ハ月讀尊ニテ坐スナ

リ又月弓尊ト申ス月夜見尊ト申ナリ又天照大神ニモ三ノ御名アリテ一月ヲ司リ玉ヲナリ月
讀ト申ハ晦日ノ御名ナリ日神月神會合被成候日ナリ此時ハ日ノ光ミヘ玉ハス暗中ニ日數ヲ
筭ヘ讀テ一月ヲ知ユヘナリ月弓尊ト申ハ弓ニ上弦下弦アリ七日八日迄ハ上弦ノ弓ナリ廿四
五日ヨリハ下弦ノ弓ト申傳候故二月弓尊ノ名アリ此世間ノ弓モコレヨリ始候御事月夜見尊
ト申ハ望山滿成就ノ御名ナリ大ノ月ハ十六日ヲ望月ト申ナリ小ノ月ハ十五日ヲ望月ト申ト
ソ此時陽氣力極リテ隱レミヘス處ヲ夜ト云夜能ク見ユル故二月夜見尊ト申テ月神日神ノ三
ノ御名ニ付テ色々傳ヘアリ神道ニ入テ相傳有ト承リ候

以上筆記

丹洞夜話曰 當社垂跡ノ事十一代垂仁天皇御宇天照大神御鎮座ノ刻此處ニ御鎮座ト云說モ
アリ又繼體天皇御宇御鎮座ト云說モ見ヘリタリ然トイヘ此御神天地開闢ヨリ以來此處ノ
地主神タルト決セリ其故ハ丹砂及水銀ヲ産ス我朝ニ於テ又コトヲ捨テ何處ソヤ此處ニ住玉
フ神故ニ丹生津姫ト申奉リヌ處ノ名モ丹生ト云ナリ故ニ神功皇后モ天照大神ノ御告ニ任テ
此地ニイタリ玉フコトハ八幡宮條下星カ淵ニ委ナリ又聖武天皇東大寺建立ノ叙願マシク行
基菩薩ヲ以テ天照大神ニ詣テサセ王ヒ託宣ニ依リテ佛舍利ヲ以當郷ニ收玉フ元享釋書ニ見
ヘタル飯高郡ニ納玉フト云ハ此處ノコナリ上田野不輕塚ノ條ニ詳ナリ諸州ノ内丹生明神ノ

勸請類多アリトイヘ此處本宮タルト明ナリ何ソコレヲ疑ンヤ然リトイヘ此諸書ニ所載當
社ノ本宮タルト云ハス歎スルニ足レリ 勢陽俚諺曰丹生明神社傳ニ據レハ丹生津姫稚媛
命ナリ或云埴山姫神又云罔象女イツレカ決難トイヘ此稚媛命ナルヘキト丹生津姫ノ名義ニ
相合ヘリ神名帳考證曰丹生神社埴山命同再考曰丹生神社和名抄爾布按スルニ丹ハ土中ニ凝
ル物瓊丹ノ云ヲ類ヘハ水銀モ丹ト云ヘシ是ヲ生ス地ナリ祀神金山比賣命此神名事紀ニ見ヘ
タリ丹生中神社丹生村ニアリ祀神金山彦命社地右ニ同シ物三アルハ中ヲ主トス故ニ金山彦
ナルトヲ知レリ堀坂神社是丹生下ノ神社アルヲ以知ヘシ堀坂ハ此山ヲホリテ水銀ヲ出セル
地ヲ云祀神埴山姫命社地堀坂半腹ニアリ 丹洞夜話曰神名帳ニ曰丹生貴船ノ宮ニハ天子雨
ヲ祈ラセ玉フ御時黒毛ノ馬ヲ副玉フ又晴ヲ祈ラセ玉フハ白馬ヲ添玉フ由見ヘタリ此處ニ雨
ヲ祈ラセ玉フハ延喜式述作ヨリ百八年前ナリ嵯峨帝伊勢ノ丹生ニ雨ヲ乞玉フキニモ黒馬
ヲ奉リシ故ニヤ今モ村民雨ヲ祈ルニハ先池ヲ浚ヘ神主ハ明神ニ參籠シ神宮寺モ善女竜王ノ
社前ニテ祈願シ玉フ氏子ハ幟立大鼓ヲ敲キ螺貝ヲ吹明神寶前大師尊前ニテ踊ヲナトリ雨ヲ
乞フ如此スルト數日ト雖モ尙不降時ハ黒馬ヲ作り大河ノ内動瀬ト云要ノ河中ニ竹柵ヲカキ
右ノ馬ヲ乗セ神主ハ河原ニ出板ノ雨ヲ祈ルコトアリ是嵯峨天皇此處ニ雨ヲ乞玉フキノ餘風ノ
ノコル處ナルヘシ 今詮スルニ丹生大明神儀軌ト稱ス卷軸ハ其首ニ高祖空海撰ト題シ此地

經歷ノ行狀ヲ舉テ其記中ニ善記元年鏡常四年大銅二年或延曆廿一年同廿三年弘仁七曆資
 龜五年等ノ年記ヲ交差ノ記セリ善記鏡常ハ國朝考德天皇大化中ヨリ今ニイタリ其名ナシ大
 銅ハ大同ノ異ナルヘシ凡テ浮圖氏年號ヲ異名ニ認ルハ例多シトイヘテ後代ノ龜鑑トスル記
 典ニ何ソ惑テ生スノ異名ヲ記スルヤ猶大銅二歲次丁亥八天國家康殿天皇御宇也云大同二
 年ハ平城天皇ノ馭宇ニノ日本根子天排國高彥尊ト稱ス日本後記ニ載タリ國史ヲ不採ノ何ノ
 據ニノ八天國家康殿天皇ノ名ヲ設タルヤ各杜撰ナリ又高祖深秘是也云云云云云云云云
 海大僧都云云入紀州粉河寺與給曰云云被御袈裟袈受令頂戴云云其時高祖曰云云高祖空海者
 云云於一鳥居起行三七日仕給云云空藏如意輪地藏彌勒高祖御制作云云上件ノ如キ其記中ニ
 錄スレハ空海ノ撰定ニアラス然ルニ奧書曰高祖空海撰定于時弘仁九歲次戊戌四月晦日乙
 巳午刻右華實惠大德書了トノスルトハ高祖空海ノ撰ニノ門弟子實惠ノ執筆スルニ似タリ又
 眞濟僧都奧書曰法務大僧都空海於神護寺作之ト載スレハ二師並ニ空海ノ自撰トス然レモ上
 ノ文ニ據レハ弟子ノ所記ニ必セリ又實惠眞濟ノ所撰トスレハ其記文ノ顛覆及俗卑ナルニ高
 僧ノ筆スル處ニ非ス今ノ盲愚ノ僧徒トイヘテ如斯ノ野ナルハ未見又上世ノ質樸文ニ暝キノ
 時トイヘテ古事記及倭姬命世紀等ノ質ノ文ニ勝タルニ等シカラス然レハ後世ノ盲昧ノ釋徒
 ノ妾ニ筆スル處ニノ紀傳ノ摸範トスルニ不足ハ必セリ然ルニ長井淨蓮筆記曰紺紙金泥ノ丹

生儀軌買申候長井新之丞角屋清左衛門同孫三郎三人ニテ調ヘ神主奈助ヘ預ケ申候又曰當分
 禰宜衆相談ニテ梅屋孫太郎ヲ憑ミ被申候安々ト請合申丹生高野兩大明神社殿ヲ檜皮葺ニ建
 立仕候其時御殿ノ御寶物出シ申候梅屋孫太郎願主ニテ御坐候故御宮中内殿ノ義寶物深ク隱
 密ニテ孫太郎ニ相傳被申候其破大師御作ノ丹生津姬記雨漏リ少シ當リ申折目腐リ候テ惜ミ
 申候事其時丹生ニ眞言宗ノ出家四五人神宮寺ヘ寄合隱密ニテ儀軌ノ内籍殘候ヲハツシリテ
 書續ケ又ツシリ遺リ申候ヲハ籍ヲ書繼候テ又神殿ヘオサメ被申候今時現本ニ有之儀軌ハ文
 字ヲ不眞候ヲ其儘寫シ候又曰天正十二年三瀬亂ノ時禰宜衆誤テ御神殿ノ内ヘ神書丹生津姬
 記ヲ入火矢申候左様ノ故カ禰宜衆皆々絶果申候事 天正十二年ヨリ應長十四己酉マテ廿六
 年ノ間宮所荒レ草木生茂リソノ間ニ禰宜神樂衆絶果候事此舊記ニヨレハ天正中北畠具親義
 兵ヲ舉ク其属臣三瀬左京亮カ兵燹ニ神社湮滅セシヨリ前ニ長井孫太郎淨運入神殿ヲ結搆ス
 時ニ既ニ既ニ丹生津姬記紺紙沉字ノ物ヲ買得テ神殿ニ收シニ朽損スニ及テ其字ヲ補フ其天
 正十二年兵燹ニ湮滅ノソノ記ナシ流布者ハ儀軌ノ未補ノ者ヲ繕寫ノ世本ニ今存在スト謂フ
 ニ據レハ丹生津姬紀モ儀軌モ同本ナリ然ルニ今所傳ハ朽爛ノ寫字ニアラス全文ナリ其上世
 所藏ノ物ト同不同ハ未知後世ニ擬作スル處ナルヤ其卑俗ノ體ハ全ク後人ノ所作ニ似リ又天
 正十二年ヨリ慶長十四年ニイタリ舊傳ノ神官ハ悉ク滅ノ慶長十六年豊受大神ノ祠官檜垣大

郎兵衛尉度會常照ヲ請ノ祠官ニ補ス後筑後守ト稱ス今ノ傳來神官ノ祖ナリ然ルキハ儀軌ノ所傳ハ今其徵ヲ得ス信スルニ不足土人長谷川欽夫所編丹生記曰當社鎮座傳記未詳或記曰繼體天皇十三年垂跡矣今所祭神二座其東社號丹生大明神其西社號高野大明神也按延喜式神名帳以當社爲一座然今爲二座者其訛蓋天正火後出於當社儀軌矣鄉間傳弘法大師丹生記一卷天正寇火ニ亡ト矣今本無稽之言多蓋非真篇也今檢スルニ實ニ鄉人ニノ識者ノ確論ナリ其上世ノ丹生記ト後世ノ儀軌ハ異ナルヲ知ルヘシ其所祭神ハ神名帳考證ニ據レハ埴山比賣命トス今憶フニ宇邇波邇ノ意ニノ丹生ノ名ニ據テ埴山姫ノ土神ヲ牽強スルナリ同再考ニヨレハ金山比賣命トス水銀ヲ産スルノ地ニ據テ神名ヲ附會スルナリ丹生儀軌ニ據レハ丹生津姫天照大神ノ妹稚彥命トスソノ故ハ伊弉諾伊弉册尊以白銅鏡化生ノ神ニノ土金水ノ三精ニ表ノ此地ノ水銀ヲ産スルニ擬セリ然レモ古事記及日本書記神代篇ニ本說ナシ稍ク一書ニ稚彥命ヲ載ス白銅鏡所化ノ徵ナシ所謂無稽ノ言ナリ丹洞夜話及俚諺ハ稚彥命トス各儀軌ニ所據ナリ長井淨蓮筆記ハ月讀命トス是天照大神ノ同胞ノ御神ト率合ス也諸說雜駁ニノ一定シ難シ欽夫著丹生記曰相傳當社ハ水神也祈雨祈晴按或記弘仁十年天下大旱祈雨伊勢丹生神秋大雨又祈晴云大凡近郡相遇亢旱則於斯神社祈之未必無奇驗也又斯神名有數說或曰稚日女神也或曰天照大神也又俗說爲月讀尊共皆不得其實也吾嚴君有稽云罔象女神也當與倭吉野神爲同神矣

實此神也日本紀神代卷曰伊弉册尊爲軻遇突智所焦而終矣其且終之間臥生土神埴山姫水神罔象女神元々集云罔象女在下津底水神也一名澤女神亦名美都波女又確論ナリ其罔象女ヲ祀ル處トスハ祈雨祈晴ノ謂ニ據リ弘仁中此社ニ祈雨ノ事實ハ正史ニナキ處ニノ徵トスルニ不足然レモ大和州丹生神社ニ祈雨祈晴ノ事蹟ハ國史ニ分曉ナリ後號ニ詳ニス故ニ其水徳ノ神ニ祈禱スルニ必セリ然ハ大倭州ノ所在ヲ此地ニ遷シ祀レルニ至レリ諸社一覽曰大和國吉野郡丹生社下市ノ傍ノ山中ニ座ス祭神一座罔象女神祈雨止雨神也二十二社注式曰神武天皇以天神敎造嚴彥沙于丹生川上用祭天神地神當社爲大和之別社事見延喜式不聞人聲之深山立吾宮柱以敬禮者爲天下降甘雨止霖雨又云人皇四十代天武帝白鳳四年乙亥御垂跡又本朝年代記曰天武天皇御宇和州吉野郡ニ垂跡伊弉諾子水神也空海建立後深草院建長五年十一月五日七社之内殿經藏舍屋等悉燒失今稽ルニ吉野郡國栖ノ郷小村ニ丹生神社アリ小河庄七村ノ總社也神宮寺モ附屬ス又丹生河上神社ハ同郡丹生ノ庄ニアリ四箇村ノ生土神ニノ丹生河上ノ神社ト稱ス是丹生神社ノ本源ナリ又紀州伊都郡丹生社高野山ニアリ諸社一覽云天野丹生神延喜式所載丹生都比女神社名神大同注曰先師說云高野山天野大神者丹生都姬也天照大神妹稚日女神也一說云丹生津姫天照大神也坐和州丹生川之裔故名丹生都姬也後又顯伊勢國也此注ニ據テ稚日女及天照大神トス今檢スルニ倭州丹生神社ニ罔象女神ヲ充テ故ニ祈雨祈霽ノ事ア

リ又丹生津姬神社ニ稚晏命或ハ天照大神ヲ祀ルト謂フハ後世弘法大師高野開基ノ時所祀ノ所傳ヲ據トノ丹生高野ノ二神社トシ俗説ヲ傳フモノ多シ高野丹生神社傳記曰丹生高野ノ二神ハ即母子ニテマシマスト申傳ヘリ或ハ夫婦ト云高野ノ大明神ハ太神宮ノ御弟ナリ又玉津島ノ衣通姫ヲ思戀テ御馬ニテ忍通ヒ玉ヒケルヲ丹生大明神安カラヌトニ思召ケリ彼玉津嶋ノ神馬ヲ奉リシキハ明神ノ御前ニテ轡ノ音ヲ鳴サヌトニテ侍トナス今此處ヲ尋ルニ午ノ窟トテ玉津島津ノ江ノ邊ニアリ昔ハ高野明神ノ神輿此窟ニ渡御ノリ毎年アリシカトモ今絶タリ窟ノ内ニ小社アリソノ證ハ公任卿家集ニミヘタリ

海士人の乗りわたしけんしるしにや岩屋に跡をとめ置けん

而大明神北ハ丹生神殿女体南ハ高野神殿俗体是ヲ山王院ト云是當山ノ鎮守ナリ弘仁十年五月三日大師勸請ナリ啓白文アリ四所明神御寶殿戊亥ノ方ニ向フ南方第一ハ一宮丹生次ハ二宮高野明神三宮氣比明神四宮丹生明神御子也高野明神ハ天照大神ノ孫王也丹生權現第一子也氣比丹生權現御女也四宮ハ丹生子ナリ往昔ハ兩大神ノミ坐シカ中古行勝上人瑞夢ヲ感シ勸請セラレシヨリ如此ナリ此格子ノ内十二王子ノ宮アリ八王子土公神大將軍皮張明神皮付明神八幡熊野金峯白山住吉信田西宮百二十伴宮右十二王子百二十伴勸請諸神ハ大師ノ御時ヨリノコナリト舊記ニミヘタリ七社明神ハ四社明神ト三社明神トナリ四社ノ神ハ前ノ如

シ三社ハ天照太神八幡春日明神ナリ鳥居額云正一位勸八等丹生七社大明神二十餘村守護神トス嵯峨天皇弘法大師ニ密灌ヲ受玉ヒシキ此近邊ノ村々ヲ御寄附アリシナリ其後他領トナリ又毎年九月晦日神事アリ高野山ノ衆徒法事ヲ務司ル寺號ハ神通寺ト傳ヘタリ神社考詳節云丹生明神一名天野明神此神之子曰高野明神紀州丹生明神高野山之神也弘仁七年沙門空海登高野山而迷路時神女出現導海示福地其神女丹生明神也細注云丹上在和州其水流到紀州曰丹生河然則其所在和州共其神也又曰淡路千荒寺緣起曰天照大神妹曰日續御子是紀伊國丹生明神也 欽夫丹生記曰高野明神社當社不知何神軌以丹生明神爲稚晏神以當社爲高星彦尊而曰高野明神者丹生明神之子也其妄不耐笑罔 今按スルニ本邑ノ丹生神社ニ弘法大師ノ所傳ヲ罵ルハ凡テ高野山ニ倣ヒ又丹生高野二大明神ノ名モコ、ニ據レリ 諸州ニ同名神社延喜式ニ所載大和國宇智郡丹生河神社丹生川上神社同宇陀郡丹生神社越前國敦賀郡丹生神社同國今立郡丹生津神社但馬國美含郡丹生神社美作國苦東神社高野神社越後國古志郡丹生神社此餘ニ丹生郷丹生郡アリ越前國丹生郡上野國甘樂郡丹生村等ヲ載ス然レモ此ニ處ニ丹生神社ノ有否ハ未詳 以上神名帳ニ所載諸州ニ同名若干也各倭州紀州及大州ノ所祀ノ神ト相同シキヤ其實ヲ不識然レモ丹生ノ名多シ敢テ本州ノ神社ヲ本源ト罵ルハ至當ニ非ス誇傳ナリ 祀神罔象女命ニ據レハ倭州丹生神社ヲ本源トノ後ニ此地ニ遷祀ルトスヘシ祈雨祈霽ノ説モ

同シ弘法大師所傳ニ據レハ紀州高野明神社ニ據テ高野ヨリ此地ニ遷祀ルトスヘシ然正史ニ據テ祀神ハ罔象神ニ姑ク從ヘリ故ニ倭州丹生神社ヲ本據トスルニ必セリ 上世ハ一社宇ニノ慶長中ヨリ今ノ如ク丹生大明神高野大明神ト稱ノ二社ニ祀レリ千木鯉木ヲ置ハ摸製ナリ然レハ當今ハ假殿ニノ小社ヨリ其域ハ五丁四方ニ充リ天正年中蒲生飛彈守氏郷松坂府城ヲ結構スルノ時三年ノ間此宮域ノ老樹ヲ悉ク伐采テ其用トス今ハ稍ク星霜ヲ經テ森々ト鬱茂セリ 一鳥居額云 丹生高野而大明神土人傳云弘法大師ノ所筆ナリ 又一鳥居ノ北ニ殺生禁牌アリ寛文中

勢州飯高郡丹生大明神社境内四方限山麓此所停止殺生不可有違犯者也依 仰如件

寛文九己酉年九月日 久野丹波守判 安藤帶刀長判

式内丹生中神社 同域ニアリ方俗曰丹生神社ノ攝社ト稱ス此外宮域ニ末社十四前アリ下ニ録ス 祭神金山彦命 丹洞夜話云金山彦命金山姫命二座トス今稽ルニ延喜式所載一座ナリ方俗所傳ト異ナリ 神名帳考證曰丹生中神社金山彦乎在丹生村美濃國仲山金山彦神社按ニ金屬土在地中此山出水銀故祀之乎 日本書紀曰伊弉册尊且生火神軻遇突智之時悶熱懊惱因爲

吐此化爲神名云金山彦 一宮記曰美濃國不破郡南宮祭神金山彦命又伊賀國風土記及一宮記曰伊賀國敢國社阿拜郡ニアリ祭神一座金山彦神也伊賀國之一宮也 神社啓蒙曰社記注記云南宮者金山彦命而火神也非金神司離火南方故名南宮抑南宮陽者神而居南方文武兼備故國家崇貴叙正一位勳一等就中天武朱雀朝施功於我邦云 云按一社相承如此乎然奉備天覽國史及風土記爲金山彦神ノ笑濃國仲山金山彦神社傳云祭神五座金山彦命見野命罔象女命彦火々出見尊埴山媛命此二座神秘トス神武天皇元年鎮座當國府中又崇神天皇五年十一月中子日遷座中山麓又天武天皇壬申騷擾ノ時行幸又朱雀天皇天慶三年平將門叛逆時記祈願神功最揭然被授勳一等後冷泉院康平年中安陪貞任宗任亂亦有靈驗被授正一位 コレヨリ前從五位ヲ授正五位下從二位正二位等ノ神階ハ續日本後記三代實錄等ニ詳ナリ神木白玉椿神前ニアリ新拾遺

從二位行能

美濃山の白玉椿いつよりか豊の明りにあひはしめけん

南宮十首

利綱

色かへぬ白玉業美濃山に神や八千代の種をうへけん

神名帳考證再考曰中生丹神社祀神金山彦命社地右ニ同シ物三ツアルキハ中ヲ主トスル故ニ金山彦ナルヲ知ル堀坂神社是丹生ノ下社ナリ中ノ神社在テ以知ヘシ堀坂ハ此山ヲ掘テ水

銀ヲ出セル地ヲ云祀神壇山姫命社地堀坂山半腹ニ在リ俚諺曰此說信用難シ堀坂神社ハ同郡伊勢寺領ノ山ナリ丹生ヨリ行程四里アリ丹生ニテ堀タル土ヲ此地マテ持ヘキ理ナシ又堀坂ヨリ水銀ヲ出スコトクニ聞ヘタリソノ妄論スルニ不足中神社ハ祀神ニ座金山彦命金山姫命ナリ考證ノ説モ信トスルニ堪ヘス 長井淨蓮筆記曰元和四年戊午長井銀三郎四十二歳ノ厄ニ造立致シ候是ハ大和國長谷寺小池房ノ御隱居丹生明神ヘ七箇日參籠候神主筑後銀三郎度々見舞候處ニ小池坊御異見ニテ金山御前御建申候丹生ニ天地開闢ヨリ御住被成候御神ハ丹生大明神ト金山御前は二社ナリ丹生本宮是ナリ殘リノ御社ハ皆ノ勸請ト申傳ラレ候今詳ニスルニ祭神美濃州南宮金山彦神社ニ倣ヒテ方俗モ往昔ヨリ金山彦命ヲ奉祀スルニ據テ是ニ從フ猶社域ノ内ニ數百歳ヲ經タル海榴花ノ老樹アリ花葩頗大ニノ他ト異ナリ今ハ枯稿ノ孽ヲ生セリ伊勢椿ノ名ヲ帶テ四方ニ賞ス稽ルニ丹生神社ニ此老樹ノ由ナシ前ニ載ス美濃州南宮ノ此樹ヲ神木ト稱スルニ倣ヒテ本社ノ因トスル處ナルヘシ然レトモ攝社椿幡祠ノ傍ニ所栽ニソ椿ノ宮ト稱セリ土人所傳嵯峨天皇ノ零ノ時栽サセラルノ言アリ其徴ハ不識只宮域ニ所在ナレハ此椿幡ノ祠ノミノ因ニ非ス總概ノ丹生中神社ノ所有ニ據ルノ老樹ナルベシ

椿幡祠 同域而社ノ間ニアリ祭神万幡椿幡千々姫命欽夫生記曰未詳爲何神或曰都婆幾宮者

伊勢之一宮也猿田彦神也就以斯神祠爲幡千々姫而言高野明神之 宮也亦無稽之言耳

春日祠 土公神祠ノ東ニアリ四社並建リ祭神大倭州春日明神ニ相同シ 其東武雷命其次ハ齋

主命其次ハ天兒屋根命其次ハ比咩大神ナリ長井淨蓮筆記曰万治年中造營長井新之亟同清左衛門同孫三郎同忠兵衛右四人各一社宛建申候云

大社祠 兩社ノ坤位ニアリ小祠ナリ祭神素盞鳥尊大已貴命ヲ祀ル

三輪祠 大社ノ後ロニアリ祭神三輪明神ニ相同シ

高宮 東南ニアリ東社ト稱ス

土公神祠 高宮ノ後ニアリ祭神猿田彦大神ノ裔宇治土公ノ祖大田命ヲ祀ル

熊野神祠 一鳥居ノ南傍ニアリ三神ヲ一祠ニ祀ル伊非册尊事解男神速玉男命紀州熊野權現ト

相同シ

諏訪神祠 祭神信州諏訪明神ト相同シ

山祇神祠 一鳥居ノ南傍ニアリ祭神大山祇命今宮域ニ所祭二祠アリ一ハ丹生中神社ノ傍ニア

リ一鳥居ノ外傍ニアリ霜月七日村民火ヲ焚テ祀ル

辨天祠 一鳥居ノ傍池中ニアリ近江竹生島及藝州巖島ヲ表ス祭神市杵島比賣命或宇賀御魂命

弁財天ヲ習合ス 淨蓮筆記曰當社池中ニ所祭ノ辨財天ハ紀州大守ノ臣長野九郎左衛門建立

之其後破壞ニ及ヒ万治三年村中ヨリ造營ス然ル後ハ本社造營ノ度ニ造リ改ム云

疾瘡神祠 享保二丁酉年村民三井久雄其兒久英痘瘡安全ノ祈ニ造立ス 神社考引

三代實錄之意曰文德帝仁壽三年春夏之間痘疹流行病之時神現形曰我是大堰河濱所居神名爲日續神我居近河頗有泛濫患今欲移居於松尾之南山若能敬祭我者灾害當自消矣帝得神語大悅乃會近臣祭之隨神誨遷宮于彼地以祭之自是以來天下每有痘瘡之疫人無貴賤詣此社以祈神之佑云 今按スルニ日本紀云顯宗天皇三年依神託被奉歌荒操田押見宿禰侍祠獻山背國葛野哥荒操田十五丁以爲日續神地哥荒操田在大堰河之西南即今松尾東南地是也 氏成私記曰山城國葛野郡松尾ニ月讀社アリ本殿大山昨命南殿神垂跡神秘也又別雷命苗裔神也二十二社注式曰市杵嶋姬也云

宮山 惣域東西四丁半南北四丁 御饌殿御炊殿アリ其傍ニ御井アリ土人所傳弘法大師鑿ル處ナリト云

大鳥居 寛永三丙寅年立ル神前石燈籠ニ基長井八郎大夫幸宣建立元和十甲子年六月ナリ淨蓮筆記曰大明神御神木根ハ一ツニテ三本ニ分レタル杉大木アリコレヲ三本杉ト申傳候注連チ帳白木綿ヲ掛御神木ト崇ノ候處ニ關白殿舟材木ニ被切候色々御斷申候凡舟奉行同心不申切リ候テ大割仕リ大河へ出シ候處大水ニテ舟板ニ敷レ奉行相果申候云今ノ三鳥居東ニ三本

杉ト稱スアリ慶長六年所栽也是ト同シカラヌ 天正十二年甲申蒲生飛騨守氏郷松坂ニテ十二万石松ヶ島へ入部ニテ御拜領被成候同十三年乙酉ヨリ亥年マテ三ヶ年ノ間丹生宮山御伐被成候袖ノ棟梁彌太郎丹生ノ宮山ニ居住仕烟ヲ立御手洗水ヲ遣ヒ又私ニ宮山ノ木ヲ賣申候三年目ニ惡キ煩ヒヲ仕子孫マテ絶エ申候事 天正十二甲申年三月十一日三瀬左京謀叛假屋殿ヲ色太村ニテ討丹生へ亂レ入手始ニ丹生ノ在家へ火ヲ掛候風荒ク吹宮山へ火移リ大明神末社切石ヨリ上ノ段七社拜殿大師堂西導寺兩寺ハ折節瓦下シ下葺マテニテ失火申候此時大御堂ハ不苦候歟四所明神金山御前御供處其外末社ノ小宮ハ殘リ候事 天正十二年ヨリ慶長十四己酉年マテ廿六年ノ間宮所荒レ草木茂候其間ニ禰宜神樂衆絶果候事慶長十四年ノ比長井銀三郎存候様ニ氏子ハ家ニアリ氏神ハ雨露ニ濡候事無勿体ト存シ御假殿ヲ建立可申ト存三瀬谷神瀧村出之助ニ材木誂へ申其外銀三郎家ヲ建可申爲ニ用意仕候檜木材木共皆々取出候テ山田堀切大工次郎兵衛ニ誂へ慶長十四己酉年五月ニ丹生大明神高野大明神御假殿兩社三鳥居同井垣マテ長井銀三郎生年廿六歳ニテ一建立ニ仕立申候則山田上部作兵衛ヲ當座ノカマラヒニ憑ミ御神入仕候御初穗等遣シ申候慶長十七年壬子御宮切石ヨリ上ノ段ニ末社五社アリ長井銀三郎一度ニ建立致候當處年寄凡六七人長井淨蓮同左兵衛星合徳兵衛三井市右衛門庄屋彦左衛門鍛形平右衛門同久五郎相談ノ處ニ東ノ土公神御宮西向ト申モノアリ又

南向ト申者アリ争テ落着不仕候處神主筑後被申候ハ神書ハ火失仕候ヒテ無之昔ノ禰宜ハ一人モナク處ノ年寄衆ハ半分ノ争ヒ候ヘハ了間ナク候神慮次第ト申關御上候處ニ西向ト上リ申ニ付西向ニ立申候ニ右争ヒ候衆參宮仕候處ニ昔ノ如ク候ト申御關正シク難有ト皆ノ申候事 二ノ鳥居長井銀三郎建立申候處ニ當地年寄共相談ニ御手洗ノ堀河ヨリ内ト申衆アリ又堀川ヨリ外ト申衆アリ落居不仕候處ニ神主筑後以前ノ如ク神慮次第可然ト被申御關御取候處堀川ヨリ外ト上リ申候鳥居立申候時柱ノ穴堀申處ニ昔ノ鳥居燒殘リ柱根堀リ當リ候則堀ノ外ヘ立申候御關正敷御事ト諸人難有存候事 慶長十四己酉年丹生大明神高野大明神兩社銀三郎建立夫ヨリ毎年宮御普請心カケ元和四年戊午金山御前建立到候其外末社御門井垣ニ三ノ鳥居不殘建立申事十箇年中掛リ申候其上御宮中植木白石敷替堀ヲホリ土ヲ以テ界道ノ高下ヲ直シ申候ニ又五六年宮普請等不殘銀三郎建立申候事 以上

遷宮ハ弘治元龜天正中之間檜皮葺宮儀軌ニ所載ノ如シ 元龜元年ヨリ天正十二年炎上マテ十四年天正十二年炎上ヨリ慶長十四年マテ廿六年ノ間ナリ 慶長十四己酉年五月遷宮 正保二年ニイタリ三十七年 正保二乙酉年八月十三日同上 延寶五年ニ至三十三年紀州領主ヨリ造立 延寶六戊午年四月十五日同上 寶永 此一條年月日未詳

享保二十乙卯年二月十七日同上 明和三年ニイタリ三十二年 明和三丙戌年九月二十七日同上

末社迂宮ハ本社造替迂宮ノ翌年ナリ每例如此

祠官次第ハ儀軌ニ所載前號ニ詳ラカナリ淨蓮筆記曰頭神主衆室殿庄殿辰巳殿下殿此四人ノ禰宜衆數代子孫繁昌ニテ鳥帽子頭數多アリ其外神樂衆數人八乙女アリ御湯神樂毎ニ出申候天正十二三瀬亂ノ比ヨリ慶長十四年迂宮ノ頃マテ二十六年ノ間禰宜神樂衆絶果候事 慶長十六辛亥年槍垣太郎兵衛禰宜ニ申請候名更候テ筑後守ト申候長井銀三郎同道仕古田兵部少副殿へ御禮申御家中奉行衆マテモ御禮申上候事

第一度會常照筑後守度會貞照宮者

從五位下度會常俱 從四位下常

固左近正四位上度會貞兄内記從

五位上度會常苗兵庫從五位下度會

勢陽五鈴遺懸飯高郡卷之四

井九十二

域外所在神社

山口明神 本社ヨリ巽位灯笼カ谷ニアリ方俗岨明神ト稱ス 神主支配 丹洞夜話曰祭神伊弉册尊祭式四月三十日此朝早晨ニ參詣スルヲ要ス夫山ノ福德此神奉スヘシ祕秘祭故ニ悉ク注サス六十六膳大海魚一ツ、飯ハ赤飯ヲ用倫菜ニハ七魚ヲ集メ御酒幣帛ヲ献シ大庭ニ松六十六把ヲ積ミ焚キ神樂ヲ奏シ奉ル吾寶宮地ヨリ辰巳ニ當テ二十五丁半毎年四月三十日其谷梵天帝釋天神地神星宿悉ク集會日中吾寶宮ニ影向ナリ以下儀軌ニ詳ナリ 萬治三年當村住人角屋清左衛門造營 淨蓮筆記曰先年古田大膳殿御代丹生山口明神參道日庸直段ヲ定メ米ヲ渡シ長井ヤシ候得ト被仰付候間注連ヲ張御留被成候中畧山口明神參道日庸直段ヲ定メ米ヲ渡シ長井銀三郎造ヲセ申候欽夫丹生記曰未詳何神每歲四月晦日爲祭供六十六數赤飯事出軌其說誣妄不贅茲 今近世此神社ニ井水ノ濁惡スル者ヲ祈レハ忽清冷變ス靈地アリ方俗及松坂坊間ヨリ詣人多シ

八幡祠 本邑ノ内字ハ世古口ニアリ方俗若宮八幡ト号ス若宮寺ト稱ノ眞言宗ノ僧住セリ神宮寺支配ナリ祭神石清水ト相同シ 安永四年社域ノ老杉樹顛倒ス其價ヲ以テ拜殿ヲ造建ス每歲八月十五日神樂ヲ奏シ祀ル相傳天正年中當郷住人三井伊賀守再興ス其後ハ村民ヨリ修補

セリ舊ハ今ノ西樂寺ノ北ニアリ 域内ニ末社 稻荷 愛宕權現 子易祠アリ

八王子祠 字ハ下邑ニアリ神宮寺支配下村ノ生土神ナリ 祭神八王子祭禮二月八日六月十六日神樂ヲ奏ス何ノ時勸請スルヲ不知每歲二月八日御黨ト稱ノ拜宇ニノ神宮寺住侶法樂アリ法樂畢テ村民拜殿例座ヲノ饌ヲ薦ム古樸ノ風ナリ又五人黨ト稱ス式アリ

天神祠 字ハ今在家ノ巷中ニアリ祭神菅公 方俗田端天神ト稱ス舊ハ谷ハタト稱ス今此地チ今在家ト云每歲二月廿五日祭禮饌ヲ散ノ幼兒ヲ賑ハス其祀時代未詳 神宮寺支配セリ

惠比須祠 字ハ市場ノ巷西ニアリ此地ヲエビストノト稱ス三福神ヲ祀ル方俗惠比須堂ト稱ス祭神中央蛭子西大黒天東弁財天女神宮寺支配ナリ舊ト此處ヲ三ツ堂ト稱ス往昔ハ阿彌陀佛蛭子大黒天ヲ安置ス文明十一年住人長井四郎左衛門幸富此堂ヲ上田野ニ遷シ西導寺ヲ建營ス其後此處ニ蛭子大黒ヲ置シ又河口某今ノ三福神ヲ造テ安ス舊ノ本尊ハ今神宮寺ニアリ每歲正月十二日開扉村民羣拜ス市場郷中ヨリ鏡餅神酒ヲ供ス

星ヶ淵祠 又寶珠カ淵ニ稱ス 相傳神功皇后三韓征伐ノ時伊勢神宮ニ拜シ神託ニ因テ丹生明神ニ軍利ヲ禱リ玉ヲ其時神此地ニ影向滿干ノ二珠ヲ授ク處ナリ故ニ寶珠カ淵ト稱セリ

淨蓮筆記曰昔丹生寶林庵ト申眞言ノ僧アリ丹生大明神御告ニ天地開闢ヨリ此本ノ本主ト被仰候定テ寶珠カ淵ニ御坐成ルヘクト念願シ百日參詣申ス處ニ日中ニ淵ノ底ヨリ忽然ト白紙一

井九十三

枚水卷上ケ水面ニ暫ク御坐被成ヌ水卷下ケテ淵へ入候難有ト申傳候植村久左衛門入道淨閑物語事云

鱒淵祠 祭神未詳 其邊ニ柳ノ老樹アリ傍ニ小池アリ所謂鱒カ淵ナルヘシ近郷ノ民俗腰足ノ疾ヲ祈ルニ靈應アリ鱒魚ヲ焚食ス 近世智禪寺ノ住侶忍超和尚郷民磯田梁玄入道ニ力ヲ戮セテ本地楊柳觀音ト稱シ正月五月九月十七日三時ニ佛供ヲ進シ灯ヲ掲テコレヲ祭ル村民群詣セリ

富士淺間祠 字ハ髭祖山ノ頂ニアリ神宮寺支配ナリ 祭神駿州富士權現ニ同シ本地大日如來 欽夫丹生記曰舊在大師堂西ノ山上上寬永十五年造之貞享二年遷斯嶺木華開耶姬也

小玉ノ祠 字ハオタマ山ニアリ神主支配ナリ村民零ノ時此嶺ニ登ルコノ處ヨリ晴霽ノ時ハ東海ヲ望富士峯ヲ眺致景ナリ

三狐神祠 祭神三狐神專女ナリ稻荷ノ末神ナリト云又曰社口神ト或曰赤口神 箇良内傳曰赤口日は大赤ト号ス此神ハ口内ノ過ナシラアル神ト云ナリ正月四日ヲ赤口日ト云第四ノ八獄率神ニ當ルニ據テナリ其アタリヤウハ正月一日兜鶏羅神二日摩醯修羅神三日閻獄受神四日獄率神ニ當ル依テ赤口日ト云又四日ヨリ次第ニ筭テ十二日九日目ニ當ル故ニ赤口日ト定ム又十二日ヨリ次第ニ筭テ二十日ヲ赤口日二十日ヨリ次第ニ筭テ二十八日ヲ赤口日ト云

ナリ九日廻リト必ス定ナリ今詳ニスルニ社宮司或三狐神等ノ稱ハ神祇ニ據レリ赤口神ハ梵ニ近志摩州鳥羽浦ニ社宮司ノ社アリ方俗徭神ヲ祀ルト云其徵未詳國花萬葉記ニ所載ハ猿田彦大神ヲ崇祭スル處ナリト云

大將軍祠 下村ノ内路傍ニアリ所祭ハ將神ノ其一大將軍ナリ 神社啓蒙引日吉神道密記曰大將軍ハ大山祇女木華開耶姬之婦也神代昔以其貌白醜而遂不幸焉云故此神守夫婦ノ配匹云 國華萬葉記曰大將軍社凡古へ平安城ノ四方ニ此神ヲ祭ル東ハ岡崎西ハ紙屋川北ハ紫野大德寺門前今南方ノ一祠ヲ漏セリ猶可考就中北方ノ祠ハ女神磐長媛ヲ勸請ス云 木華開耶姬ノ婦也西ノ祠祭神未考東祠ハ關羽ノ廟云

幸ノ神祠 下村ノ内圓通寺風呂屋ノ傍ニアリ祭神八將神ノ其一大歲神 村古老云往昔此郷ニ八將神ヲ祀ルト云ヘリ其餘ノ大將神何處ニ祭ルト云ヲ不知以上ノ二詞ハ方俗山祇祠ヲ祀ル日同ク祭奠スナリ 或曰幸ノ神ハ道祖神ニシテ猿田彦大神ナリ洛京西一條大路ノ北ニ幸ノ神町ナリ此詞ヲ祭レリ 卜部兼邦曰猿田彦ノ事神宮ニテハ興玉神山王ニテハ早玉男熱田ニテハ源大夫道祖神ニ幸神ニ又サキタマ出雲ニテハ手撫槌ト云ヘリシヤウケ神又宇賀神ニテハ善惡ニ二六時中人人ニ起ル處ノ一念ノ氣ニ乘ノ形ヲ現ノ障礙ヲナスヲアリ蹴鞠ノ坪ニ於テハ鞠ノ明神ニ現ル云

晴明祠 字ハ西河ニアリ祭神安倍晴明靈 洛京河ノ西一條大路ニ北人家ノ中ニ晴明社アリ故ニ晴明町ト名シ

鎮守祠 字ハ宇治世古ノ巷ニアリ 欽夫丹生記曰不知其何神每歲正月祭之

稻荷祠 大師堂前ノ傍ニアリ 神宮寺ノ鎮護神ナリ

月埜祠 舊ト字月野ニアリ 欽夫丹生記云在月埜今絕其社地未詳

上田野 雜記所載丹生津姫ノ詠哥ニ讀ル上田ト云處ハ丹生村ニツキ北ノ端ノ里ヲ上田村ト

云 北島權少將國永集云閏三月末つかた丹生大明神へまいり下向し侍るに上田野といふ所を通りて千早振神の御前に行かよふ賤かうへ田の野にる賑

不輕塚 丹生儀軌云上田ノ野中在常不輕菩薩塚是釋尊出世ノ砌這丹生津姫轉常不輕菩薩法華

第七軸不輕品演說給云云往昔釋尊御袈裟五寶水金令封納壺給大行事宇賀神將菩薩御靈守護

耳又曰吾毎日に在攸令遊駕竜馬高祖誘引而到上田野現四所御姿山口土公二神爾宜丹生津姫在

御詠哥曰

伊具比佐而今平久於毛意天加與伊阿蘇波加古能上田野能阿羅奴加義利和與

丹洞夜話曰此處ニ不輕塚ト云也昔百億ノ釋迦說法ノ遺跡ナリ人皇四十五代聖武天皇ノ御宇

行基菩薩勅ヲ奉リテ天照大神ニ詣シ託宣ニ據テ一粒ノ佛舍利ヲ持テ當郷上田野ノ邊常不輕

菩薩塚ニ納メ玉フト也 聖武天皇天平五年東大寺大伽藍建立之寂願雖然吾國神國也佛法興

隆伽藍建立之事依神慮難斗内證以行基菩薩爲勅使以種々帛並佛舍利三粒捧神明行基二七日夜

内宮一鳥居參籠ス滿七日之夜神明現于菩薩之前告言實相真如之口輪者照生死長夜之暗本有

常住之月輪者拂無明煩惱之雲云 世人謂之夜託宣矣亦奉佛舍利時託曰今難值值如來遺身

如渡得船闇夜得燈則以之可納飯高宮 與釋書所載消異 佛舍利ハ此不輕菩薩ニ納メ玉フトナ

リ今モノノ處ニ於テ除夜深更ニ及テ神宮寺住侶密法ノ行事アリ 今詮スルニ神社及神宮寺

ノ徒ニ儀軌ニ據テ嚴重ノ靈場ニ誇ルトイヘ取テ其徴ヲ得ス又聖武天皇奉佛舍利ヲ此處ニ

藏座スト所傳モ本郡垣鼻村信樂寺ニ同傳アリ其條ニ詳ニセリ東大寺寂願ノ由ヲ行基ヲノ神

宮ニ告ル佛舍利ヲ奉ノコ、ニ座ムノ所傳ハ元亨釋書及コ、ニ贅ストイヘ續日本聖武記ヲ

檢スルニ國分寺丈六銅像及寄田東大寺匠丁伊賀其餘國ニ差スノ詔アリ聖武天皇神龜元年ヨ

リ行基遷化天平勝寶元年ニイタリ僧徒ヲノ奉幣使ニ差ノ例會テナシ猶佛骨ヲ奉収ノ事實其

徴ヲ得ス淨圖氏ノ常譚ニノ釋書等ニ妄傳スル處ナリ然レハ其僞妄ニノ不足論トイヘ此處

ハ往昔神佛習念ノ神宮寺ノ所傳ハ各空海ヲ所荷負ノ誇說ヨリ起レリ嗟衰世ノ弊今ニ於テ弄

捨スルニ不堪 俚諺曰俗言云丹生郷斷絶セントスルキ家三戸ニ及タラハ此處ヲ堀穿見ルヘ

シト傳フ 今稽ルニ此俚諺往々村邑ニ所傳アリ此地ハ儀軌曰釋尊御袈裟五寶ノ水金令封納

壺給ノ傳ニ據テ其高價ノ靈寶ヲ民用ノ資トスルノ意ヲ含マル俗傳ナルヘシ

鹽加伎場 本社ノ乾位ニアリ河俣河ノ水厓ナリ河水ノ中ニ海潮ノ満干ニ隨テ潮水ノ涌ク處ニ
間四方許水底茶褐色ナリ泡沫水面ニ浮フ其候ナリ然レモ海潮ノ増減ニ半時許遲シ毎日試ル
ニ然リ方俗父母ノ喪服ニ此地ニ潔齋ス父ノ服ハ本社ノ手洗河ニシテ清メ母ノ服ハ此地ニテ潔
ム河水ト潮ノ落合ニテ初ハ浴シ後ニ鹽坪ニ浴シ潔齋ス例ナリ又本邑ノ内字ハ河原ト稱ス處
ニモ鹽井アリ此地ヨリ東海瀨ヘ行程四里ニ遠キ處ニ海潮ヲ出ス奇異トス今稽ルニ漢書廣
輿記所謂蜀郡ノ鹽井陝西寧夏ノ鹽池及大明一統志鹽泉及本邦陸奥州會津大鹽村大倭州吉野
金峯山等ノ鹽井是ト相同シ 此鹽井鹽池ノ所在ニノ方俗ノ口碑ニ弘法大師ノ咏ト稱スルア
リ

細頸の南の浦にさす鹽は丹生の内外のみしほなりけり

又或ハ御鹽御被ニ作ル細頸ハ松坂府城ノ坂内河ノ末流十町許ニアリ舊名保會久美ト稱ス今
ノ松ヶ島及松崎浦ノ地方ナリ 垢離搔場ノ上ニ松林アリ小祠ヲ祀ル祭神底度久御魂方俗鹽
濱神社ト稱ス相傳云弘仁年中弘法大師ノ建營ス處ナリ其傍鹽坪ニ子持石竈巖鳥帽子岩等ノ
巨巖アル又其地ニ石碑アリ住人長谷川三慶等建之碑銘曰 潮澤 俗曰鹽かまば弘法大師和
歌曰

細頸の南の浦にさす鹽は丹生の内外の御鹽なりけり

潮澤 流筏 愚撰丹生八景其一

長谷川三慶

空海鹵祈生水濱 穢身沐浴更清新 川流激澗浮浮筏 遙憶直臻天漢人

貞亨乙丑祀華月良日

子安井 字ハ聖坊ニ置ク傍ニアリ相傳云弘法大師加持水ナリ 近世此地ニ地藏石佛ヲ彫シ碑
ヲ建ル 淨蓮筆記曰天正十二年三月十一日三瀬亂ヨリ以來子安ノ井七十三年浚ヘ不申ニ付
過半土ニ埋レ候然處ニ隣郷ヨリ昔ノ如ク産前ノ女人垢離ヲ取ニ參候結句當處ノ者ハ子細ヲ
モ不知候テ剩近處ノ百姓ハ子安ノ井ヲ汲テ世事ニ遣ヒ井ヲ穢シ申故ニ左様ノ輩數人死失家
ナトモ絶候アリ不思議ニ存シ候テ大師御前ニテ御闈上リ候案文字安ノ井末世衆生ノ爲ニ産
前産後ノ女人安ノト誕生ノ御深秘ノ井ニ候ハ、浚可申哉又子安ノ井ト誤リ來リ候テ別ニ
子細無御坐井ニテ候哉右ニケ條御闈上候處ニ深秘ノ井ト上リ候故急キ井ヲ浚ヘ可然ト存テ
其段氏子相談イマシ候ヘモ彼是申族有之調不申經年月候明曆二年申長井新之丞日用ヲ以井
ヲサテハ申候處ニ水際ニ横穴三方ニ御坐候南方ハ二間ノ竹不及西方ハハ二間許東ハハ一間
餘アリ井底ニ大石ニ文字アリ此押ヘヤラン三方ニ大石三ツアリ誠ニ深秘ヤラン精進惡キ若

キ者ハ煩ヒ甲精進ヨキ者ハ不苦候然ハ穴底ニテ日用ノ者身ノ毛堅ホト恐キト申候 中畧重テ
大明神御神前ニテ神主空之助頼ミ御閣上候案文 子安ノ井水末世衆生産前後ニ用候ヘハ息
災ニ候故深秘ニ御ホリ被成候井ニテ候ハ、石垣ヲ積鳥井ヲ立井筒ヲスヘ目出度候哉 人民
誤リ來子安井ト名ケ候テ別ニ子細無御座候哉右ニケ條ヲ上候處ニ石垣ヲ積鳥居井筒ヲ立候
ヘト御閣上リ候則神前ニテ開候予長井左兵衛參會神主空之助新之亟而三人御神前ニテ拜見
申候事大師御寶前並大明神所ノ御圖神慮ノ御井ト同前ニ上リ候事殊勝ノ義ニ御座候能々
信心ヲ以井上戴候ハ、何ソ其利生ヲ不得ンヤ

三水 丹生郷ノ三名泉ナリ龜ヶ井字ハ沖道ニアリ龜ノ井戸ト稱ス 松ノ木清水字ハ西沖ノ河
岸ニアリ 金ヶ清水字ハ葦カ瀬ノ邊ニアリ

名區 花岡山字ハ和久田沖中ニアリ櫻カ谷同處ニアリ 篠原字ハ田中沖中宮山ノ邊ニアリ
月野字ハ西沖ノ邊ニアリ各方俗ノ稱ス處ニノ撰集等ニ證歌モナシ然レモ古昔ヨリ所傳ニノ
コ、ニ載ス

丹生山成就院神宮寺 同處宮山ノ頭ニアリ眞言古義派舊ト無本寺 寶曆二年 國君ノ命ニ據
テ洛東山科勸修寺門跡御末ニ屬ス本寺格ナリ安永三年紀州和哥山寺社奉行直支配ニ屬セリ
本尊弘法大師木像 欽夫丹生記曰在社山中号丹生山眞言宗也弘仁七年丙申高祖弘法大師

223903

所創建而七堂伽藍之靈場獨立五本寺裏爲國內一宗之惣括也開基之始光仁天皇寶龜五年甲寅
岩淵勤操營建一字安千手大悲像今觀音堂是也按斯寺元曰成就院神宮寺蓋郷間之稱名非本号
但在社山中故云爾於焉詳于寺記桓武天皇延曆二十又一年空海詣伊勢二宮而祈求有日矣蓋海
跋踰海之志恐險浪危舫之當戰兢於是祈神明之覆陰者也于時神女現語曰奉大神之勅而大神固
感僧之懇誠我須加助求法晝夜衛護僧也實法器也急入唐當定爲一乘傳燈之祖往焉往焉勉旃我
去斯而西爲丹生津姬言已而隱海稽首禮拜獨自負焉二十又三甲申從遣唐使藤原實能汎渤解入宋
謁青童惠果密法受授大同改元飯國矣海初將泛舶之日手執三鈷密器持念云我法入日域久属流
轉則願斯器ト靈區便向本州擲之其器飛入雲中也已飯而尋求無知者適紀之粉河山中遇一處人
首着赤兔皮腰帶弓箭從黑白二犬處人曰師爲空海乎何爲而到茲海驚異之語以其由處人曰師去
我與指南乎任斯二狗所之必得所求即駐金剛峯寺三鈷松下果獲其器海嘆未曾有又知處人爲神
也於是兩狗去海趁之遂入斯山中而不見肇知丹生明神鎮座之英嶺彼犬則爲神之使獸也海將謝
神恩而敬崇給事三年神現庭面石上郷俗相傳曰對面石在今存焉其粉河處人者丹生明神ノ子高
野明神是也海與明神宮宇造此寺号成就院蓋求法夙念成就之故也然中絶而後無再復資且天正
之寇火殿宇諸像名人書畫四百五十餘幅大師眞毫寺記其餘重器舊物悉爲烏有是找者固所相傳
之言豈可不惜哉今幸殘者大師自木畫兩像眞之古物實所以斯地之將徵而民人渡濟之化基也接

當寺諸堂之名跡共不可曲測只大御堂御影堂爲古之所在乎相傳在昔卅七坊今聖坊巷其處云然則諸跡疑在十王堂橋北民宇耕種之地 本堂舊不知在何處天正火後在今御影堂前東其宇至微々我祖九郎左衛門嘗嘆之於時三領監史長野九左衛門與祖父相善遂共謀移建堂於今處時寬永十三丙子也安毘廬遮那像近代所新彫之像也 大御堂御世俗崇貴之稱蓋其製比諸宇尤大也俗曰大御堂又曰觀音堂安行基菩薩之彫刻十一面觀自在像伊勢順禮三十三處之一當第十二相傳今阿濃郡津觀音堂摸此宇者也按記曰高祖入山有一字安十一面千手合形大悲像宇之上梁銘曰寶龜五年某日石淵勤操創之高祖感異之自彫刻多門不動兩像左右副之惜哉罹天正賊火爾後結茅宇偶置斯像蓋嘆其廢蹟延寶某年住職良範法印與斯堂遂爲之本尊也」御影堂 又曰大師堂大師自刻真以爲在任徵誠聞見希有之靈相所以萬人全生駭歎幸逃天正災存于今焉今堂彼火後南嶺與山所假建也 鐘樓記曰寶惠造之天正十六年蒲生氏其歎鐘音雅命入之城中到大河內不行終弄擲之去觸石音啞慶長十六年辛亥我曾祖父彦左衛門監而鑄冶之宇亦成 法樂記曰寶惠建之今廢不知其地 經庫 藏諸經記曰寶惠造營之今廢不知其地 六地藏閣在明神一鳥井北一年爲洪水漂流到河俣川今製其徵者也是高祖實拜明神處所謂對面石在斯處記曰眞雅建之安地藏六像其一高祖彫之其五寶惠刻之云 樓門其蹟未詳檀信四來荷鐸鍬施巧力 丹生山成就院神宮寺緣起畧曰 高祖弘法大師八八皇四十九代光仁天皇御宇寶龜五年六月十五

日御誕生父ハ讚州志度郡屏風ヶ浦領主佐伯眞氏母ハ阿刀氏也十二歳ノ時阿刀ノ大足儒ヲ教ヘ十八歳ニテ大學ニ入り然ルニ出家ノ望マシク石淵勤操僧正ニ歸依シ二十歳ノ時檜尾山ニ於テ剃髮シ人皇五十代桓武天皇延暦二十二年高祖大師和州久米ノ塔内ニ於テ大毘廬遮那經ヲ感得玉フ爾ヨリ以來入唐學法ノ意願アリ伊勢國阿大丹生ニ詣シ精勤ニ祈誓シ玉フ處天女引接ノ一函ヲ授テ曰吾ハコレ天照大神ノ勅ヲ奉テ今ヨリ佛法興隆ノ且那トナラン是ヲ以テ毎日旭ニ向テ頂禮恭敬セハ國王大臣歸依シ念願速ニ成就セントコヽニ於テ大師彌喜ノ師主勤操僧正ノ許ニ還リ玉フ而ノ勤操僧正人奏ニ據テ延暦三年遣唐使ト同ク遙ニ蒼海ヲ渡テ大唐ニイタリ即青竜寺惠果和尚ニ謁ノ盡ク密法ノ大法ヲ傳ヘ大同二年ヲ以テ本國ニ還リ玉フ秘密曼荼羅ノ教此日正ニ興リ即心成佛ノ道此時始テ聞フサレハ上一人ヨリ下方民ニイタルマテ歸依セスト云コナシ然ルニ弘仁ノ初紀州及和州ヲ遊歴シ玉フニ偶一人ノ獵者ニ逢玉フ獵者曰イカニ上人此峯ニ入ヌト大師應テ曰去シ延暦年中天照大神ニ祈奉テ福智ノ粗那ヲ得タリコヽヲ以テ入唐求法悉地成就ス庶幾ハ其粗那神ヲ見ント欲シ且ハ大唐ヨリ吾朝ニ向テ三種ノ金杵ヲ投キ既ニ二杵ヲ尋得タリトイヘ未一杵ノ在處ヲ不知故ニ豊受大神宮ニ祈奉ル即御告アルニ任セテ此峯ニ入ヌト獵者完爾トノ曰吾ハ是其粗那神ノ第一ノ子ナリ吾母神ハコレヨリ東ニ當テ住處アリ又是ヨリ坤ニ當テ一ノ靈地アリ名テ高野ト云其三杵カシコニア

リ吾ハコレヨリ母神ノ處ニ詣セント欲ス故ニ教導シ難シ因テ此二犬ヲ屬スヘシ但彼行ニ任セ玉フヘシト大師乃二犬ニ從テ高野山中ニ入玉フ三股光ヲ放テ松枝ニ掛レリ禮拜双戴ノ二犬ニ謂テ曰汝等ハ應ニ是普賢文珠ノ二井ニシテ我法ヲ助ンガ爲ニ獸形ニ化生スルナラン願クハ又祖那神ノ處ニ引接セヨト時ニ二犬東ヲ指テ歸ル大師彼ニ從テ步玉フニ終ニ伊勢國丹生ノ山中ニイタリ二犬踞ル處一ノ梵閣アリ大師其梁ヲ見玉フニ寶龜動操和上草創トアリ其時二犬ニ餌ヲ飼ヒ玉フ處ヲ今餌カヒ山ト云茲ニ因テ大師彌又希有ノ思ヲ起シ石頭ニ在テ勤念シ玉フ最切ナリ時ニ祖那ノ神明影向ノ又石上ニ立テ宣ク日々ニ法施ヲ受トイヘ未道顔ニ對セヌ吾ハ是天地開闢ヨリ以來丹生津姫ト現ノ此山ノ本主タリ此山ハ册神ノ乳滴ナリ故ニ此山潤フキハ三界皆潤フ此山カハシキハ三界皆衰フ此山ノ水金深廣ナルコト四万由旬縱横也ト云大師石座ヲ對面石ト號シ明神ノ石座ヲ影向石ト云大師曰我已ニ高野ノ勝地ニ伽藍建立ノ願ヲ發ストイヘ先此ニ住ノ神社ヲ草創シ人民ヲ利濟セント則杖錫ヲ止更ニ神託ヲ乞テ神社及佛閣佛像等ヲ造立シ玉フ 神社ハ乃丹生宮高野宮椿宮高宮天王社三輪社土公山口社等ナリ佛閣ハ大門中門寶塔護廣堂巡服堂十王堂聞持堂成就院等ナリ鐘樓經藏法樂舍寶惠僧正六角堂ハ眞雅僧正造營本尊六地藏尊六体ノ一体ハ大師御作五体ハ寶惠御作也又一鳥居額丹生高野兩大明神八字ハ大師御手蹟ナリ 就中今ノ御影堂本尊弘法大師ハ大師四十二

歳ノ時頻ニ衆生ノ厄難ヲ憐ミ又末世ノ結縁ヲ思ヒ山内ノ琵琶カ池ニテ水鏡ヲ見テ自刻玉フ尊容ナリ其時壽像ヲモ製玉フ 又關伽水ヲ加持シ玉フ處ヲ今子安井ト云又土沙ヲ加持シ玉フ處ヲ湖澤ト云塩カキ場ノコトナリ 人皇五十二代嵯峨天皇御宇弘仁十年夏旱ス勅ノ雨ヲコ、ニ祈ラセ玉フノ間秋霖雨ス又晴ヲコ、ニ祈ラセ玉フトナリ遂ニ此山ヲ以テ眞紹僧都ニ附屬シ高野山ヲ開キ玉フ其時僧房三十七ニ及ヘリ 僧都ハ大師ノ御弟子寶惠ノ嗣法御墓當郷ニアリ然後物換リ星移テ幾度カ兵火ニ罹レリ然トイヘ大師觀音等ノ佛像幸ニ恙ナキコトヲ得テ靈驗日々ニ新ナリ若夫貴賤男女共ニ一タヒ此山ニ登リ慈顏ヲ拜スルコトヲ得ハ罪障ハ霜ノ如クニ消福壽ハ雲ノ如クニ増セン誠ニ高野ハ大師ノ定窟明神ノ勝境ナリトイヘ女人ノ往詣スルコトヲ許サス然ルニ此山大師ノ靈跡明神ノ本宮ニシテ女人ノ登臨スルコトヲ禁セス故ニ世ニ女人ノ高野ト稱ス 右儀軌ニ倣ヒテ縁起ノ意ヲ摘テ記ス 什費 水鏡御影畫像 丹生宮乘場額

般若心經 各高祖大師眞毫自餘靈寶畧之

丹生宮之乘場六字相傳云上田野不輕塚ノ額ナリ 開扉定日 毎月二十一日明六時ヨリ夜

四時ニイタル 六月十五日 御誕生供 三月十九日 御身拭 二十日ヨリ二十五日ニイ

タル 淨蓮筆記曰天正十二年甲申三月十一日三瀬左京叛逆ノ手向丹生中テ火失仕候刻大師

堂住持覺源法印八十九歳ニテ大師堂へ入り火移リ申候時御戸ヲ御開候へハ早大師ノ御肩御膝ニ火付申候ヲ覺源御覽アリテ大師へ抱キ付同火ニ可相果ト思ヒ切内陣へ飛入被申候覺源ヲ大師御惜ミ候ヤラン但大師ノ木像ヲ覺源抱出候哉ラン西ノ庭中ニ御出被成火難御遁候事不思議ニテ候覺源ハ五体アママ焼被申大師御肩膝焼申候處クホミ御座候ニ愈合候ヤラン近年ハ其御アト無御座候由堂守被成候住持衆被仰候只生キ如來カト存候其奇特數多御座候事丹洞夜話曰今ノ御影堂四十七世文堯法印建立願人宗源 大師宮殿建立明和六己丑三月當住一如法印ナリ 今領主ヨリ高五石免除ナリ 大御堂 同處ニアリ本尊十一面觀世音儀軌云神宮寺勤操和尚草創同本尊十一面三體即一千手一千眼六大觀音合形深秘在焉寶龜五年歲次庚戌祭主子老人化來承丹生津姬勅託奉安置 本州順禮第十二番咏云

千早振神の御寺と聽からに後の世までもたのもしの身や

淨蓮筆記曰天正十二年甲申三月十一日三瀬左京叛謀假屋殿テ色太村ニテ討丹生村へ亂入之節ニ丹生在家へ火ヲ掛候風荒ク吹宮山へ火ウツリ大明神末社切石ヨリ上ノ段七社拜殿大師堂西導寺ハ折フシ瓦ヲナロシ下葺マテニテ火失申候事此トキ大御堂ハ不苦歎四所明神金山御前御供所其外末社ノ小宮ハ殘リ候事 又曰大師堂大明神大御堂神宮寺火失云 今稽ルニ如此ニ説アリトイヘル建立ノ事アレハ燒亡疑ナシ神宮寺ト所言ハ客殿ノ事ナルヘシ 又

曰根來法師伊勢福院通力ノ義秀頼公御聞候テ月々代參ヲ被付候中畧其折節丹生ニ御泊リ候時方々ヨリ御符ヲ爰ニ參候アマリ群集致シ大師堂ニテ禮盤ニ上リ被申候中畧丹生ニ三日逗留ノ内鳥目六十貫文餘散錢御座候ヲ内十二貫文宇治ノ宿へ被遣候殘リニテハ大御堂建立梅屋淨蓮角屋淨觀庄屋彦左衛門肝煎ニテ古キ家ヲ買立候今ノ大御堂是也以上 今ノ大御堂ハ延寶年中四十三世良範法印建立ナリ

六地藏堂 儀軌曰空海三七日立行ノ跡六地藏閣真雅僧都建立六体地藏中空海一体作之五体實惠僧都作之 淨蓮筆記曰天正十二甲申三月十一日亂ノ後山宗法印御代金山御前ノ宮ノ前ヨリ一鳥居マテ大道へ谷水切落川筋ニ仕リ一鳥居マテ水銀洗候テ六地藏石居根クツロキ兩年ニ二度マテ六地藏堂大風ニコロビ六体地藏大川マテ御流レ候丹生ノ領内ノ淵瀬ノ水ニ廻サレ御座候テ其後爰カシヨリ拾ヒ上ケ神宮寺へ持參リ候奇特凡可申様無之靈佛ニテ御座候事處ノ年寄共相談仕リ大明神大師對面石ハ三尺地へホリ入レマハリノ六本ノ柱堀立コヘ石マヘ立ツノ石モ柱ノ根へ埋ミ申候只今上ニ見へ候七ツノ石居ハ新シキ石川原ヨリ取ヨセ居候大工ハ松坂左大夫仕候昔ノ六角堂ハ椴皮葺種々ノ組物彫モノアリテ結構ニテ候只今ノハイカニモ無造作ニ立候テ軒モ淺ク地藏へ横雨カ、リ御濡レ笑止ニ候事

客殿 本尊大日如來 鐘樓 儀軌曰鐘樓經藏法樂舍實惠僧都造立 淨蓮筆記曰丹生大師撞

鐘安養寺清兵衛松坂御城へ取候テ大河内マテ釣リ出候處ニ俄ニ鐘重ク成リ川ハタニ捨置候大水出候テ流レ岩石ニ當リ鳴ヒ、キ候テ隣郷ニハ世モ滅スルカト驚キ候事慶長十六年辛亥鐘鑄申候文仙法印代施主長井銀三郎建立ナリ 今ノ鐘ハ寛保三年癸亥十月十三日了泉法印鑄替ナリ鐘樓ハ慶長三年建營破壞ニ及ヒ今ハ廢セリ

經藏 元祿四年八月文堯法印建立 明和八年二月一如法印再營舊ト石坂ノ上ノ東傍ニアリ後ニ今ノ地ニ遷シ焰广堂ニ兼用ス

文珠菴 開基大師堂ノ願主宗源法印備前池田大守ノ落胤ニノ元祿元辰年七月二十日寂ス焰广堂 今廢ス 舊ハ高野木食上人元清建立宇ハ市場蛭子祠ノ邊ニ建ツ後ニ神宮寺二王門ノ

北傍ニ遷メ近世破壊シ本尊十王ハ今ノ經藏ニ移セリ一如法印現住時ナリ 二王門 表ニ二金剛裏ニ持國天多門天ノ二尊ヲ安ス四十六世宥緣法印建立

護厂堂 本尊不動明王四十七世了泉法印建立本尊護厂堂ヲ造立セサル前ハ客殿ニ安セリ 藥師堂 本尊藥師佛

三十三所觀音堂 西國順禮三十三體觀世音ヲ安ス當郷ノ産明應法印三十三所西國順禮ヲ三十三度ノ願志ヲ起シ一佛ヲ彫シ其軀ヲ笈ニ負テ悉ク順拜シ後ニ此處ニ安置セリ 善女竜王祠 境内ニアリ相傳云淳和天皇天長元年ヨリ三月ニイタリ大旱ノ時弘法大師守敏僧

都法力ヲ爭ヒ弘法大師天竺國無熱池ノ竜女ヲ請テ雨ヲ降シ天下ヲ潤ス後ニ洛京神泉苑ニ祀ル其因ニ據テ此地ニ勸請ス處ナリ

稻荷祠 同處ニアリ 寺領高四石八斗二升一合文祿三年豊臣氏御檢地ノ時東玉齋除地免除ナリ元和五年國君先規ニ據テ免除在

末寺 田丸領 平谷村 坂野庵 同領 仁田丸 小野坊

神宮寺住侶曆代

開山勤操僧正 天長四年五月七日於西寺北院遷化七十歲

弘法大師 承和二年乙卯三月二十一日入定

真紹律師 貞觀十五癸巳年七月七日寂七十九歲

真雄律師 修澄法師 曆滿法師 成深法師 勝心法師

高忍法師 心定法師 寬忠僧都 義覺僧都 隆長法師

阿空法師 辨運法師 覺蓮法師 融雅法師

一如上人 建久二年寂 淨遍法師 建久九年 實心律師 承元二年

堅如僧正 建保三年 意良僧正 嘉祿元年四月七日

思良權僧正 仁治二年八月 道悟上人 正元元年

演壽上人 文祿七年六月十九日 能定法橋 弘安五年十一月四日

思快僧正 弘安九年正月五日 顯惠僧正 延慶三年七月四日

顯隆僧正 元亨元年三月廿八日 弘堅法師 延元二年

弘覺法印 元和元年四月二日 亮覺僧正 永能三年十二月三日

空惠法印 應永十二年二月二日 亮濟法印 正長元年六月日神社佛閣悉燒失

敬畏法印 文安元年正月十五日 高淨法印 文明十年三月三日

實命上人 文龜二年十一月廿二日 運智和尚 大永二年三月一日

運源和尚 天文十七年八月十二日 堅長法印 永祿十一年二月十八日

覺賢法印 天正十三酉年二月廿一日寂為兵火諸伽藍燒亡

良心法印 慶長十二丁未三月十五日在職二十三年大師堂再建

快嘉法印 寬永六己巳年四月八日寂住職二十三年鐘再興

快長法印 寬文八年五月三日寂大師堂建立

文堯法印 元祿十四年七月十四日寂御影堂建營

堯政法印 正能三癸巳年十月十四日寂五十七歲 高野山隨心院卅代一号嘉運上人

省緣法印 享保八癸卯年十月十七日寂五十九歲仁王門建立在住廿二年

了泉法印 寶曆十三癸巳年七月十三日寂七十二歲護廣堂建立

一如法印 字無染天明五乙巳年十一月廿七日寂五十四歲大師堂及宮殿 堂前石階後門五十廊下建立諸伽藍修覆在住二十三年

丹生山寶國院西導師 上田野ニアリ舊ト寶國山照光院ト号ス淨土宗 洛知恩院末寺勢州六箇

寺ノ隨一

開山善譽上人 文明七年乙未三月十五日寂本堂本寶阿彌陀佛行基大士作 內佛阿彌陀佛弘

法大師作市場三ツ堂本尊ヲ安ス

庫裏 方丈 鐘樓 寶曆四甲戌年十月鐘錄二十九世海譽上人在住 鎮守祠 熊野權現什寶

元祖法然上人繪傳 二幅 土佐將監

光信筆 二十五菩薩畫軸 惠心僧都 唐畫涅槃像 六字名號弘法大師筆

淨土曼陀羅一幅 安樂房筆

本堂元祿五年ヨリ斧始同七年四月八日落成入佛供養 轉譽上人在住 欽夫丹生記曰在上田

野東舊號丹生山近代住僧廣譽和尚改寶國山淨土專念宗知恩院末寺也長享延德之年間長井淨

喜元為智禪寺相那有故而革宗為淨土創建斯寺開基僧曰善譽上人不知何許人也天正十三年為

寇火燒亡慶長年中再興方丈慶安四年住侶廣譽和尚勸化陀那所造也今ノ本堂彌陀者元與照光

寺藥師同作行基菩薩之刻長五尺四寸像也共安照光寺而我家之有也然斯堂本尊少依之寺僧請借於彌阿照光寺于時我曾祖父彦左衛門後改清著許可之遂為寄附焉事照光寺記協侍之勢至觀音新作之像也方丈彌陀弘法大師所彫也近年御堂零落之行基菩薩彫刻之彌陀入斯寺今時再興之移代方丈焉斯寺之藏物惠心僧都真筆曼陀羅同二十五菩薩之畫共大幅也不知其何時有又有元祖法然上人繪傳二大幅土佐某筆也明應三年鋤形源左衛門叩助力於諸檀買求之寄附云正覺院在全寺中舊在今鐘樓堂之地中興移造今地開祖曰光信天正炎上以先之僧也淨三院在同寺中承應改元年長井淨三建之因而為之號開祖曰僧善覺淨蓮筆記曰當山ハ當郷住人長井四郎左衛門幸富入道嚴譽淨喜建立ナリ開山善譽上人往昔當郷市場惠比須殿ニ西導寺ト云小寺アリ三ツ堂ト云文明十一年巳亥淨喜相求ム處ニ境内狹ク候ユヘ上田野ノ東ニ屋敷ヲ求メ寺ヲ引當二親善提堂方丈客廳庫裏門マテ建立并繪讚諸什具等相調寺領七十石寄領ス此寺領ハ浦生飛彈守代ニ絶タリ其キ住持ハ玉譽上人ナリ又一説ニ繪傳等ハ鋤形何某寄附ス天正十二年甲申三月十一日三瀬左京亂入ノ時炎上ス此時昔ヨリノ過去帳燒失ヌ天正十四年丙戌淨賢運兩人下出江村ニ三間四面ノ堂ヲ買求建立方丈庫裏ハ小片野村ニテ古家買建ル又西導寺戌亥ノ角ニ光心坊ト云寺アリ天正年中燒失明屋シキニ成長井銀三郎買求寄附境内ニ入ル又北隣屋敷一ヶ處炭幢上人代淨運寄附又北隣鋤形平左衛門入道露屋敷買求淨運寄附ス丑寅角

ニ露心屋敷少殘リ候ヲ長井孫右衛門入道淨本寄附如此買求寄附又西ハ上田野限東ハ川限北南ハ道限リ大屋敷ニ成ル又門ノ外辰巳角ヤシキ一ヶ處長井銀三郎寄附又門ノ南小畑茶園長井淨運寄附又門ノ外小畑長井忠兵衛寄附門ノ外未申角是ハ先年ヨリ西導寺持ナリ右四ヶ所ノ畑承應年中道ヲ南ヘヨセ門ノ内ヘ入ル今ノ往還ナリ又萬治三年庚子本藥師照光寺屋敷長井五郎左衛門寄附ナリ慶長七壬寅年秀譽上人建立此時淨運妻妙真金銀寄附其上粗那中寄進アリ中興ト云又曰中御所信意卿御家督渡シ大御所具教卿ハ三瀬ヘ御隱居ニテ候中御所ハ納所ヘ御在城アルヘシトテ普請有之候處奉行不調法ニテ延引ニ付射和延命寺ニ三ヶ年御入候處永祿九年大水出候テ佛檀マテ上リ申ニ付同十年丁卯ヨリ丹生西導寺ニ三箇年御坐候處地藏寺山ニ來年御普調可有トテ繩張鋤初ハ有之候是ハ腹大故世大服御所ト申候寺領三石吉田大膳大夫城主ノ時寄附其後元和五年先例ニ據テ免除ナリ塔頭二字東淨三院開祖香感清閑西正覺院中興竜覺今廢寺トナリ其地ヘ淨三院ヲ遷ス前往海譽和尚現世ノキ二院凡破壞ス正覺院ハ廢シ愛宕菴ヲ引移ノ淨三院一字ハ今ニ建セリ又境内ノ外照光廢寺ノ趾藥師佛小堂上坂ノ中ニアリ

西導歷代住侶

開山善譽上人

文明七乙未年三月廿三日寂

玉譽上人

法譽上人

淨譽上人

琳譽上人 及譽上人 寂譽上人 眞譽上人 教譽上人

萬譽上人 相譽上人 單譽上人 幢譽上人

中興秀譽上人 文錄慶長中 心譽上人 大譽上人 匡譽上人

信譽上人 運譽上人 行譽上人 欣譽上人 天譽上人

樂譽上人 廣譽上人 成譽上人 轉譽上人 稱譽上人

空譽上人 迎譽上人 照譽上人 順譽上人 彰譽上人

昇譽上人 文運社隨阿ト稱ス 觸譽上人 海譽上人 隱譽上人

觀譽上人 正運社 進譽上人

現住正運社觀譽上人ニ至リ開山ヨリ四十世ナリ明和三年ヨリ在住 末刹十一ヶ寺アリ其魁

ナル者 本郡下茅原田紫雲山西方寺 同郡同所紹日山清光寺 多氣色太日照山吉祥寺 同

郡津留田中山淨念寺 本郡上茅原田光明山三照寺 多氣郡朽原觀音山正法寺 本郡矢津

法界山福泉寺

丹生清泰山淨土寺 土宗字ハ下村ノ巷中ニアリ 本堂庫裡兼用 本尊阿彌陀佛 欽夫丹生

記曰是所謂下津村ノ地也淨土宗而斯鄉斯宗濫觴之寺也今來却爲西導寺末寺也 淨蓮筆記云

當寺ハ寛保四年三月廿二日火災アリ本尊過去帳燒失申來凡一向知レ不申候無住或ハ留守ノ

ミニテ本住ハ無之候 末寺 多氣郡車川觀音寺 本郡谷野美秀山長樂寺 野添寶珠山神正寺

不輕山淨運寺 禪臨濟宗 洛西正法山妙心寺末本堂庫裏兼用 欽夫丹生記曰在室世古巷西号

不輕山禪宗也元運作雲爲洞家越前州永平寺末寺中絶而後元和中長井淨蓮俗名銀三郎爲先考

淨蓮再興之改雲換運其子以正三首座爲斯寺之開祖三知醫學易善ト占今濟家雍州妙心寺之末

刹也

住侶歷代

開山一源正三首座禪師 承應二年癸巳七月六日寂

乾嶺惠亨首座 元祿三庚午年正月廿一日寂

天岸幸及首座 寶永三戌年十二月三日寂

中興妙心第一座桃谷和向 享保十二年三月廿四日寂

雪峯智益首座 寶曆十二年十一月二十日寂

智益ヨリ寛延四年今ノ地ニ遷ス舊地ハ耕田トナル代々住侶ナリ看主ニテ荒廢セリ

寶幢山成壽院智禪寺 字ハ沖道ノ西ニアリ天台律宗江州坂本西教寺末院飯野郡射和蓮生寺客

末 本堂元文四乙未年現住忍超建立 本尊阿彌陀佛 今紀州領主ヨリ高三石免除アリ本尊

長二尺九寸慈覺大師作或後白河天皇永曆二巳年三月再興惠心僧都作 後光蓮臺ハ享保十九

年寅十一月住侶忍超再造 脇士觀世音勢至長一尺五寸元錄元戊辰年村民長谷川八兵衛造立
脇相 田戒國師像 享保十九甲寅年十月廿九日村民西村與次兵衛造立

地藏尊 湛慶作 舊ハ本邑地藏寺山谷ノ堂ノ本尊ナリ天正年中破壊シ當寺ニ安ス
寶幢山額黃葉竺菴筆 智禪寺額 寶鏡院宮大覺院尊七十餘才染筆寬保二壬戌五月住侶忍超

代 欽夫丹生記曰寶幢山天台律宗真盛流也元爲坂本西教寺末寺近代有故爲射和蓮生寺屬
寺也相傳斯ノ寺鄉內亞神宮寺之古宇也雖欲考之無舊記可見只有中興古寶形堂銘曰永正十四

年造之又石地藏銘曰天文六年作之斯外無當徵者寺僧傳斯寺舊禪宗也至中興僧盛源法師爲斯
宗也 永祿中國司北昌具教公夫人爲大檀越今堂者即夫人所傳造立焉云所謂夫人ハ近江六角

佐々木氏也爾後至廣長八年住持真慶法師加修補又延寶七年今住職賢海和尚大勉補治之功矣
本堂彌陀惠心僧都彫刻左右觀音勢至ハ今來之新作也方丈佛彌陀及在觀音連慶之作也右地藏

惠心作也蓋先有連慶之勢至失之偶安地藏耳 客殿 庫裡 鐘樓 古鐘ハ元祿元辰年十一月
賢海和尚在住村民西村淨印造立新鐘ハ享保十九寅年忍超在住西村淨源再住

藥師堂 本尊藥師佛並十二神將舊ト聖光寺ノ本尊ナリ 欽夫丹生記曰照光寺在上坂巷東射
和路ノ右傍數十步号正陽山天台宗紀州雲蓋院末寺也安藥師如來像行基菩薩所刻二尺七寸之

座像也事詳寺記寺破荒地徒殘今其像預移智禪寺也斯寺元吾先之所創建而代知寺事吾祖父名

八右衛門嘗嘆其絕伯父八兵衛及家君共持先考之遺言汲々於再覆之思而有故以未果 丹洞夜

話曰舊當鄉向陽山聖光寺ト云唯天台ノ古跡行基菩薩御作彌陀藥師二尊ヲ安置ス明曆四年大

破仕リ候テ彌陀ハ當鄉西導寺ノ本尊ニ寄附ス藥師ハ當寺地内ニ盛徳菴ノ舊地ニ小堂ヲ建立
シ安置仕候西導寺故本尊ノ彌陀是モ古佛ニテ有之右本尊ノ代リトノ指越サレ候ヲ右ノ藥師

佛ト一字ニ安置ス依テ僧房ヲ照光院ト改候 照光寺藥師如來緣起曰勢州飯高郡丹生鄉向陽
山照光寺藥師如來者行基菩薩制作長二尺七寸之座像也伏稽其濫觸人皇四十五代聖武天皇欲

創東大寺不知神慮可否矣越天平十三辛巳年勅行基法師授持佛舍利一粒而令詣勢州皇太神宮
行基盧内宮南門大杉下七日告詔旨其夜神殿自開大聲唱曰實相真如之日輪照却生死之長夜本

有常住之月輪燦破煩惱之迷雲我今遇難遭大願如渡得船又受難得寶珠如暗得炬有去此西飯高
郡丹生津姬任其告納寶珠行基大喜而詣飯高郡持念丹生津姬其託曰我於釋尊出世之時現常不

輕聽法如今得此寶珠其緣不淺我詠曰伊具飛佐爾佐幾久於毛比天軻與比阿蘇婆牟古能字惠多
濃能阿羅牟軻幾利破封納于此處以鎮護邦家因是行基藏埋寶珠於上田野名常不輕塚至今尙在

焉其時行基自造彌陀藥師二像則照光寺藥師如來是也 丹洞夜話曰智禪寺開基ノ年代未詳宗
門ハ禪宗トモ申又天台ト申候後土御門御宇應仁以前ハ不可知候文明ノ間ノ住持徐翁永禪寺

ト申僧延徳四年四月二十六日遷化即明應元年改元アリ 同二年大河内御所眞盛上人御歸依御

授戒被遊盛源大法師ト申方ヲ智禪寺ノ爲住持天台律ニ改派アリ御寄附ノ地彌多被相添候由申傳候御所御受戒ノ前ヨリ御簾中御歸依ニテ御再興ト申傳候則智禪寺中興天台律ノ開祖ナリ郷内相傳祈願ハ神宮寺滅罪ハ智禪寺牛角ノ跡ト申習ハシ候御所寄附御證文ハ紛失シ永祿十一年添御證文一通今ニ有之候

於丹生智禪寺江寄進地之事

雖有違亂申族一度佛陀寄進之上者永代不可有相違候此等之趣智善寺江可申開候由所也恐々謹言

永祿十一月十日

房兼判

鳥屋尾石見守殿

今稽永祿十一年北畠具教ノ時世ナリ房兼ハ具教ノ三男式部少輔天正四年於度會郡田丸城生智禪寺領領ハ天正中亂後悉ク時ノ領主ニ沒納セラレ慶長十五年古田大膳殿御領ノ時院内並別地高三石御免許被下元和五年如先規國君ヨリ御免許御代々尊儀乍恐奉香華候笑地藏堂 本尊地藏尊 第三世覺源上人造立天文六年十一月廿四日開眼供養他郡ヨリ靈感ニ應ノ詣人アリ

寶篋印塔 天台律開祖盛源上人建立永正十四年十二月八日供養

鎮守祠一字 十禪師 辨財天女 稻荷ヲ祀ル 什寶 國戒國師御 大幅一軸自筆

縱横卦中金泥經文曼陀羅大幅一軸惠心僧都筆襍裝ニ永享三年修補ストアリ 來迎三尊佛畫像一幅惠心僧都筆 寶永四丁亥年五月岡井某附ス

十三佛畫像一幅同筆 六字名号一幅 元祖圓戒國師筆 十六羅漢畫像二幅唐筆

羅漢立像二幅同上 涅槃像大幅一軸筆不詳大永八年八月十五日寄附 此外慈覺大師紺紙金泥經ノ殘簡其餘古畫新畫墨蹟等若干後水尾院震筆 元祖圓戒國師ノ筆跡紛失其時ヲ不知云

智禪寺住侶歷代中興

天盛律開祖盛源上人 明應永正年中

現住永正十四年十二月十二日寂百万遍大數球寄附結衆百六十四人逆修爲寶篋印多羅尼塔ヲ建 永正十四年十二月八日供養

二世盛念上人 永正大永中現住享保年月十八日寂大永八年京師ノ畫人ヲ使ノ涅槃大像ヲ畫シム每歲二月十五日會ヲ修シ供物ノ團子ヲ黄昏ニ及庭中ニ撒ノ村兒ニ賑ハス是ヲ智禪寺ノ團子撒ト稱ス今尙然リ

三世覺源上人 享祿天文中住侶天文六年十一月七日寂稱名逆修ノ庶人往生ノ冥福ノ爲ニ地

藏石像ヲ刻天文六年十一月廿四日開眼供養

四世眞供上人 永祿天正中在任天正十四年四月五日寂 永祿十二年本堂僧房寇火ノ爲ニ悉燒亡ス地藏地山ノ谷堂古材ヲ取テ一字ヲ假造ス本尊ヲ安ス天正中永春大法師ト稱ス行僧寄附ノ畫幅若干ナリ

五世眞慶上人 天正慶長中住侶慶長十三年八月七日寂 慶長八年七月本堂再興故宇ハ客殿ニ作ル

六世盛玄上人 慶長元和中住侶元和年月廿三日寂

七世眞蓮社空譽上人 元和六年ヨリ寛永二十年ニ至二十四年在任本院ノ東餘地ニ一字ヲ造リ隱居眞蓮院ト号ス寛永二十年遷化ノ後荒地トナル又本院ノ門内右ニ盛徳菴アリ正保元年住僧入寂ノ後廢院トナル其後第十世賢海和尚照光院ト号シ藥師佛ヲ安ス

八世圓海法印 正保中住侶度會郡山田善光寺ニ請セラレ移轉

九世盛賢和尚 慶安寛文中住侶寛文五年廿八日寂

十世賢海和尚 延寶元年住侶在任三十三年正徳五年八月二十三日日本州安濃郡草生ニ移轉隱居ノ寂ス時八十四歳

十一世等海和尚 在任五年病ニ罹リ老師賢海ト同ク草生村ニ隱遁ス後病愈テ東都ニ寂ス

十二世圓達法印 寛永七年九月四日住侶在任十五年享保九年閏四月十二日三重郡富田ニ移轉

十三世盛音法印 享保九年八月住侶在任五年射和蓮生寺本末爭論ニ據テ轉住

十四世慈尙和尚 享保十四年住侶在任三年一志郡久居本村ニ移轉

十五世忍超和尚 享保十九年寅二月住侶明和三年八月二十七日寂元文四巳未年本堂再建佛像修補客殿修造等數多寄附セリ延享四年寺号善ノ寺ヲ智禪ト更メ寺号山号ノ額ヲ建立當寺ニ功績アリ門傍ニ一字ヲ建シ隱遁ス本性院ト号ス七十七歳ニノ寂スルノ後廢シ耕地トス此地ハ寶泉庵ノ舊地ナリ

十六世眞亮和尚 寶曆十四甲申年五月廿日侶

十七世眞正和尚

上田山西樂寺 西本願寺末淨土一向宗本堂本尊阿彌陀佛 庫裏 鼓門 欽夫丹生記曰在北世古巷ノ後斯寺或云古ノ阿彌陀寺也中絶ノ後再興之改西樂寺一向宗東本願寺之末寺爲國中斯宗四箇ノ隨一然今寺貧微無權威 丹洞夜話曰當寺ハ元來細世古ニアリ其時ハ祐生山法壽院阿彌陀寺ト號住持ヲ祐生老僧ヲ西生ト申候其刻織田信長公ノ御時雖望大坂城不應故元龜元年九月信長貴之光佐上人大坂籠城合戰數度ニ及ヒ天正八年光佐上人大坂ヲ出移雜賀同年大

坂頭如上人藤田城退居雜賀云其比當國司多氣御所具敷御隱居大御所申候子傳意御信
長職判各戰敗後和隱信長次其茶筌九義子家普共諷以信意申御所申事
丸御本所信雄願申奉引居城後松ヶ島移玉之義州北畠御領門徒御法度
實云云云云依之當寺入住僧南伊勢門徒阿彌陀寺攝防戰事天軍防難之終
貧家老四郎小太郎申事有之兩僧被申之敵生捕無念千萬候我々首討取可申由

西生辭世

法を得たなり及びはるるも西をたのしむ彌陀の淨土へ

祐生辭世

法を得て心よるこふ旅の道みの舟に乘をうれしき
是を最期の一書と頭取リヨリ立返シ討死仕候或云一人の家老ハ生ノ後長谷坂
ニ居住ス其處ヲ生首谷又坊主首谷申候又一向賣ノ申橋モ有之候此著到ニヨリ寶物等
紛失所殘ル候ハ小幅御影御裏書實如上人開山ハ天福ノ御名號然ハ殊ノ外損申候テ修覆モ
成テ不申覺如上人運如上人實如上人名號證如上人御文章有之候元祿十四年西方ニ歸參其節
寺號モ西樂寺ト改メ申候惣ノ伊勢ニテ御本廟ノ末派ハ一ヶ寺モ無御座候尤志摩邊ニハ少々
有之由其外々東方ニテ四方々下寺ニテ有之候四方申事丹生西樂寺玉正田空釋寺四正田法

相寺阿波曾西弘寺既ニ射和眞樂寺ニ四方ノ支配言金月番ニ勤申候處ニ本寺ハ願ヒ御堂衆ヲ
ニ居ニ種申候處ニ寒照寺ト申院家ヲ請待仕リ多ノ末寺ヲ被取申候ノ節四ヶ寺モ射和ノ末寺
ニ村居申候其後ニ多寺ハ播磨國本龍寺末ニ相成候ニハ西樂寺ハ其以後モ射和末ニテ有之處
元祿年中西方ニ歸參仕候當寺右ニ亂後西導寺ヲ裏ハ引又其後只今ノ土地ハ移リ申候年數ニ
義未詳明和八年ニテ凡百年許ニモ相成ル當寺俗姓佐々木黨織戶氏ナリ四正田法樹寺モ同姓
ニ派被寺ニテハ織戶又以山号ト致候

當寺概々ニ西生 祐生 空眞 蓮水 泝流 義詮 安永四年ヨリ現住 以上

道松山香念寺 高田宗一身田尊修寺末寺本堂庫裡兼用ニ本尊阿彌陀佛 丹洞夜話曰當寺ハ任
古天台宗ニテ沖道風呂屋世古キテ後高田宗ニ改派ナリ慶長十二年ニ身田堯秀上人御裡書
ノ名号アリ又沖道ヒテ道場岸云々ノ寺坂ノ下モ池ノ邊ニテシテ檀那北川正齋建立シ今
之地ニ移ス年代未詳元祿ノ末ハ比大ニ以開基代々住僧等未詳
近代住僧 良益 後上村寺ハ轉住元祿年中住僧ニ譚道 現住享保十六年住持

各爲山上村寺 高田宗一志郡小山青岸寺末舊名南ノ坊明蓮坊ト稱ス黒田淨光寺ヲ北ノ坊ト云
ニ傲ヘリ 本堂庫裏兼用 本尊阿彌陀佛 什物野袈裟書 元龜第四癸卯四月廿八日僧正堯
惠書之 同元祿八年午八月勢州飯高郡丹生上村小山青岸寺 下道場 堯圓 同六字名號
歷代御名 前大僧正堯圓寺號上村寺 元祿十一戊寅年八月十八日飯高郡丹生村場道小山
青岸寺下智教 丹洞夜話曰古來本尊阿彌陀畫像一幅有之候專修寺御門跡一身田ヘ引移不申
以前ヨリ道場ト申傳候ヘ元龜以前ノ義ハ一向相知不申候開祖之儀年代モ知不申元龜以後
ノ住僧モ知不申候

近代住持 智教 元祿年中住

良益 秋岸 覺山 智了 現住

欽夫丹生記曰在寶世古巷中斯處往昔上津村ノ地其在上村之故稱上村寺非此寺之正號元無之
一向宗一身田專修寺末寺也

正明廢寺跡

欽夫丹生記曰鄉ノ東遙拜谷ノ東阜曰正明寺山斯處也法華宗ノ元祖日蓮上人開基寺也上人真

筆南無妙法蓮華經石塔有之寺壞而後再造之資只塔ノミ存焉天正之始大黒屋某竊之如身延得
金二十又餘兩賣之其瑩石至寬永中尙存斯ノ後傳轉入宇治世古巷橋ノ下然斯ノ處時々見怪妖
杻者相語異之遂穿出其石移神宮寺爾後怪止矣今於神宮寺尋覓之未得其石

極樂廢寺跡 丹生記曰在正明寺東和久田之地山曰極樂寺山寺廢名徒殘至近年尙五輪石塔弄擲
透迄不知其小大幾數今來此地農夫取用之爲田地溝洫之限今什之一二亦不見焉

養安寺廢趾 丹生記曰十四反下谷曰養安寺谷今寺絕無凡言斯境內者廢規非諸寺遺址之類惜哉
其虛名焉 凡自下村巷而出丹生峠之路右曰十四反左曰二十八反其田畝字

正源廢寺跡 同記曰在安養寺上旁寺荒爲耕種地竹林有一井泉清潔可亦飲是其遺物耳
圓通寺廢趾 同記曰舊在今之津留山中其處曰圓通寺山往々佛器等掘出是處人家阻遠昔有盜賊
之患依之引寺於今之下村巷北圓通寺垣內地寺壞名殘農人耕種其處永祿七甲子住僧賢照

正善廢寺跡 同記曰在河原巷西今寺絕爲竹林遺井尙存
淨泉廢庵趾 同記曰在上坂巷中巷廢爲田家竹林有一片泉清潔美嘗嗜茶客甚愛之今尙稱淨泉水
云

持地菴廢趾 同記曰在上田埜西北隈菴絕爲耕麥地之字
阿彌陀廢寺趾 同記曰在不輕塚西若宮路左一向宗也天正年中鄉內有故禁斯宗毀其寺逐其徒爾

西運廢寺址 同記曰在北世古巷中今絕作農宇之處潘樹院廢址 同記云 北世古巷後今院無為竹林

正福廢寺址 同記曰在西之河流鍛冶瀨上方寺絕為耕地之宇

地藏寺廢址 同記云小寺谷與堂谷之間山曰地藏寺山寺絕為山名今鄉南六表寶形塔者即斯寺之

遺物也寬永中移于彼也今按智禪寺有湛慶所造之地藏像蓋斯寺之本尊也由其故古老云今智禪

寺方丈多用地藏寺之古材矣

小寺廢址 同記曰地藏寺山後谷曰小寺谷寺廢為谷名近年於斯處掘出古瓦銘於丹生山神宮寺六

字數者議云斯製非百數千年已來之作也

谷堂廢址 同記云地藏寺山與坊山之間谷曰谷堂今堂無為犁鋤地至天和始尙古碑五輪等在焉今

通曰

興聖廢寺 同記曰守江山與坊山之間谷曰興谷堂蹟為此處往々佛器等穿出掘地藏寺者夫古昔大

觀耶坊由僧宇之跡谷堂與堂地蓋斯寺之有矣

證據廢寺址 同記云申尾谷與豬谷之申間谷曰蓋據寺谷斯處也安天悲像至天正之間尙存今也絕

華嚴坊廢址 同記云在田中谷今俗誤曰氣古坊谷此地也坊今無

阿殿坊廢址 嚴當作舍 同記云在空谷今俗誤曰摩古坊谷此地也坊今無

以上錄夫丹生記所載廢寺遺址概而錄于此記中稱今者寶永四年編集之候所言也

當時存在堂宇

若宮寺 同記云在若宮八幡社東是元無斯宇近來司若宮神事僧居之故自號若宮 也僧者天台宗

也名曰和光坊好卜占云

南華院 同記云在津道巷北北世古巷西多氣國司之版依僧也常慕風穴演辨之作畧自好吹尺八于

今有南華流及長曆學其秘書四十三卷再傳入今之杉太夫家云又曰今大鏡巷疋齋園出斯院云

淨福寺 同記曰在宇治世古巷中一向宗一身田專修寺末寺也元在上坂巷中無寺號近來移此處於

一身田受號云

地藏堂 錄村本内ニテ本尊弘法大闡作

地藏堂 下村ノ内ニテ享保表筆聖村ノ住人シヨク仁兵衛建立セリ

以上丹洞夜談所載

興繼僧都墓 本邑ノ街道西ノ向字細世古ニテ又方俗此地ヲ尾崎稱ス大權少僧都法眼和尙位

貞觀十五年癸巳年七月七日遷化年七十九歲五十三相傳弘法大闡丹生山神宮寺ヲ再興遷ニ此

山ヲ孫孫其紹傳都ニ附屬僧都ヲ大師ノ弟子實惠ノ法嗣ナリ此墳墓ニ往昔者都ヲ東ニテ

中世此地ニ移築シ處ナリト傳明和九壬辰年三月二十六日九百年遠忌ヲ追福供養セリ卒塔婆ヲ建ル貞觀十五年ヨリ正當九百年ナリ或曰此墳ハ近江州石原住陰陽師某國司北島家ノ室禰禰者ナリ伊勢二宮ニ詣リ此路ヲ曆テ歸途ニ多氣ニ到ントス賀茂杉太夫又多氣ヨリ家ニ歸ル此處ニ遇フ石原某騎馬ニシテ無禮ス杉太夫怒リテ薙刀ヲ用テ弑ス室家コレヲ聞テ大ニ憤リ杉太夫ヲ罪セント議ス然レモ賀茂歷代國司家ノ博士タリ故ニ死罪ヲ宥メ郷ニ歸テ蟄居セシム其石原某ヲ瘞タル墳ナリ詳ニ賀茂氏筆記ニ所載ニシテ丹洞夜話ニ引徵セリ

產物 水銀 丹生儀軌曰此山自開闢以來冊御神乳滴也潤此山三界皆潤乾此山三界皆衰此山水金四萬由旬縱橫也 續日本紀曰元明天皇和銅六年五月癸酉令獻伊勢水銀 全文武天皇二年九月乙酉令獻伊勢國朱砂雄黃 外宮神領記曰丹生山上津原御園每年上分水銀五十兩奉之烏丸光廣卿職人盡哥合云

一さほにあてるところかねのねもはかりいくめどもなく人ろ見らるふあちさなやにふの見山にはるかねのみつから人にねもひ入ぬる

判云古哥たぐみなり右水どかねとを二にいひさりて題の心ねもひ入たるに似たり仍而爲持

松永貞徳毛吹草云丹生山ノ水銀異國ノ外當所ニアリ并ニ曆ト古キコハ伊勢ハ他ニ勝レタリ

怪異辨斷云 水銀ハ朱砂ヨリ出ルモノナリ朱砂ヲ燒テモ出ル又自然ニ地中ヨリ出ルモアリ拂林國ニ水銀海アリ本草綱目汞ノ下ニ出タリ日本ニモ伊勢國丹生山ヨリ出ルモノアリト云又馬齒笥ノ中ニモ水ノ如キモノアリト云ヘリ 或曰地藏靈驗記ト云俗書ニモ此地ノ水銀ヲ出スコナ載タリ未識 長井淨蓮筆記曰丹生村忌アシク候テ水銀山ニテ不思議御座候事明曆三丁酉年水銀山仕候處ニ水カチノ筋朝ハ出テ晝失セ又晩ハヨキ筋出テ夜ハ失セ申候晝夜幾度モ出來タリ失タリ仕候是ハ忌惡敷故不思議御座候昔ハ忌ヨク御座候テ一年モ二年モ水銀出候テ丹生繁昌仕候事大明神御掟ニ無用ト思召候山ニ穴ノ内ニテ土ヲ御マキ被成候久敷水銀山無御座候故今ノ若者モ大明神御掟モ不知候山ノ名中尾谷ニテ砂御マキ候ヘモ掘出テ存候テムサト堀候テ穴ノ天井ノ土落候テ世古口ノ者三人土ニムマテ申候多人數カ、リ掘出シ候處ニ宗七郎ト申モノ直ニ死ス是ハ女房月水火常ニタキ不申候由近處ノ者共風聞申候水カチ山ニテ天井ノ土落死候コ古今始ニテ候事中尾谷同山ニテ世古口三右衛門ト申モノ土ニムマリ申候ハ是ハ女房ノ兄相果候イマレ火三右衛門同火ニ給候テ水カチ山ヘ入土ニムマリ候掘出シ三ヶ年相煩ヒ腰不立候養生イマシ命助リ候事世古口佐次兵衛ト申者モ同シ中尾谷ニテ土ニムマリ候ヘモ掘出シ頓テ息災ニ成リ候是ハ忌能ク候ケ様ノ忌有無ニ據リ奇特御座候事山ノ名宗山ト申水銀山宇治世古ノ者仕候此山ニテ土ヲ御マキ候ヘモ若者モ大明神ノ

御定モ不存堀リ候處宇治世古新左衛門天上ノ土落候處ニ多人數カ、リ掘出シ候是ハ近處ノ者ヲ水カチ山ヘサソヒ候處ニ其者申様ニ今朝イマレ火ノ相伴仕候間水銀山ヘハ參ル間敷ト申候處ニ新左衛門申様垢離ヲカキ候ヘハ不苦候ト申候心得候ト申垢離ヲカキ申候ユルシ候新左衛門ハ土ニウマリ候テ掘出シ永ク煩ヒ申候垢離ヲトリ申者ハ不苦候忌段々高下御座候事水銀ハ澤山ニ御座候間昔ノ如ク忌能ク仕地下清火ニナシ水カチ山仕候ハ、出可申候 昔六十六ヶ國ニ御經納候聖丹生明神ノ御神体拜ミ申度念願ニテ一七日斷食ニテ參籠申候處ニ一七日滿スル曉結構ナル女体ノ御姿ニテ胸ヨリ血流レ候是ハイカ、ト申候ヘハ數多氏子養ヒ候水カチ掘候土ハ我胸ニ請ルト被仰テ夢覺候彼聖丹生ニテ被下候食物ハ丹生大明神ノ肉ヲ食ト存シオソロシク古江村マテ參リ候テ斷食上ケ粥ヲ給候ト申傳候事 天正十二申年三瀬亂以來御宮ヨリ一鳥居マテ水ヲ仕カケ百姓凡水銀ヲ洗ヒ大大路ヲ川筋ニナシ水付候テ參宮往來不自由ニ成リ申候一銀三郎日備ニ土ヲ買窪ニニ置水貫ニ掘テホリ參宮界道ヨリ仕候下畧 丹洞夜話曰 有德廟御在世ノ時小笠原石見守野呂元丈ニ仰テ丹破ヲ燒水銀ヲ取シムルキニ傍人右ノ火ヲ以煙草ヲ吞ケルニ忽ニ其土器破レケルトカヤ此人產家火ヲ食合セ候ユヘナリ凡テ水銀ニハ穢惡ノ火ヲ忌ム一此類ナリ又元文元年當郷北川丹拙醫生水銀試ミ堀ノ願ヲ出シ候處許シ玉ハス其後 國君ヨリ御試ミ堀アリ寬延三庚午三月堀始ナリ其後又松坂住

人阿坂屋某二三年堀ケレ凡果々敷出サル由ニテ止タリ爾ヨリ以來今ニ至リ其事ナシ 抱朴子曰丹砂燒之成水銀積變ノ又還テ成丹砂其去ル草木遠矣故能令人長生金汞在九竅則死人爲之不朽况服食乎 本草權曰水銀有大毒朱砂中液也乃還丹之元母神仙不死之藥能伏諫五金爲泥 本草綱目丹砂條時珍曰邕州亦有砂大者數十百兩作塊黑暗少瑩壁不入堪藥惟以燒取水銀 本若別錄曰水銀生符陵平生出於丹砂 又弘景唐本草曰今水銀有生熟此云生符陵平土者是出朱砂服中亦有別出沙地者青白色最勝出丹砂者是今燒粗末朱砂所得色小白濁不及生者甚能消化金銀使成泥人以鍍^{スライ}物是也 頌曰出於丹砂者乃是山石中采粗次朱砂作爐置砂於中下承以水上覆以盆器外加火煨養則烟飛於上水銀溜於下其色白濁陶氏言別出沙地者青白色今不聞有此西羌人亦云如此燒取但其山中所生極多至於一山目拆裂人采得砂石皆大塊如舂斗碎之乃可燒何故西來水銀多於南方者 時珍曰汞出於砂爲真汞雷敷言有草汞陶弘景言有沙地汞淮南子言弱土之氣生白礬石礬石生白頌蘇頌曰陶說者不聞有之按陳霆墨談曰拂林國當日沒之處有水銀海周圍四五十里國人取之近海十里許堀坑井數十乃使健夫驥馬皆貼金箔行近海邊日照金光晃耀則水銀滾沸如潮而來其勢若粘裹其人回馬疾馳則水銀隨起若行緩則人馬俱撲滅也人馬行速則水銀勢遠力微遇坑壑而溜積於中然後取之用香草同煎則成花銀此與中國處產不同按此說似與陶氏沙地所出相合又曰蓋外藩多丹砂其液自流爲水銀不獨鍊砂取出信矣胡演丹藥秘訣

云取砂赤法用瓷瓶盛朱砂不拘多少以紙封口香湯煮一伏時取入水火鼎內炭塞口缺盤蓋定鑿地一孔放盤一个盛水連盤覆鼎於盤上澆泥固縫周圍加火戟之待冷取出赤自流入盤矣邕州溪洞燒取極易以百兩爲一銚之制似猪脬外糊厚紙數重貯之即不走漏若撒失在地但以川椒末或茶末收之或以真金及銻石引之即上 今檢スルニ本艸所謂赤頰相同シ水銀ノ正名ナリ其出砂地者ハ蘇頌カ説ニナシト故ニ時珍所言ハ墨談ヲ引據ノ拂林國ノ水銀池陶弘景カ所謂出砂出者ト相似タリ稽ルニ各自然赤ニ丹砂ヨリ煨煉スル處者ニ非ス然レハ自然者ハ甚希ニ西土本邦ニ各煨煉スル多シ故ニ本邑ニ所産モ此法ヲ傳テ煨製スモノ也丹砂ハ諸本艸所謂朱砂即辰砂ノ事ニ丹赤ナル砂ニ非ス今此地ノ所産ヲ檢スルニ丹生神社ノ宮域ヨリ異位ニ洞穴アリ是赤洞ナリ方俗保賀口ト稱其洞口ハ三間餘次第ニ奧ニイタリ二間或一間半或一丈許ニ狭小ニナリ傍ニ横穴多アリ此處洞口ヨリ十五間許ノ處ニイタリ得スノ歸リテ洞口ニ出ツ其地ヨリ石塊ヲ轉シ入ルニ凡テ其響テ量リ難シ壁岳ヲ誤テ墮シ入ルニ頃時ニ遙ニ水音アリ是深奧ノ處水ヲ湛タル似タリ傍壁各石鐘乳ヲ生或乳ノコトク或ハ花ノ如ク或鏡面ノ如ク或鳥獸ノ如ク至多シ又方俗蝙蝠ノ糞ト稱スルモノ又多シ石燕尿ナルヘシ出入スルニ燭炬ノ火ニ駭テ飛旋スルヲ數石ナリ其餘灯籠金穴或階子金穴等稱スアリ各同シ大小ハ不定古洞穴數處アリ枚擧スルニ難シ其水銀礦ト稱ス者ハ丹赭色ニ東誠紋ナク常ノ砂石ノ質ニ雄黃ニ全ク

似タリ常陸州鹿嶋明神社地ニ産ス方俗神軍ノ血土ト謂者ニ同シ朱砂ト稱スルモ丹砂ト云モ各丹赭色ナルヲ以テ稱スルト惟フハ非ナリ朱砂ハ辰州ニ所出辰砂ト稱スルナリ或神砂ト名シ異物ナリ是同シカラス或江州石亭重曉所謂自然赤即掌中ニ握ノ清冷本州此地ニ所産ヲ製藏スト云又非也本邑ノ者ハ自然赤ニ非ス今古其製造ヲ不辨トイヘ煨煉スル處ニノ自然ノ涌出スル類ニ遠シ其地ヲ不檢ノ錄スルハ臆斷ナリ然レモ古昔水銀ヲ得タルハ此此物ニノ其煨煉ニ因テ水銀トナル製アリヤ否只所傳ノミニノ其真ヲ得サレハ今論シ難シ孰レ丹砂ノ産スルニ據テ地名ヲ丹生ト稱シ或ハ大倭州丹生神社ヲ所遷ニノ丹生ノ地名ヲ同クスルヤ又其徵ヲ得ス丹生ノ名ニ大倭州ニモ水銀ヲ産ス草根集ノ歌アリ

丹生山の氷をたゝく河波も月のかつらをかこるさく
根を絶へてさらぬ立木もあれぬへし水の金堀る丹生の柚山
五月雨に丹生の川瀬の柚下しひかぬによするささのやま際
名寄等ニ載ス象山ハ吉野郡小川庄喜佐谷村ニアリ丹生神社ニ近シ
新續古今順徳院御製

詞花集
つれなくて幾秋風をちさりさぬさき山陰の松とせしまに

會禰好忠

みよしのゝささ山際に立る松幾秋風にるなれ來ぬらん

夫木集

行家

大和路に越へき道は絶にけり象の中山雪ふかくとも

又象川アリ玉葉夫木集等ニ載タリ此ニ據レハ丹生ノ水銀ヲ産スルハ大倭州ニ隸ルハ至當ナリ前ニ載ス職人哥合丹生ノ深山云云ノ哥モ此地ノ咏ナルヘシ他ノ皆ヲ容ルニ及ハス分曉ナリ然ルニ本州大倭ニ亞テ上古ヨリ名勝舊區ノ地多シトイヘ凡其祈雨祈霽ニ幣ヲ献リ或ハ丹生神社ノ官蝶ニ隸シ及水銀等ヲ鑿リ出スハ大倭州ニ屬ス處ナリ然ルチ此地ニ強テ附會スルハ罵誇ニ據レリ前号田村磨墳或ハ隱山去來見山等チ本州ニ誤テ隸スルニ相同シ敢テ惑ヘカラス伊勢名蹟聞書云丹生ノ神宮寺ノ弘法大師ノ木像今膝ノ邊ニ火ニ焦レタル跡アリ昔槍垣内膳カ祖度會貞和何ヤラシ國司ニ對捍スルコアリテ此大師ニ勝ソコナイノリシニ其本意達セヌニヨリ怨ミ怒テ神宮寺ニ火ヲ放テ寺堂ヲ燒亡ス木像ハ寺僧負テ逃走ス其時ノ焦跡ナリ其後彼貞和カ子孫丹生大明神遷ノ役トノ此處ヘ至タルニ何トモナク礫ヲ打コ頻ニノ甚危シ其時人云是先祖貞和カ寺ヲ燒タル故ニ如此崇チナセリト此故ニ彼門葉ハ丹生社ノ遷御ニ行サルトナリ一説貞和上ニ云處ノ如クハ非スノ丹生高野ノ社域ニ迫リテ如此佛寺ハ汚ハシトテ放火シタリ凡云礫打レシ此時ノ人ハ別人ニノ姓名分明ナラストイヘ凡傳説ハ明也今稽ルニ前件ノ所謂ハ度會清在カ説テ訛リ傳タルナリ天正十二年三月十一日三瀬ノ寇兵ノ火ニ大師堂及其像ヲ燒焦セシコハ前号ニ詳ナリ土人長井淨蓮筆記ニ所載ナリ度會貞和其寺塔ヲ燒ト云ハ村山掃部助カ大神宮ヲ焚タルノ例ニ擬シ思ヘルノ訛言或ハ好奇者流ノ僞妄ナリ其三瀬亂ノ所傳ハ次第ニ舉テ猶詳ニセリ淨蓮筆記曰天正十二年甲申三月十一日三瀬左京謀叛手合丹生郷内燒申候子細ハ御本所信雄卿尾張清須ニ御在城被成候ヘ凡多氣國司御養子ニテ相傳ノ御本領被成候處ニ日置大膳亮ニ山室丹生河侯ハ谷三瀬谷御扶持人一圓ニ手付被仰候處ニ三瀬左京一人同心不申ニ付日置大膳介河侯七日市居城ヨリ栗谷ヲ直ニ三瀬ヘ御立被成候大内山大炊介兩人谷中チ相催立可申候山寶丹生近邊ハ粟生口ヘ詰候テ三方ヨリ折合三瀬左京城攻落スヘキト御下知ニテ早丹生ニハ一兩日ノ内ニ三瀬立ト御陳觸有之處ニ大坂ヨリ秀吉公尾張ヘ御出馬被成候テ樂田弓矢始リ申ニ付三瀬立ハ遅々仕候事平木殿居城持堅被成候平木殿家中衆松坂下ヘ夜ナク刈田ニ出田畑荒シ申候處ニ或時飛彈守殿自身御出馬被成平木殿ハ申ノ冬尾張ヘ御越候事伊勢侍皆々謀叛仕候日置大膳介山崎大炊介平木殿兩三人尾張ヘ御越候事前号大師堂ノ此時ノ寇火ニ湮滅シ其像ノ焦損タルヲ徴トスヘシ

產物曆本 本邑曆師賀茂杉太夫所造ナリ相傳賀茂家者右大臣吉備保實七世胤賀茂保憲以曆傳其子光榮以天文道傳弟子安部清明自爾兩道相分所謂曆博士陰陽博士之二也雖然于今兼兩

道曆者推古天皇御宇唯曰百濟國貢曆本不知不知何據也自神武天皇元年辛酉至持統天皇辛卯凡一千三百五十一年其間不傳曆書持統天皇四年甲申奉詔始元嘉曆次用儀鳳曆 元嘉曆宋元嘉二十年何承夫造 儀鳳曆唐麟德二李淳造 其後淡路廢帝天平寶字七年停儀鳳曆始行大衍曆又清和天皇貞觀三年真野曆亦奏止五絕曆頒宣明曆釋日本記曰用宣明曆唐開寶十六年僧一行造宣明曆 此後天德二年戊午光榮子保基被定伊勢國曆師至今無中絕曆師陰陽道連綿相續 享保五壬辰年國司北畠黃門卿召賀茂吉泰為伊勢曆陰陽之證文錫之代々國司家博士也然土御門家左大臣安部倉橋麿七世孫中納言安部益財子安部晴明裔也晴明花山天皇朝任天文博士國中令兼陰陽頭五畿七道曆陰陽道輩貞享年中御改正各被附殿下其時賀茂杉太夫以國司所給證文為勢州一國陰陽師之魁至今松坂田丸白子三領悉所支配也寶曆中屬土御門家賀茂杉太夫配下本邑陰陽師 野呂惣太夫旭善太夫 同源太夫 古儀市太夫等也紀州南龍院殿國君元和五己未年御入國ノ時於若山城謁見被任先規例曆道陰陽師諸役御免 御兩殿御曆献上至今無絕

北畠殿御證文手印

一曆司御證文

杉太夫曆司之事申上候御存知之由可被申聞候也

享祿五五月十二日

御判

大宮備前守とのへ

一杉太夫事為御博士他國陰陽於御領中出入之時無其届面々者為杉太夫斗申懸之旨御存知候被任先例之由可被申聞也

天文四九月十三日

御判

大宮とのへ

杉太夫曆之儀委細被申候御存知他國曆停止之彼者可被申付候由所也恐々謹言

天文三五月三日

御判

安保藏人とのへ

杉太夫并家來家々來共雖令何在所居住諸役等事如先規被召除候此旨可被申聞候也謹言

七月晦日

御判

大宮丸とのへ

從先御代當國曆之儀為御恩杉太夫出置候段御存知候然上者自他國曆御停止候尤有商賣仕面々者雖為何之族堅可被申付此旨杉太夫江可被申聞候由所也恐々謹言 御判

天正元十二月五日

朴木下野守とのへ

井百三十七

右五通ノ外知行被下候御證文小寺山被下時之御判物其外種々有之候ヘ正曆ノ載セス 永祿六年亥曆十二月大小大坂曆師ノ曆ト七代以前杉太夫曆ト相違アリ 院ノ御博士ヲ召レ曆算改正アリ大坂ノ曆算法相違其ヨリ其曆停止被仰付其時勢州松ヶ島城主織田信雄卿院ノ御博士ヨリ御届杉太夫ヲ京都ニ被召候ヨリ信雄卿永樂十貫文御指料ノ小刀拜領ス京都首尾能相濟末々信雄卿御取立被成候之處程ナク亂世ニヨリ其甲斐無之由申傳候事

本朝曆師 京都大經師

江戸澁川

奥州會津

南都中尾

泉州信太

豆州三嶋

勢州丹生

伊勢山田ノ曆師ハ百有余年已前ニ兩大神宮師職江戸ヘ相願作リ始ム指テ由緒無之候今明和八辛卯年マテ百七十年ト存ラレ候安人ト申人南都同職ニテ本家ヲ讓リ禪門ノ伊勢ニ遊居ノ安ク入ルト被悅其法ヲ傳候ト申傳フ 以上丹洞夜話ニ所載ナク、ニ標出ス 毎ノ問云曆始ハ欽明天皇ノ朝ニ起リ推古天皇ノトキニ行ハレ持統天皇四年ニ始テ西地ノ曆元嘉儀鳳ノ二曆ヲ行レ淡路廢帝天平寶字七年ニ儀鳳曆ヲ停テ大衍曆ヲ行ル文德天皇齋衡三年春日朝臣眞野麿等ヲ五紀曆ヲ用ント請フ處大衍曆ト相兼ヘシトノ勅ニテ偏ニハ用ヒス清和天皇貞觀元年ニ唐ノ徐功カ所造ノ宣明曆來リテ又眞野麿カ奏ニ依テ宣明曆ヲ用テ大衍曆ヲ止ム貞觀三年ヨリ貞享元年甲子年マテ其間八百二十五年行レテ終ニ改曆ノコナカリシニ此キニ至テ氣節ニ二日餘ノ後レアルコト江戸ニ於テ保井算哲源春海ト云モノ考ヘ奏ノ勅定アリテ宣明曆ヲ停テ新曆ヲ行ハル今ノ貞享曆是ナリ異國ノ曆ヲ不用ハ此ヨリ始ルト以上ノコトハ既ニ聞リ伊勢曆ト云テ御師家ヨリ諸國ヘ遣スコトヤ答云曆ハ人世一日モ無ハ有ヘカラサル物ナリ最モ農作ニ係ルコト重シ今伊勢曆ハ陰陽双ノ掌ル處ニシテ陰陽助コレヲ考毎年朝家ニ上ルナリ今ノ陰陽双ハ幸徳井宮内朝廷ハ宮内カ手ヨリ上ル一年ヲ分テ正月ヨリ六月マテチ一本トシ又六月下十二月ニイタリ一本ニシテ日ノ吉凶氣節ヲ記シ正月ヨリ御用アルヘキ一本チハ前年ノ十一月ニ上リ又七月ヨリ末卷ハ其年ノ六月ニ上ル尤書寫本ニテ其書法板行ノ如ニハ非ス一行ツ、經廣ノ正月朔日ヲ書テ次ノ行ヲ白クシ第三行目ニ二日ヲ記シ第五行目ニ三日ヲ記ス如此終マテ一行ツ、隔ルナリ故ニ一月三十日ニ六十行アルナリ紙ノ長一本ノ分四尺八寸ナリ一年二本ヲ合セテ九尺六寸ナリ閏月アレハ行ヲ縮テ紙ノ寸ハ増スコトナシ其一間隔ノ一行ツ、ノ白キ處ニハ上マテ其日ノ陰晴或雷風等ノ類ヲ記シ玉フナリ是今朝家曆本ノ次第ナリ然レモ來年中ノ曆ヲ考造ルハ前年ノ十一月ヨリ前五六月ヨリ考造ナリ其草案十一月ヨリ前ニ江戸ヘ上ルナリ其案昔ヨリノ例ニテ伊勢ニテ板刻スルナリ伊勢ニテ板刻ノ諸國ヘ遣スコトハ

其始詳ナラス舊シキヲナリ其板刻スル者ヲ白人曆師ト云此ハ是職役ニモアラス徒人ナリト云コニテ白人ト云ナリ京ニ大經師某ト云者アリテ曆ヲ商フ者ナリ近ク謂ヘハ曆賣ノ座ナリ朱座杯座ノ意ナリ然レハ天下ノ曆本判刻ノ棟梁ナリ是ヲ離レテ外ニ曆ヲ商フコハ成ラス然レモ伊勢ニハ往昔ヨリ御師方ニ諸國ノ且家ノ都遠キ處曆本無シ難義ナルヲ觀テ御稔ヲ遣ス序ニ土産ニツカハスナリ此用意ニテ山田ノ坊ニテ板行サセタルカ例ト成ナリ曆ノ重寶ナルニ依テ粗家ヨリモ乞フニ至テ次第ニ曆本多造ルコト成タリ寛永ノ比ハ二三尺ノ白人曆師ニテコ足リシニ近年ハ十人餘ニ及テ猶其業ヲ忙キナリ内宮ニモ七八年巳前ヨリ享保外宮ニ倣ヒテ一人出來タリコレハ以前ハ山田ニテ求タルニ粗家ヘ遣スコ多ナリ又外宮ノ恩ニ成ルニ似タルヲ嫌ナルカ如此伊勢ヨリ出ル曆諸國ニ滿ルニ由テ自然ニ京テ買モノ少ナリタル故ニ貞享年中大經師方ヨリ伊勢曆ハミヤケノミニテ其料ハ取ルヘカラサルヘキニ近年ハ御師ヨリコレヲ商フナレハ土産トトモニ停ムヘシト江戸ヲ經テ催來レリ其キ御師方ヨリ買賣ハモサルコト也ミヤケニ遣スハ舊例古實ナリト云其コ御奉行處ヨリ江戸ヘ往來アリテ治リタリ享保十二年ニモ京部ヨリ其約妄ニナリタリトテ答來レモ先例ニテ治リ此キ山田中ニ井家ノ曆家アリト云看板又曆ト云暖簾ノ銘ヲ止タリ曆ハ太神宮祈禱御師ノ職役ニ少モ拍ルコトニ非ス上ニ云コトク其重寶ナルヲ觀テミヤケニ送ルノミナリ又伊勢曆トハ伊勢ニテ板刻スルニ

由テ外ヨリ自然ト稱シ來ル辭ナリ三島曆ト云類ニテ別ニ伊勢一本ニ非ルナリ然ノ伊勢曆ノ六月以下ヲ分テ板行二枚ニ爲タル其始朝家ノ曆ノ二本ナルヲ狀リ摸スナルヘシ長必ス四尺八寸ナルモ朝家一本ノ寸法ニ據ヘシ又三島曆ト云其故ヲ不詳 鶴峯文集第百十四云三島曆有造曆數術故未詳其孰是孰非也鎌倉北條氏世々執四海權故安信氏賀茂氏之庶流來往於關東蓋其餘未歟或云小田原北條ノ時呼京都曆家者流末子以居於此云 云林春齋未 得サルトミヘ

丹生八景辭並發句

天地は万物の逆旅光陰は百代の過客かつこれをすべ見る時は無盡藏にして事と物と盡る時なし猶はた心とたのしまさらんや文は道を貫くのうつはもの筆は物をことふくの材なりされは伊勢の國津中を丹生となんいへる絶景の地なり山かさなり家つらなりて二なき境になんろのわたりに長谷川三慶雅翁は風月に富る人なりみつから翰をとりて二四の名を知らひ四七のから哥を綴もて春花夏蔭秋月冬雪の變化をわしてやことなき眺望に耽り後世の人にひけらかすころたゝならぬ下管もろの迹を慕ひ寓言虚無のあさ言のは服ふくるゝころたかしけれ信に四時の奇怪八景の珍實は更な多神津村寺津森のものふりたるさしあふふけは爐山の入相うつふけは西湖の漁ふねこゝに長明の禪室をかまゑてこのもかのもの目を悦はし

ひる事は、かりなかるへかめれど筆短ければやみぬかつなん

井百四十二

社頭春色

露はいかに月も和光のちり椿

神宮晚鐘

金剛や入相の鐘に花うちる

星淵螢火

星の名のはたるやどもに天の河

潮澤流筏

咲やさつき珊瑚樹の筏潮澤

上田秋月

目にさくや月をうへ田の秋の聲

山口水鏡

山口や水かねほりてにぬり色

局嶽穂雪

局たけ始や功しく雪女

長谷夕照

日にくれて長谷に落葉や圓生樹

天和三年臘冬中旬

湖山飛散人

大淀三千風

丹生八景和哥序

丹生八景の和哥喜多河氏季治予にすゝめられけともさかす顔に物して打過侍りぬしかはあれと手を経てやますしかまの市のあなちにてひ求め侍りければいなみかたくてとやせんかくやと思ひなから老衰今難波津乃古さなかれを汲淺香山のむかしの跡を尋ぬるよすかなければ心さしの行所やうゝ綴り侍りぬよし見ん人の議をも嘲りをもわきまへさるにはあらぬと誠に是神恵に手向とれもへは恭しく硯の塵を拂ひて筆を執ものならし

社頭春色

目に見ゝぬ神の恵のあらはれて御垣にかゝる花のしらゆふ

星淵螢火

底清き水に移れる影見れば螢も星の淵やなすらん

上田秋月

秋草の上田の野邊にれく露の光りを花とてらす月影

局嶽積雪

釣簾卷し昔も無と白雪のつほねか嵩にかゝるわけぼの

潮澤流筏

棹ならてさすしは澤は筏士も水の心にまかせてる行

山口水鏡

由口に入より度をわすれけり手にはむすはぬ水かねの洞

長谷夕照

はせ山のもみちも松もくれなるの梢をてらす夕日かけ哉

井百四十三

神宮晚鐘

井百四十四

古寺の夕くれことに驚かす鐘の心を人にしれとや
享保六辛丑年季秋重陽日

手向れく神の御注連の長さ世にちりもうせすに松の言のは

長井氏亥迪謹書

右一軸ハ神宮寺什物ニアリ

丹生八景者貞享中長谷川三慶醫生所撰也余外曾祖父名惠通字三慶号長春軒而各有七言絕句
詩皆散失惜哉唯在潮崎詩矣是設其所於碑誌弘法大師所詠之和歌及三慶自頭之詩故臻今存焉
而已亦幸有三千風發古玄迪和哥然八景序次有不同今考之三千風發古者爲三慶所賦也故余亦
倣之而頌言詩及國風備後人之嗤見云爾

大師哥及長谷川三慶潮澤七言詩有前号畧

社頭春色

松柏仍依舊柳棗已放春神門含旭日偏愛霽光新
日くにはこふ歩もあら玉の年立かはる宮の春けさ

神名晚鐘

開士一留錫卓然古梵宮偏疑登兜卒驚見夕陽鐘
あけくれにつくりし罪も消ぬへし耳驚かす入相のかね

星淵螢火

皇后尋奇到天姬抱珠迎澤留螢火淨淵寫衆星清
五月閻澤のほたる火影ろひて天津みららの星と見まかう

潮澤流筏

竜宮感完力河畔忽生潮桴筏遙空去長流沒碧霄
見渡せは雲に漕入いかたふね細首浦にさして行らん

上田秋月

天女優遊地駕騶鎮八荒皓々明月夜滿地更如霜
虫の音もいとすみわたる上田野に限なくてらす秋の夜の月

山口永洞

千年 洞古万歳會群神遙憶勾漏令問舟何日臻
湧出て由旬にあまる水かねは冊の尊の乳のしたより

局嶽積雪

井百四十五

天姥碧空聳崢嶸不可攀遙臨積雪色訝視芙蓉山
四方山は雪消になれど白妙のさなから富士の高根とやみん
長谷夕照

圓通深樹裏處々炊烟開夕日照平楚沈々照法臺
枯す咲誓もしるきはつせ寺木々の梢に夕日てりるふ

並丹山名水 金清水 在丹生河上蓋瀨之側

金泉湧岸上丹水踊鱗魚綠竹猗々處垂釣一老漁

丹生河や清きなかれをくむ人の金か清水の名になかれつゝ

松清水 在丹生河上動瀨上本流岸頭林泉含水雪夏日生薰風偶座長松下懸題詩

不工

すゝしさは夏もさなからなかりけり清水流るゝ松の下かけ

龜井戸 龜井幾年成漫々水底清青天旱魃日依此養倉生

幾千とせふるともしらぬ龜の井は汲とも盡し君か代の民

並丹生名所四詠 月埜 在西澳之邊

秋色人煙遠草叢狐兔駢沈々落日月初月挂山腰

名に高き空すみ登る月野山無睡なる草むらの中

櫻谷 在和久田澳之中

聞説櫻花谷由來勝景多春風乘興日只聽農夫歌

花見んとたもふ心のかひもなくさくらか谷は名のみなりけり

花岡 在和久田澳中

花阜何處是舊苑總無蹤春色耕田裏地名問老農

花岡の詠わ代くにかはれとも尽せぬ春の風のみる吹

篠原 在田中沖之中宮山邊

勝地宮山邊粳稻千畝田時聞種藝頌切和松風傳

早乙女の御代幾千世とらふなるしらへも高き松風の音

右三水四名所雖所不載舊記然杖者之所傳也故賦詩及歌而傳後世者也

村長西村和廉題

安永丙申春二月

賀茂杉太夫所襲宗祇法師名所百員連歌花學句云

紀國前勾 咲花の高野の奥は暮やらて

伊勢 舉句 春の日赤き丹生の神垣

井百四十八

勢陽五鈴遺響飯高郡卷之五

勢陽五鈴遺響飯高郡卷之六

鉞形 丹生ノ北ニアリ正税二百石今百九十八石四斗紀州松坂領ナリ鉞形ノ名義ハ伊勢三郎義盛ノ所傳ニ因レリ

天神祠 同處ニアリ高二石紀州領主ヨリ免除アリ

伊勢三郎義盛祠 同處ニアリ俗傳義盛カ所着ノ甲ノ鉞形ヲ神靈ニ祀リテ祠ヲ建メリト云今考ルニ多氣郡井ノ内ニ三郎義盛居住ノ地土人小祠ヲ建傍ニ古井アリ其遺址ナリト傳フ故ニ井内ト稱ス此ニヨレハ本邑ハ佐伯及井内ニ犬牙ノ地ニノ邇シ此所傳ニ習ヒテ鉞形ヲ祭祀セルナルヘシ義盛此地ニ寓スルノ徴ハ未得恐ハ謬傳ナリ伊勢ノ所産ニ據テ度會郡二見浦三津及三重郡福村等ニ事蹟著明ナリ此地ハ方俗ノ口碑ニ遺ルノミ其詳ナルハ得ス或曰越中州礪波郡五箇山庄七十二郷アリ其地ニ往昔ヨリ神樂踊筑子唄ト稱ス囉モノアリ平氏壽永ノ亂ニ潛居ス處ト傳フ筑子ハ所謂コキリコニノ五寸五歩ノ全竹ニテ製ス二管ヲ以テ打合ノ音ヲナス又鉞金或ハ鉞形ト稱ノ鋤鉞ノ形ヲ鉄ニテ造リ鼓吹及此筑子ニ和ノ敲テ曲ヲナス所謂鉞形筑子ハ古昔ノ俗謠ノ樂器ニシテ此地ニ製藏スルモ恐ク此遺物ノ類ナルヘシ未其眞ヲ不覩レハ臆斷ニ似レモ後世ニ古ヲ忘テ軍士ニ託シ甲冑ノ類ニ妄作セルモノニヤ其鉞形ハ北國奇譚ニ既

井百四十九

下茅原田 上茅原田ノ東ニアリ正税二百九十五石今三百六十四石七斗二升新田十二石七升九合紀州松坂領ナリ屬邑東出本邑ノ南ニアリ

八幡祠 同處ニアリ高三石紀州領主ヨリ免除ナリ

歸命寺 同處ニアリ高七斗五升同上

清光寺 同處ニアリ高七斗五升同上

上茅原田 下茅原田ノ西ニアリ正税二百百十二石今二百七十石三斗一合新田十二石八斗五升三合紀州松坂領ナリ 神鳳抄云内宮茅原田御厨三石

八幡祠 同處ニアリ高一石五斗紀州領主ヨリ免除ナリ

六呂木 上茅原田ノ北ニアリ正税百九十六石今二百二十八石五斗新田七石九斗七升三合紀州松坂領ナリ

天王八王子祠 同處ニアリ高一石紀州領主ヨリ免除ナリ

六呂木城址 同處ニアリ字ハ城山ト稱ス六呂木某居ス處ナリ天正四年北島具親ニ屬シ亡フ

北島物語曰信雄朝臣六呂木山副波多瀬三人ハ兼テ舟江ノ本田方ニ預ラル是皆逆心ノ輩ナレハ死罪ニ究マリ又詳ニ多氣郡波多瀬條ニ載マリ

辻原 六呂木ノ東ニアリ正税百五十三石一斗四升二合新田五十二石二斗五升紀州松坂領ナリ

一里塚本邑ト上茅原田ノ間街道ノ右傍字ハ柳田ニアリ本邑坂内ニ至ル辻ヨリ四丁廿五間巳午方位ニアリ河俣街道ノ里程ナリ

坂内 辻原ノ西ニアリ正税二百九十九石往昔ノ税員ナリ辻原ト舊ト同邑ニシテ今分置ス百四十三石四斗三升三合新田六十八石四斗五合 神鳳抄云坂奈井御厨五十町 坂奈井舊名ニシテ今内ニ作ル

天王八王子祠 同處ニアリ領主ヨリ高二石三升二合免除ナリ

西方寺 同處ニアリ浄土宗本尊阿彌陀佛地藏院同處ニアリ

淨念廢寺趾 同處ニアリ

華嚴廢寺趾 同處ニアリ字ハ方俗ケゴト稱本邑ノ南溪澗ノ間ニアリ瀑布其傍ニ落ル巖上ニ不動ヲ彫ス其下ニ草堂アリ其右傍ニ龍瀧神祠水神ヲ祀レリ

坂内城址 同處字ハ御所村ニアリ民家ノ傍ヨリ南ノ山上ニ其威儀アリ山下坂内川流レ後ハ白猪嶽ニ山脉連綿ノ要固ノ地ナリ今兵具及磁器等ノ朽損タルヲ鑿出ス應永年中ヨリ國司北

島家ノ属城ニシテ北島俊泰住ス永正中ニイタリ北島權大納言材親ノ弟坂内右近將監具盛具盛岩内主膳正光安ノ男左中將刑部少輔具房法名滿輔入道其子兵庫頭ニ至テ廢セリ其後信雄命

ニ因テ足助十郎兵衛尉ニ給フ後ニ城戸内藏助ト稱ス古屋草紙所謂北畠顯雄始テ築城房雄其子兵庫介三代住スト未詳伊勢軍記曰北畠ノ一族三大將トハ多氣郡田丸御所飯高郡大河内御所同郡坂内御所各侍地下人共軍兵一千大將也 吉野日記云應永廿一年先頃南帝ノ皇子ニ位ヲ讓サルニ依テ伊勢國司北畠滿雅鬱憤ヲ合テ武家ニ背テ軍士ヲアツメ所謂關左馬助其一黨神戸岸岡國府鹿伏免等其外和州伊州勢州志州ノ兵士悉ク驅催ス然レ北畠俊泰ノミ武家ニ背カス應永廿二年春三月北畠滿雅兵ヲ發シ坂内城ヲ攻ル時ニ城主俊泰京ニ在リ故ニ家僕拒戰ストイヘレ滿雅急ニ攻戰フ城内ニ將ナク一決セスノ途ニ陷ル爰ニ於テ國司阿佐賀ノ城ニ居メ其弟雅俊木造城ヲ守ル顯雅大河内城ヲ守ル其外多氣坂内玉丸等ノ諸城兵士ヲ守シム加之北伊勢ノ諸城關ノ一黨楯籠ル漸ク國中ヲ平ケント欲ス武將義持是ヲ聞テ土岐左京太夫持益ニ命シ北畠俊泰世保大膳太夫康政仁木右馬頭滿長長野雲林院等ノ軍勢ヲ差副勢州ニ發向ノ先土岐持益拜野城ヲ圍テ攻戰フ城兵拒トイヘレ力竭キ城ヲ拔ク且木造城ヲ攻ル雅俊防戰ス京勢ヲ數輩討捕トイヘレ戰苦ミ雅俊城ヲ退去ノ坂内城ニ入ル爰ニ至テ俊泰己カ在京ノ時居城ヲ拔レシ會稽ノ耻辱ヲ雪テ城ヲ取テ則守ル 雜記所載伊勢兵亂記云天正四丙子年十一月廿五日田丸ニテハ兼テ變應ト稱ノ相圖ヲ約ノ具致卿次男長野二郎三男式部少輔又具致ノ鐵坂内兵庫頭三人ヲ土方勘兵衛尉森清十郎立木久内津川源三郎日置大膳亮足助十郎兵衛尉

六人ニ命ノ一人ニ二人ツ、ニ定メ一人是ヲ組ハ一人ハ殺害ス終ニ三人ヲ殺害シケル 中畧坂内形部大輔入道万輔ハ此騒動ヲ聞テ良從等ヲ集メ命ヲ限リニ拒ヘシトヒシメキケル彼討手ニハ池尻平左衛門天野佐左衛門尉ニテ有ケルカ兼テ万輔カ家士ニ語ラヒケレハ義ヲ捨逆心ノ万輔ヲ討テ出シケル社淺猿ケレ此故ニ坂内侍ハ大豆年貢ニテ打テ出ストソ戲レケル詳ニ度會郡田丸條ニ載タリ 此後當城ハ織田信雄命ノ足助十郎兵衛尉ニ給ス城戸内藏助ト稱ス勢津 辻原ノ北ニアリ正稅二百石紀州松坂領ナリ今二百二十二石八斗五升八合新旧十九石二斗三升三合勢津ノ名稱ハ永祿年中大河内城軍ノ後ノ名ナルヘシ 天王八王子祠 同處生土神ナリ紀州領主ヨリ高二石八升二合免除ナリ 矢津 辻原ノ良位ニアリ正稅五百四十六石紀州松坂領ナリ今六百九十四石八斗七升四合新田十二石三斗六升七合矢津ノ名義モ上ニ同ク大河内軍ノ後ノ名ナルヘシ 天王八王子祠 同處生土神ナリ領主ヨリ高一石免除アリ 大河内 辻原ノ東ニアリ正稅四百三十四石紀州松坂領ナリ今五百三十四石二斗八升三合新田三十五石七斗二升 天王八王子祠 同處ニアリ生土神ナリ領主ヨリ高二石免除ナリ 眞法寺 同處ニアリ領主ヨリ高八斗免除也

大河内城址 同處乾立ノ山上ニアリ 吉野日記云應永二十一年先頃南帝皇子ニ位ヲ讓サルニ依テ伊勢國司北畠滿雅鬱憤ヲ合テ武家ニ背テ軍士ヲ聚メ所謂關左馬其一黨神戸岸岡國府鹿伏免等其外和州伊州勢州志州ノ兵士悉ク駈摧ス然ル北畠俊泰而已武家ニ背カス應永二十二年春三月北畠滿雅兵ヲ發シ坂内城ヲ攻ル時ニ城主俊泰京ニ在リ故ニ家僕挑戰ストイヘル滿雅急ニ攻テ戰フ城内ニ將ナク一決セスノ遂ニ陥ル爰ニ於テ國司阿佐賀城ニ居ノ其弟雅俊木造城ヲ守ル顯雅大河内城ヲ守ル其外多氣城内玉丸等諸城ノ兵士ヲ守ラシム正長元年七月廿九日後花園院即位十二月前南帝皇子寬成親王稱小倉殿帝位ヲ繼嗣セサルヲ憤テ潛ニ嗾峨ヲ出勢州ニ至テ國司ヲ語ヒ兵ヲ起サントス永享元年三月武將義宣征夷大將軍ニ補シ義教ト改ム今年南軍蜂起越智ナキ久世萬等軍勢ヲ催ノ吉野ヨリ發ス武家ヨリ畠山持國軍ヲ帥ヒテ進テ處々ニ合戰ス南軍微少タリトイヘル京勢動モスレハ擊破テ武名ヲ顯ス故ニ雌雄決セス然ル大敵遂ニ敗北ス伊勢國司滿雅兵ヲ舉武家ヨリ命ノ仁木持長一色義貫等發向ス長野雲林院北畠持康防戰ノ京軍ヲ破ル又土岐興安世保持頼軍士ヲ將ヒ味方ヲ救フ岩田ニ於テ國司ト大ニ戰フ雙軍凱哥ヲ唱ヘ矢鋒ス土岐世保カ備亂テ悉ク敗ス滿雅勝ニ乘テ鏡擊ツ故ニ備位全カラス時ニ土岐等諸卒ヲ指揮ノ返シ合ヒ戰フ滿雅カ軍敗ス滿雅退カスノ大ニ怒テ味方ヲ壓ル一陣破レ殘黨不全ノ遂ニ敗軍ス土岐世保勝ニ乘テ首肯干綬ヲ得タリ爰ニ於テ寬成親王

力竭キ請降ル滿雅其子顯雅共ニ降參ス武家寬成親王ヲ携テ入洛シ又嵯峨ニ籠居ス後剃髮ノ法諱覺理ト稱シ万壽寺ニ入其子勸修寺門主ノ弟子トス永享二年和州紀州ノ南軍悉ク衰ヘ皆以テ武家ニ降參ス近衛左大臣南朝ノ殘黨多以テ附屬ス伊勢國司顯雅武家ヨリ免許ノ舊領本ノ如シ永享十二年七月三日今年伊勢國司滿雅卒ス其遺跡其子中將顯雅相續ノ大河内城ヲ守ル其弟少將教具多氣城ヲ守ル北畠家代々南朝ニ忠アリトイヘル南方悉ク衰微ノ爰ニ至テ國司武家ノ招ニ應ス故ニ伊勢守護職世保氏ヲ止テ北畠是ヲ掌ス因茲官位舊領本ノ如シ國司ノ一族皆以テ武家ニ屬ス其領知ヲ分チ授ク 雜記所載伊勢兵亂記云北畠中納言具教卿永祿ノ末ニ織田信長襲來ノ由聞ヘシカハ多氣ハ要害宜シカラストテ一志郡細頸ニ屋形ヲ造リ移リ其後細頸ニハ日置大膳亮ヲ置飯高郡大河内ニ城郭ヲ構ヘ嫡子信意ヲ居ヘ大河内御所ト稱ス具教ハ多氣郡大泥ニ隱居ノ入道不智ト云ケル既ニ永祿十二己巳年正月信長南伊勢ヲ擊ヘキ由聞シカハ日置大膳亮此騷動ヲ聞細頸ヲ自燒ノ大河内ニ馳來リ諸處ノ籠城ノ牒シ合ケル大河内城ニハ大御所黃門入道不智御本所信意父子相從フ諸士ハ次男長野御所田丸御所坂内御所波瀬御所向ノ御所東御所大坂御所ハ下ノ御所蘭御所森本飛彈守同子息彦次郎方穗民部少輔林備後守同子息新之丞鳥屋尾石見守同子息與左衛門尉同右近將監水谷刑部少副同子息藤次郎安保若狹守同子息大藏大輔岸又三郎安保右馬允議出彦右衛門尉佐々木源左衛門同子息半

右衛門尉今川左馬允野呂左近將監山本左馬之助長野九郎同左京允朽木隼人正日置大膳亮正井兵部少副同子息新次郎星合左衛門尉稻生勘之由左衛門尉同與四郎家木主水佐石橋治部少副田上左衛門大夫榊原彌四郎山崎兵部少副真柄宮内丞同修理進久保三河守杉山菅右衛門尉山室十郎左衛門尉服部孫次郎柴山長九郎水野勝三郎大西平三郎三瀬隼人三岳五郎九郎大内山但馬守山崎大炊助阿曾彈正忠下村仁助潮田長助神部治部入道玄務熱田源兵入道運玄齋其外小胡曾方出江方湯原方宮田方縣松井方濱賀佐波方志貴湯淺方神條中村方寺郷王相方黒田中津方菅瀬渡部方伊勢守久瀬五郎左衛門尉牧野方加藤方廣田佐藤江馬唐橋明壽栗谷峯森乙栗栖田引家野與村福本粟野園伽桶瀧野馬場五箇六呂木波多瀬山副谷三田滿賀野新岡村福田山臼杵吉懸堀内楠見堀山以下南五郡ノ軍兵數ヲ盡ノ楯籠ル城外ノ郭ニハ柵ヲ二重ニ振リ兵糧丈夫ニ貯ヘ堅固ニ守リシカハ中々危カラス此方ヨリノ道ニハ今徳山城ニハ奥山常陸介小森上野ニハ藤方入道慶由木造ニハ木造左衛門佐八田城ニハ大多和兵部少副阿坂城ニハ大宮入道舟江ニハ本田右衛門尉曾原城ニハ天花寺小次郎岩内城ニハ岩内御所各與方同心ノ楯籠シ程ニ輒ク攻ヘキ体ニ見エカリケリ斯ル處ニ京都ニ於テ三好家逆心ノコアリシカハ信長勢州發向ヲ差シ止テ上洛ス永祿十二年八月二十八日信長阿坂城ヲ攻取其後國司信意ノ籠ル大河内城ヲツツ其勢都合七萬余騎此城ハ北ハ野津南ハ大河内大木大竹茂リ人馬ノ駈引自由ナ

ラス追手ハ廣坂ノ北搦手ハ竜藏庵坂ノ南ナリ翌廿九日曉ニ諸勢攻口一等ニ鳥銃ノ音聞ノ聲山谷ニ震動ノ夥シ城中ニハ日置大膳亮家木主水佐安保大藏少副長野左京允本田左京進等一騎當千ノ勇士仁儀ヲ重シ拒戰フ處ニ池田勝三郎信輝廣坂口ヨリ攻入ント土屋四郎兵衛八木篠右衛門尉前ニ進ケルヲ家木主水佐安ヲ專ト拒戰ス魔虫谷モ兵士入亂テ戰フ寄手利ヲ失ヒ軍兵討死多シ大河内ノ境地ハ七尾七谷嶮岨ニテ寄手ハ不馴國司方ハ案内ヲ知馴ケレハ駈引自在ナレハ每軍寄手不得利ノ退屈セリ故ニ國司方下知ノ寄手ノ機攻屈セリ何レノ寄手ヘモ夜撃スヘシトテ本田左京允與力ノ當數百騎ヲ卒ノ九月ノ上旬氏家常陸入道ト全カ陣丹生寺ニ夜討シ敵兵三十六級ノ首ヲ得テ歸城シ國司ノ檢見ニ容ル大將感悅ス斯テ寄手日ヲ逐テ機ヲ失ヒ城内堅固ナリケレハ信長諸士ニ謀テ容易ク繫ル術ヲ議ス池田丹羽稻葉入道一徹齋相談ノ九月下旬深夜ニ搦手竜藏庵口ヨリ夜討ニ攻ケル是ニモ城中不騒ノ日置大膳安保大藏家木主水佐長野左京等得ツリヤ應ト防戰ス此夜モ寄手利ヲ失ヒ朝日孫八郎波多野彌藏近松豊後守神戸伯耆守同四方介山田多兵衛尉寺澤彌九郎溝口富之助齋藤藤吾古川久助河野三吉郎金松久左衛門尉鈴村主馬允彼等十三人戰死ス寄手速ニ退キ斯ル上ハ心靜ニ責ヘシトテ諸陣要心堅固ニノアリケル處瀧川左近將監一益十月上旬ニ及テ信長ニ啓ケルハ斯ク空然トノ日ヲ送ルコト無念ナリ速ニ其一戰ヲ遂ヘシトテ諸卒ヲ具ノ西ノ方魔虫谷ヨリ攻登ルニ城中ヨリ

弓鳥銃ヲ烈ク打クルニ討ル者數若干ナリ人馬ノ死骸ニテ谷モ埋ムハカリナリ是ヲモ厭ハス
 既ニ城屏ニ攻入ントスル處ニ兼テ用意セシ竹鎗ヲ以テ手毎ニ突落ケレハ各谷底ニ落テ疵ヲ
 蒙ルモノ夥シ瀧川モ風ノ退ク其後ハ進ミテ攻ヘキト謂フ者ナク只徒然ナル長陣ナリケル
 時信長桂瀨山ノ者ヲ一人喚テ大木ニ登セ城内ニ向テ大腹ノ御所ノ餅クラヒト呼ハラセケレ
 ハ城兵是ヲ聞テ和州秋山家士ニ諸木野彌三郎秋山万助同志摩介トテ三人弓ノ上手アリ國司
 諸木野ヲ召テ射ヨト命アリケレハ諸木野畏テ大弓ニ箭ヲ當テ射ニ敵味方見物シケルニ其箭
 四五町射渡シ過マタス彼者ニアタリ後ニ立ル松ノ木ニ射貫ヌレハ信長ヲ始敵味方一同ニ啼
 ト感シケレハ國司モ御感不斜城中ニ野呂左近將監逆心ノ隱謀アリテ露顯シ即時ニ討レテ事
 謐リ愈々城中堅固ニテ五十日餘ノ籠城ナレモ兵糧尽ルコトナシ是ハ執事鳥屋尾石見守智謀無
 雙ノ者ナレハ始ヨリ諸卒ニ糒ヲ食シメ國司父子及其餘諸將モ鹿味ヲ食シケル斯テ籠城イツ
 ナ限リモナク有シニ信長ヨリ織田掃部介ヲ合ノ和ノ使アリ國司モ朽木隼人正ヲ出ノ和親整
 ヒ信長ノ次男御茶筵丸十二歳ナルヲ具教ノ聲信意ノ妹ニ配シ養子トス織田掃部介ヲ後見ト
 シ其外生駒半左衛門城戸内藏助天野佐左衛門尉林豊後守足助十郎兵衛除ケ尉小崎四郎安居
 將監林與五郎池尻平左衛門尉津川源三郎土方彦三郎等ヲ附屬ス此時木造家長臣源淨院還俗
 ノ瀧川三郎兵衛ト稱ス柘植三郎左衛門尉等二人モ附屬ス大河内城ニ廿万石ヲ副テ茶筵丸ニ

授ラル船江ノ樂師堂ニ本陣トシ瀧川左近將監執權ト定ム安濃城ニ五萬石ヲ副テ織田上野介
 信包ヲ主トス神戸城ニ五萬石ヲ副テ織田三七郎信孝ニ授ク長嶋城ニハ尾州西方北伊勢五郎
 ナ副テ瀧川左近將監ニ給フ此外忠節士其分限ニ應シ賞祿ヲ下シ同十一月十日信長ハ千草越
 ニ上洛アリテ勢州平均ノ旨ヲ上達アリ義照公御感アリテ國光御賜指ヲ賜フ其後國司ハ茶筵
 丸ト船江城ニテ對面シ父子ノ約ヲナス懇勸ナリ又三年ヲ歷テ元龜二年夏船江城ニテ嫁聚ノ
 式整ヒテ大河内城ニ移リ北畠三助信雄トシ號シケル 北畠物語云元祿十二年八月二十八日
 信長卿七萬余ノ軍兵ヲ以テ大河内ノ城ヲ圍ミ玉ヲ彼城ハ勝地ニシテ七尾七谷アリ南方ヲ大内
 河ト云北方ヲ野津ト云大木茂リ大竹生ヌ追手ヲ廣坂ト名テ北方ナリ搦手ヲ竜藏庵坂ト云テ
 南方ナリ南ニ養徳寺アリ火ヲ放テ燒ク東方ニハ大河内川アリ織田軍勢四方ノ山ニ陣ス本陣
 ハ東方桂瀨山ナリ又此處ヲ戀ノモ云ヘリ既ニ其夜ニ至テ池田勝三郎信輝廣坂口市場ノ宿ヲ
 敗ル日置大膳亮コ、ヲ保チ諸侍與カス池田先陣土倉四郎兵衛八木笹右衛門関ヲ作リテ責カ
 ヲル日置勇ヲ勵シ防戰ヒ家木主水助モ高名ス合戰數刻ニ及テ日置城中ニ引退ク同二十九日
 曉ヨリ大河内城ノ四方ヲ信長卿圍ミ玉ヲ敵味方ノ弓銃炮疾風雷雨ノ如シ其日ヨリ双方勇爭
 ヒ數日責戰トイヘモ更ニ落城セヌコレニ因テ信長卿廻リ番ヲ柵際ニ置晝夜油斷ナク用心ノ
 敵ノ夜討ヲ防玉ヲ國司兼テ遠方ニ下知ヲ加ヘ信長ノ陣所ニ夜討セントシ玉ヲ然レモ敵ノ大

軍ニ恐レ速ニ打出ルモノナシ例ノ舟江ノ溢者凡ハカリ集リ同九月上旬丹生寺ニ夜討ス此處ハ市場寺井ノ北方ニテ美濃國大垣城主氏家常陸入道ト全ノ陣所ナリ夜更テ不意ニ打入り火ヲ放テ責立ル大垣勢タマリ難ク蜂屋般若助名乗掛テ防戦トイヘ凡終ニ高島掠右衛門カ爲ニ討取タル其外究竟ノ諸士三十六人討死ス舟江方各其首ヲ取リ凱哥ヲ揚テ引返ス同九月信長卿術ヲカヘテ責ントシ玉ヲ南ノ方寄手ニ下知アリケレハ池田勝三郎丹羽五郎左衛門稻葉伊豫入道等搦手ニ責入り夜討セントス是ニ因テ三大將以下諸侍夜ニ紛レ密ニ竜藏庵口ニ入り朝日ノ陣所ヨリ二ノ丸へ忍ヒ入テ関ヲツクル此聲責手ノ不覺ナリ但本丸ニ入ルト覺テ時ヲ揚クトイヘリ國司勢是ヲ聞ト等ク本丸ヨリ松明ヲ投出シ弓鉄炮ヲ捕ヘテ責立ル寄手のニナリ盡ク打倒サル死人山ノコトシ其後門ヲ開キ日置大膳安保大藏家木主水助長野左京以下ノ諸士鎗ヲ引提太刀ヲ振テ打出合戦ニ及ヒ各高名ヲ究ム敵味方亂レ合ヒテ暫ク黒烟ヲ立後ハ兩方へ引分ル此時信長卿ノ侍大將朝日孫八郎ヲ始勇士十三人其外一騎當千ノ諸士數多討死ス城中空囚入道智謀ノ士ニテ敵ノ色ヲ見合セ門ヲ開テ大音揚ケ老兵ハ駈引遲シ若武者ハカリ早リ進テ引ヘシト云テ諸士出レハ門ヲ閉又時刻ヲハカリテ勢ヲ引シムル門ヲ開キ其人ヲ改メ言葉ヲ問フ立勝居勝ヲ用ヒ附ケ來ル敵ヲ防ク國司大ニコレヲ感セラル爰ニ澁川一益同十月上旬ニ及ヒ信長卿ノ陣所ニ馳參リ當城數日ヲ送り陷シ得サルヲ無念ニ存ス某一戰

任ラント云伊勢ノ軍士ヲ引具シ西方眞山谷ヨリ攻上ル城中ヨリ鉄炮ヲ打出ス一夥シ故ニ寄手悉ク打殺レ人馬カサナリテ谷ヲ埋ム然レ凡一益是ヲ物用セス一筋ニ勢ヒ責カ、リヒタレト堀ニ取付テ乘越ントス處ニ城内兼テ支度シタル竹鎗ヲ人毎ニ取持テ澁川勢ヲ突落ケレハ寄手又多ク疵ヲ蒙リ谷底ニ落ケルカ起上テ透間ナク責上ル城兵猶進テ隙ナク突立レハ澁川勢勞レ果テ終ニ敗軍ス或時信長卿ノ本陣桂瀬山ニテ一人ノ大兵松ノ大木ニ倚カ、リ城中ニ向ヒ大音ヲ揚大腹御所ノ餅クヲヒト呼ツテ様々ノ惡口ヲ吐チラス城兵是ヲ惡ミ精兵ヲ以彼男ヲ射サセント評定シ弓勢ノ達者ヲ撰フ其比和州秋山カ侍ニ弓ノ上手三人アリ所謂諸木野彌三郎秋山萬助同島之助等ナリ中ニモ諸木野勝レタリト是ニ命ス彌三郎畏テ立向ヒ大ノ弓矢ヲ以テ射ケルニ其矢アヤマタス四五丁ヲ射渡ノ件ノ大兵ヲ松ノ木ニ射ケリ信長此由ヲ見玉ヒ感喜不斜即其矢ニ褒美ヲ副ヘ敵陣へ送り玉ヲ諸木野カ高名ハサルヲナレ凡信長ノハカラヒ流石ノ名將ナリト云テ敵味方同音ニ譽アヘリ去程ニ信長卿當城ヲ圍ミ數日ヲ重テ害セラルカラハ兵糧ヲ斷ント欲シ凡五十餘日城ヲ圍ミ玉ヲ爰ニ國司ノ家臣鳥屋尾石見守智謀深キ勇士ナレハ兼テ此ヲ悟リ籠城ノ始ヨリ諸軍ニ命シ草木ヲ食セシメ國司父子ニモ士卒ト等ク食物ニ具ヘケレハ兵糧更ニ盡ルヲナシ信長卿モ退屈シ玉ヒ此上ハ和談ヲ以テ平治

セント宣ヒ織田掃部助ヲ使者トシテ城内へ赴シメ和睦ノ由ヲ宣ヘラル其詞ニ云信長實子ヲ
 信意ノ養子ニ定メ無事一味ノ思ヲナサント云云國司方評義ノ是先人質ヲ取ルニアリト一同
 ス即朴木隼人正ヲ使者トノ同十月下旬終ニ織田北畠和談セラレ畢信長暫ク國司ト一味ニ依
 テ諸勢ヲ入レ並ニ諸關ヲ開キ玉ヒ幸此折柄伊勢兩宮ノ神拜ヲ遂ント頓テ參宮シ玉ヘリ宿所
 ハ堤太夫ナリ然ル處ニ福井太夫コレヲ憎ミ宇治參宮ノ序潛カニ織田家中ノ旦那ヲタノミテ
 信長卿ヲ我宿所ニ入奉ル堤太夫立腹シ其趣ヲ言上ス是ニ因テ福井カ館ヲ責ラル福井是非ナ
 ク家ヲ出テ躉ク蟄居ス斯テ信長卿岐阜ノ城へ歸リ玉フキ例ノ舟江ノ溢者凡三渡ニ出向ヒ鉄
 炮少々先手中へ打カクルト云信長卿次男茶筵丸ヲ以北畠ノ養子トシ織田掃部助ヲ南方ノ奉
 行トセラレ其外生駒半左衛門尉林豊後守諸侍多ク相副遣ハサル茶筵丸ハ先舟江ノ藥師寺ニ
 入り玉ヒ瀧川一益ハ同處淨泉寺ニ宿ス斯テ主從五十餘日逗留ノ内萬事ノ仕置アリ織田家頼
 ノ外數多ノ輩諸方ヨリ來テ舟江守護ス國司父子舟江城ニイタリ喜儀ノ盃酒アリテ家人イツ
 レモ萬歲ヲ祝ス信長卿武威天下ニ震テ諸國ヲ靡ケ今又勢州一國ヲ治メン爲トテ次男茶筵丸
 ヲ信意ノ養子トシ大河内城ヲ守シメ國司ノ家人コレニ與カス三男三七丸ヲ神戸ノ城主トシ
 關勢是ニ從フ信長卿ノ舍弟上野介信包ヲ以安濃津ノ城ヲ守護セシメ工藤勢コレニ與カス家
 人瀧川ヲ以長島ノ城ニ居ニ北方諸侍コレニ與カス一益始テ檢地ヲ入レ諸士ノ領分ヲ改ム其

後諸家コレニ倣ヒテ諸方ニ檢地ヲ沙汰ス 伊勢軍記曰永祿十一年其比伊勢國司具教卿多氣
 ヲリ大河内城ニ移リ給フ大河内御所ハ大淀ニ移サルナリ具教卿ハ隱居シ玉フ嫡子信意ヲ御
 本所ト申ナリ大腹御所是ナリ其後信長卿大河内城ヲ圍玉フ池田紀伊守信輝勢廣坂口ニテ合
 戰ス城衆日置大膳亮攻之家木主水佐等合鎗高名ス大河内ハ七尾七谷アリ信長四方ヲ圍玉フ
 落城セス亦麿虫谷ニテ攻聚數多死コアリトナリ同九月始船江本田カ被官等數百人氏家ト全
 カ陣シタル丹生寺ヘ夜討シ首三十六討取ナリ國司ヨリ信長卿勢ノ陣所ヘ夜討コト觸アレ舟
 江衆ヨリ外夜打シタルモノナシ同九月下旬池田紀伊守信輝丹羽五郎左衛門長秀稻葉伊豫守
 入道一徹搦手竜藏庵口ヨリ夜討ニ攻入合戰アリ日置大膳亮安保大藏少輔家木主水佐長野左
 京進等打出高名ス信長卿ノ御侍朝日孫八郎以下侍大將十三人討死ナリ大河内籠城五十日斗
 ノキ信長卿織田掃部助ヲ以無事ノ扱アリ城ヨリ朴木隼人佐使トシ信長卿ノ次男茶筵丸十三
 才時信意ノ養子トシ無事ナリ具教ノ掣ニ定玉フ織田掃部助御守トナリ其外生駒半左衛門城
 戸内藏助天野佐左衛門池尻平左衛門津川源三郎土方彦三郎ナト云侍供數多附ラルナリ茶筵
 丸船江ノ藥師寺ニ居住給瀧川万事仕置セラル信長卿ハ十月下旬參宮ノ岐阜へ歸ナリ亦織田
 上野介ハコノキヨリ津城ニ移リ玉フナリ其後國司ト御茶筵ト船江城ニテ祝義見參アリ亦源
 淨院還俗ノ瀧川三郎兵衛ニナリ柘植三郎左衛門ト兩人信長卿ヨリ御茶筵へ附ラレ南伊勢分

御茶筵丸ヲ大將ニ定給フナリ信長記卷二云永祿十二年信長卿伊勢國へ發向有へキトテ同八月二十日ニ岐阜ヲ立テ其日ハ桑名ニ着玉フ其日ヨリ山野ノ難易ヲ御覽シガテラ鷹狩ナトシ玉ヒツ、二十三日木造城ニ御着有テ一兩日軍評議アリテ淺香城ヲ責玉フ先陣木下藤吉郎秀吉推寄時ヲ作り責懸ケレハ城中麻難クヤ思ケン頻ニ佗言ノ開退シ間瀧川左近カ手ノ者凡入置ヘシトテ其ヨリ國司父子一處ニ楯籠タル大河内城ヲ攻ラルヘシトテ同二十八日ニ推寄四方ノ攻口ヲ安テ七重八重ニ取圍ム其夜池田勝三郎カ家ノ子ニ土藏四郎兵衛八木篠右衛門先ヲ驅則宿ヲ打破リ勝時ヲ咄ト上タリケリ南ノ手ハ御舍弟織田上野介津田掃部介稻葉伊豫守池田勝三郎和田新介中嶋豊後守丹羽五郎左衛門尉蒲生右兵衛大夫進藤山城守後藤喜三郎岡美作守同玉林齋西ノ手ハ佐久間右衛門尉木下藤吉郎秀吉氏家左京助同與力飯沼勘平市橋九郎左衛門尉塚本小大膳伊賀守北ノ手ハ齋藤新五郎坂井右近大夫蜂屋兵庫頭築田彌次右衛門尉中將將監儀野丹後守東ハ柴田修理亮森三右衛門尉山田左衛門長谷川與次郎佐佐内藏助梶原平次郎不破河内守子息彦三丸毛兵庫頭子息三郎兵衛丹羽源六ナリ柵際ノ廻番ニハ菅谷九右衛門中川八郎右衛門木下雅樂介松岡九郎次郎生駒平左衛門河尻與兵衛尉湯淺甚介村井新四郎中川金右衛門佐久間彌太郎毛利新介同河内守生駒庄介神戸加介荒川新八猪子加介野々村主水正山田彌太郎瀧川彦右衛門尉彼等打替々々見廻ル程ニ諸方ノ攻口片時ノ怠ナク明レ

ハ二十九日ノ曉ヨリ四方ノ寄手追手搦手五萬餘騎楯ヲ敲キ籠ヲ扣テ攻クルニ時ノ聲矢叫聲鉄炮ノ音肝魂モ消ルハカリ也城中ニモ聞フル兵多カリケレハ爰テ先途ト防戰フ間更ニ落ヘシ凡見ヘサリケリサテハ行ヲ替テ攻ヨトテ池田勝三郎丹羽五郎左衛門尉稻葉伊豫守彼等三人カ手ヘ觸玉ケレハ急キ行ヲ替テ攻ント評議ノ相圖ノ時節ニ成ケレハ搦手ヨリ攻入ルニ城中ノ兵モ汗水ニ成テ防キケル敵味方入亂レ鎗ヲ合セ太刀打ノ火出ル斗戰ヒシカ難叶ヤ思ケン城大將大宮兵部少輔カ父含忍齋八十歳ニナリケルカ髮ヲ剃ヨロボヒ出テ降參テ乞ケルニ誠ニ其様哀ニ見ヘケレハ此上ハトテ身命ヲ助ケ城ヲハ請取セ給ヒテ財寶以下モ無恙大和國へ送り遣シケリ斯テ今度ノ合戰ニ討死シタル侍凡テ記スニ朝日孫八郎波多野近藏近松豊後守神戸伯耆守同四方介山田多兵衛尉寺澤彌九郎溝口富之助齋藤五古河久助河野三吉金松久左衛門鈴村主馬允ナト云馬廻ノ究竟ノ兵迄モ討死シタリケリ其外手負ナトモ多カリケリ誰彼ト聞召シ痛リ給フコ限ナシ然ルニ仍テ討死シタル跡式全ク不可有相違旨續目御判則其子共ニタフグリケリ 中略 斯テ宛行ハル領知次第ハ大河内城ニ十萬石相添二男茶筵御曹司上野城ニ五萬石ヲ指添織田上野介殿神戸城ニ五萬石相添三七殿ニ被遣尾州西方長島城ニ北伊勢五郡ヲ相添瀧川左近將監ニ下シ玉フ如此有功ヲ賞祿シ志ヲ衆ニ通セラレシカハ人トノ属從セスト云コナシ十一月十日千草越ニ懸リ急カセ玉フ程ニ翌日上京アリテ今度於勢州凶徒

等悉ク攻モシ萬民撫育ノ功ヲ立諸關令停止往還ノ累無キ様ニ致沙汰ツル趣申上ラレケレハ
 義照公不斜御感アリテ國光ノ御脇指參セ玉ヒクリ或云永祿十二年八月廿日信長卿勢州征伐
 ノ爲尾濃七萬餘騎ヲ卒シ木下藤吉郎秀吉ニ命ノ同廿六日阿坂城へ攻ル大將大宮入道合忍
 齋嫡子大之丞景連次男九兵衛尉爲之一千餘人籠城ス力尽テ降人トナル大和國ニテ所領ヲ與
 へ彼國ニ至ルヘシト命ノ大宮父子一族十餘人大和ニ赴ク半途ニノ力士數十人ヲ大宮擲捕
 悉ク誅ス是藤吉郎カ計略ナリ信長卿國司ノ本城大河内ヲ攻國司具教入道不智齋息男左中將
 信意次男長野次郎長教ヲ主將トシ一旅郎從三萬餘人籠城ス寄手池田勝三郎信輝擲手ノ攻口
 ヲ乘入リ二ノ丸ニ國司勢桶籠ル此間ニ城國ハ田城主楠七郎左衛門尉正具信長ノ本陣ヲ夜討
 ス藤吉郎奇計ヲ出ノ多藝谷ノ城ヲ攻國司入道ノ遊山別業ノ地ナリ國司父子妻女一族女房小
 兒老人ヲ籠置タリ大河内宮内少輔森本飛彈守ヲ二千人コレヲ守護ス十月二十三日淺野
 彌兵衛尉堀尾茂介ニ命ノ城ノ馬手ノ山ニ忍登リ燒草ヲ用意ノ時ヲ待藤吉郎二千余人ヲ卒ノ
 竜藏庵山ノ尾ヨリ廿四日ノ曉ニ城ノ堀際ニイタリ梶尾二百五十人擲手ヨリ城中ニ入り父子
 女房一族ノ妻子以上三十七人ヲ悉ク擲捕ル城ヲ燒討ニシ又生捕ノ婦女三十餘人ヲ大河内城
 ニ不破河内守菅谷九右衛門兩使トシ送り歸シ和平ヲ取給フ信長次男茶筵丸ヲ北畠家ノ養子
 トナシ歸陣セラル信長ヲ夜討スルヲ怒テ楠七郎左衛門ヲ討ントス攝州石山本願寺ニ走同十

一月十三日信長本國美濃ニ歸城ナリ 今稽ルニ本邑ノ城若ハ古屋草紙ニ謂文明三年北畠材
 親卿所築トス或永祿中織田右府ノ本州ヲ襲フニ因テ北畠家此地ニ始テ所築置ト世俗ニ謂ヘ
 ルハ非ナリ勢州軍記等コ、ニ倣ヘリ勢陽拾遺及古屋草紙北畠材親所築ト云ハ非ナリ既ニ吉
 野日記所載應仁中國司滿雅所築ニノ顯雅所居ニノ永祿ヨリ已前ナリ又永祿中大河内軍ノ事
 實ニ至テ北畠物語及伊勢軍記兵亂記等ハ大畧相同シ信長記ハ粗ニノ甚異ナリ城將大宮入道
 合忍齋降參ノ事ヲ載タリ前ノ一志郡阿坂城將ニノ本城ノコ、ニ非ス駁雜ノ誤リ傳タルナリ前
 號阿坂條ニ詳ニセリ又或說ハ織田軍記ヲ摘録ノコ、ニ贅ス各信長記ニ據テ所載トイヘル阿
 坂城將大宮氏ニ辨別セリ然ルモ多氣城ヲ火攻シ其老少婦女ヲ捕リ及竜藏庵山ヲ一志郡多氣ノ
 有トスルハ各非ナリ無稽ノ言ニノ恐クハ妄誕ナリ其餘推知スヘシ今此城墟ヲ檢スルニ山嶺
 ニ八幡祠ヲ祀リテ其地ヲ遺失センコ、ヲ恐テ村民ノ耕地ヲ除ケリ每歲八月十五日祭祀ス境内
 雜草ヲ生セス常ニ栖掃スルカ如シ奇異トス山麓ニ藥師堂アリ古造ナリ或云大同年中所創ト
 云未詳其材盡ク兵燹ノ爲ニ燹テ今ニ存セリ所謂北畠物語ニ養德寺放火ス此時ノ害ニ遭タル
 ナルヘシ養德寺ノ舊境モ其巽位ニアリ寺刹ハ廢ス田畔ノ宇ニ存セリ當今ニ至リ鳥銃ノ玉及
 矢鏃等ヲ往々鑿出ス村民鉄團丸大サ徑五六寸計ノ者ヲ藏ス孰レ炮丸ナルヘシ又本邑ニ木綿
 布ヲ曝ノ四方ニ灣ク產物ナリ即大河内川ニ水晒ス處ナリ大河内河ハ水源同郡坂内村ノ白猪

嶽ヨリ流テ辻原大河内及桂瀬立野田村等ヲ經テ下流ハ松坂府城ノ西ニ至リ上篠川ト稱シ官道ノ大橋ノ下ヲ流レ平尾大口ニ至テ東海ニ入ル水源ニノ坂内川ト稱ス 北島權少將國永集云 大河内へ下り侍りしに彌生のはしめつかた花を見て

枝折とて何與ふかく尋けん外山ろ花はまたさきさきぬる

廣瀬 大河内ノ坤位ニアリ正稅二百十九石紀州松坂領ナリ今三百十八石八斗一升五合新田四石七斗六升 神鳳抄云廣瀬御園

八王子祠 同處ニアリ領主ヨリ高三石免除ナリ

藥師寺 同處ニアリ 本尊藥師佛 凹鏡中ニ彫ス弘法大師作ト稱ス古昔ハ大刹ニノ寺産モ若干アリ文祿年中檢地ニ没ノ寺堂モ破壊ニ及ヘリ今ノ堂ハ本邑久保某ノ再營ナリ此庭中堂前ニ子種石ト稱ス蠶繭ノ形ヲナス靈石アリ方俗蠶ヲ養フ婦女祈願ノ綿ヲ報謝ニスヘシト乞祈レハ其蠶養ニ幸ヲ得ルト云故ニコヲ子石ト稱ス又大明神岳同處ニアリ此隣比ニ高岳ナシ此山ノミ突起ス其麓ニ天狗ノ遊興處ト稱スルアリ 續日本紀光仁天皇寶龜三年八月甲寅徒度會神宮寺於飯高郡度瀬山房 今稻ルニ本郡ニ度瀬山ト稱スヘキ地ナシ度ハ廣ノ誤傳ニシ廣瀬ナルヘシ又神宮寺ヲ移造スルノ地今得難シ臆フニ此藥師寺ノ古刹ナルニ倣テ其地ナルヤト疑ヘリ猶後稻ヲ期ス廢神宮寺ノコトハ同郡垣鼻信樂寺ノ條ト併釋ヘシ本邑ニ河俣河ナ

通漕ス材ノ十分一ヲ貢ス舊ハ下茅原田津留四疋田ノ村邑ニノ取收メテ獻ヒシナリ近世役廳アリ領主ヨリ所置ナリ廣瀬口前處ト稱ス又度會郡三瀬谷ヨリ出ス材木宮川ニ通スルニ同郡佐八ニアリ其材ノ寸尺ヲ改口錢ヲ收ラルニ相同シ此川筋ハ河俣谷ヨリ出ス處ノ材木ハ多氣郡飯野郡界ヲ流テ飯野郡黒部ニイタリ四方ニ運漕ノ嚮ク處ナリ

寺井 大河内ノ良位ニアリ正稅五百石新田二十六石七斗六升六合紀州松坂領ナリ

天王八王子祠 同處ニアリ高一石七斗七升四合領主ヨリ免除ナリ 又八王子祠高一石六斗右ニ同シ

九蓮寺 同處ニアリ高二石一斗七升四合右ニ同シ

一里塚 山村橋ヨリ一町一間南ニアリ只越本邑ノ北ニアリ屬邑ナリ

桂瀬 寺井ノ東ニアリ正稅三百四十五石今三百四十三石二斗二升六合新田二十六石五斗紀州松坂領ナリ

八幡祠 同處ニアリ高二石一斗七升二合紀州領主ヨリ免除ナリ

松尾明神祠 同處山上ニアリ今紀州領主ヨリ四石七斗六合免除ナリ 度會延經神名帳考證

云立野神社五十猛命飯高郡名此乎倭名鈔云立野多千乃立與猛語通日本紀云五十猛神天降之時多將樹種而下始自筑紫凡大八洲國之内莫不播殖而成青山焉所以稱五十猛命爲有功之神按

五十訓伊陸奧國^{イダノ}達神社出雲岡韓國伊太氏神社同神在立野村 度會正身神名帳再考證曰立野神社立野村ニ在和名鈔ニ立野多千乃内宮儀式帳初郡度會多氣飯野三箇郡本紀行事ノ條ニ近江大津朝廷御代多氣四箇ノ郷ヲ申シ割氏立飯高宮村屯倉トアリ古來神序御厨屯倉ノ一同ノ名ヲ相通シ飯野高宮村ノ屯倉ナリ飯高郡ノ名モ出ヌレハ此立野ハ^{イダノ}序野ニテ飯高郡分レシ後ニ屯倉アリシ野ナルヘシ當郡ノ最初ニ此社ヲ載タルモ故アリ祀神前ノ例ノ如ク倉稻魂ナリ 今詳ニスルニ延經考證立野神社ノ名義ニ據テ立ト猛ト語通ス陸奧國伊達神社出雲國韓國伊太氏神社ノ如ク伊ニ五ニノ達ハ立ナリ故ニ五十猛命ヲ祀レリトス飯高ノ名モ五十猛ヲ轉零ノ名ク處ナルヘシ立野村アリ此ニ在ル所ナリト云然レモ立野ハ五十猛ノ畧ト云ヘモ立野ノ五十ノ意ナシ猶飯高ノ名ハ五十猛神ニ據テ名ク處ニ非ス倭姬命世紀飯高國ト填テ其飯食ヲ貴重ノ地名ニ冒スル處ニ注解セリ何ソ此神ヲ祀ルニ據ラン延經神典ニ考徵セスノ臆度スルハ非ナリ正身再考證倭名鈔立野内宮儀式帳ヲ引テ度會多氣飯野三箇郡ヲ神郡ノ始トシ及大津朝廷^{天智} 甲子年多氣郡四箇郡割氏立野野高宮村屯倉爲公郡云即高宮村ノ屯倉ノ地ニノ後ニ飯高郡ヲ分置シキハ序野ト稱シ後世立野ト字ヲ轉セシナルヘシト故ニ延喜式飯高郡五座ノ首ニ此神社置タルモ然ナリ屯倉ノ地ニノ所祀ノ神ハ倉稻魂命ナリト云ハ各的說ナリ今方俗松尾大明神ト稱シ或ハ司酒ノ神ナリトテ造酒家ニ崇信セリ松尾神社ハ山城州愛宕郡

松尾ニ坐ス所祭ニ座大山昨命市杵島姬命トス

鎮座社記云元明天皇和銅二年四年十二日同州賀茂別雷命ヲ山田庄荒子山ニ遷シ奉ル即丹塗矢化ノ松尾神ト現スト社傳云大寶元年秦都理始テ社ヲ建分土山ヨリ移シ奉ル續後拾順徳院御製

誰しかも松の尾を山のあふひ草かつらにちかく契り初けん

以上ノ說加茂別雷命ヲ所祀ナリ前ニ謂大山昨及市杵島比賣ヲ奉祀スト云ハ深秘ノ社傳ニ據レリ然レハ立野神社ニ此二神ヲ祭ルニ邇シト云ヘモ非ナリ造釀家ニ崇スルハ前ニ云倉稻魂命ヲ祀ルカ故ニ然リ既ニ二宮御酒殿ニ所祭ニ相同シ五十猛命及松尾明神ヲ奉祀トスルト云ハ非ナリ式社案内記及諸書五十猛命ヲ祭トスハ前考證ニ倣ヒテ臆斷ナリ故ニ姑ク前說ニ從ヒテ倉稻魂命ヲ祀ルト必スヘシ

立野城址 同處ニアリ城主水谷刑部少輔住セリ

山村 寺井ノ北ニアリ正税八百八石今六百六十五石七斗二合新田十九石五斗五升二合紀州松坂領ナリ舊名寺井山ト稱ス明曆圖ニ載タリ今零ノ山村ト稱ス屬邑高畑佐奈田也 神風抄云内宮村御園十町六斗

天王八王子祠 同處ニアリ高四石六斗七升三合紀州領主ヨリ免除ナリ白山權現祠同處ニ在一石二斗右ニ同シ

丹生寺 桂瀬ノ東ニアリ正税三百三十四石今三百九十九石四斗六升新田二十八石六斗二合紀州松坂領ナリ屬邑川原茶屋アリ

立野 丹生寺ノ東ニアリ松坂府ヨリ坤位一里半和名抄云立野郷ナリ正税六百七十一石今七百六十石二斗九升四合新田廿九石四斗一升二合紀州松坂領ナリ屬邑高田廣アリ河中ニ雲母双アリ 神風抄云外宮立野名神田一丁神領目錄云外宮立野名御園新上分五斗

式内立野神社 同處巽位ノ山上ニアリ方俗松尾大明神ト稱ス

西野 丹生寺ノ西ニアリ正税八百六十九石今九百九十四石二斗六合紀州松坂領ナリ屬邑林山口平生出アリ

田村 立野ノ東ニアリ正税七百六十八石今九百十九石八斗一升新田七石九斗三升七合紀州松坂領ナリ同名一志郡ニアリ屬邑下田村西田アリ一里塚同所字ハキノツホニアリ 神風抄云外宮手丸御園廿七丁一本云手村ニ作ル手田ト通ス疑ラクハ此邑ノ有ス處ナルヘシ 坂上田村曆明神祠 及守本尊觀世音 同處ニアリ一志郡田村ニ同傳アリ方俗田村ノ名ニ據テ誤リ傳ル處ナリ前号田村條ニ詳ニセリ併稽ヘシ紀州領主ヨリ三石三斗三升三合免除アリ 岡本 田村ノ北ニアリ正税百八十三石今百八十七石六升五合新田三十五石八斗七升五合紀州松坂領ナリ出屋敷小字アリ

岡本明神祠 同處ニアリ紀州領主ヨリ三百石二斗五升免除アリ

阿形 岡本ノ東ニアリ正税三百十六石今三百四十九石七斗三升新田三石九斗四升四合紀州松坂領ナリ舊名縣ナリ 神風抄云内宮縣御園一石 今稽ルニ阿形ハ縣ニノ飯高本郡ノ主宰古昔ハ郡司ノ所置ナルヘシ和名類聚抄鈴鹿郡英多郡ハ英多ハアカタニノ式内志波加伎神社一名縣社今ノ川崎村ニ存ス國府ニ邇キ地ニノ郡司ノ所居ニノ此ニ例スルキハ縣トハ田舎ヲ云ニ非ス京ヨリ任官ニ下ル國ヲ指ノ稱ス名ナリ及今集詞書云あかた見にはゐいてたらしやト云モ參河椽ニナリ其任國ヲ指ス土佐日記云あかたの四とせ五とせはてと云モ貫之カ任國ニ在シ年月ヲ云ナリ本郡ト鈴鹿郡ノミ名正シ此ニ村邑ノ名ニ今ニ存スレハ郡司ノ所居タル

處ナルハ必セリ神鳳抄云内宮南英太御厨三石六九十二月又云南英太神田一丁四石一本縣ニ作ル外宮神領目錄云英田御厨三石六九十二月宛 今稽ルニ南北二邑ノ有スル處ニ似タリ古今差ニ今一邑ナリ其南ト指ス處未詳

大足 阿形ノ東ニアリ正税六百五十八石今八百十七石四斗一升六合新田五石八升二合紀州松坂領ナリ

藤木 大足ノ乾位ニアリ正税六百三十九石今八百三十三石五斗七升八合新田二十一石三斗三升紀州松坂領ナリ

井村 大足ノ東ニアリ正税四百七十六石今五百五十石一斗一升新田二石三斗四升四合紀州松坂領ナリ 神鳳抄云内宮井村御厨三石六九十二月

八幡祠 同處ニアリ今紀州領主ヨリ一石三斗九升免除ナリ

八重田 井村ノ乾位ニアリ正税七百十三石今七百九石三斗四升新田五石八斗三升七合紀州松坂領ナリ

伊勢寺 八重田ノ乾位ニアリ松坂府ヨリ西一里半正税千三百五十五石今千五百三十九石二斗五升四合新田四十四石二斗五升四合紀州松坂領ナリ今村名ハ國分寺在ルカ故ニ稱スナリ屬邑日々原野白ノ小字アリ

國分尼寺 同處ニアリ眞言宗方俗伊勢寺ト稱ス本州一箇ノ國分寺ナルカ故ニ伊勢寺ノ名ヲ設ケ本邑ニモ名ク處ナリ 本尊藥師佛舊ト丈六釋迦佛行基大土作ヲ安セリ相傳云元正天皇養老五年五畿七道一州一箇ノ國分寺ヲ造リ行基菩薩ニ勅ノ造ル處ノ其一ナリ本尊釋迦佛像モ此朝ニ所安ナリ然ルニ壽永保元中ノ兵火ニ堂塔悉ク灰燼トナリ本尊モ回祿ニ失タリ故ニ今ノ本尊藥師佛ハ方丈ニ所置ニ同作ノ丈六佛ナリ寺領モ文祿中檢地ニ没ノ纒ニ遺レルヲ本邑ノ惣庵横瀧寺ニ配分ノ其寺僧モ一口住侶ノ舊名モ失ヒ慶雲寺ト稱セリ今領主ヨリ高五石免除アリ近世寺僧護國山國分寺ト罵リ稱ス 雜記云いものしの狂哥に

こひしくは尋てきませ伊勢の國いせ寺もとに住むろわらは、

ト云シモ此伊勢寺村ノ事ナリ云 拾遺及古屋双紙云光明皇后熱病ヲ疾玉ヘルキ清水ヲ献ノ忽平愈セリ又伊勢寺境内空海ノ堀タル井アリ 今稽ルニ雜記所載いものしの狂哥云其意解スルヲ得ス今寺前ニ井ノ本ノ清水ト稱スルアリ往年紀州國危南竜院頼宣公ヨリ寺号及井本ノ清水糺問ノヲアリ此時殺生禁斷ノ牌ヲ賜ヒ其清衆ノ砌ニ石碑ヲ建古歌曰

戀しくは尋てもこよ國の名の伊勢寺にすむ井のもとの水

是清潔ノ冷水ヲ賞スル處ニノ敢テ寺傳ニ拘泥スル處ニ非ス此清泉ニ據テ好事者ノ碑碣ヲ建雜記ニ據テ其章句ヲ變テ後世記スル處ナリ今國分寺ノ稱モ此時ヨリ稱スナルヘシ前ニ謂慶

雲寺ハ一説ニ惠雲寺ノ謬ニ東鑑卷七文治三年四月廿九日丙申公卿勅使伊勢國驛家雜事勤
 否散狀事不勤仕庄惠雲寺領ナリト云今憶フニ其詳ナルヲ得ス中世ニ至テ煙滅ノ寺号ヲ遺失
 シ慶雲寺或ハ惠雲寺ト稱スルヲ近世領主ノ沿革ノ命アリ國分寺ト罵ルヲ得タリ然レモ未
 詳ヲ得ス國分寺ハ既ニ鈴鹿郡國分ニアリ其國府ハ其郡ニアリ都テ國分僧寺ハ他州ニモ國府
 ノ地或其隣比ニ所置ノ例煥然タリ本邑ノ如ク國府ニ遠遠タルニ非ス然レハ國分尼寺タル又
 明ナリ本州二處ニ所置ニ國分ノ外他郡ニ其徵ナシ此地稍ク國分寺ヲ稱スルニイタリ其尼
 寺トスルニ足レリ嘗テ其州ノ一宮及同分寺ハ紛駁ノ爭ヒ稱スル多シ續日大記天平十三年
 正月乙己詔曰朕以薄德忝承重任末弘政化寤寢多慚古之明主皆能先業國泰人樂災除福至修何
 政化能臻此道頃日年穀不豐疫癘頻至慙懼交集唯勞罪己是以廣爲蒼生遍求景福故前年馳驛增
 飾天下ノ神宮去歲普令天下造釋迦牟尼作尊金像高一丈六尺各一鋪并寫大般若經各一部自今
 春已來至于秋稼風雨順序五穀豐穰此乃微誠啓願靈貺如剗載惶載恐以自寧案經曰若有國土講
 宣讀誦恭敬供養流通此經王者我等四王常來擁護一切灾障皆使消殄憂愁疾疫亦令除差所願遂
 心恒生歡喜者宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寔勝王經妙法蓮華經各十部朕又別
 擬寫金字金光明寔勝王經每塔各令置一部所冀聖法之盛與天地而永流擁護之恩被幽明而恒滿
 其造塔之寺兼爲國花必擇好處實可長久近人則不欲蕪臭所及遠人則不欲勞衆歸集國司等各宜

務在嚴飾兼盡潔清近感諸天庶幾臨護布造遐邇令知朕意又每國增寺施封五十戸水田十町尼寺
 水田十町僧寺必令有二十僧其寺名爲金光明四天王護國之寺一十尼其寺名爲法華滅罪之寺兩
 寺相去宜受教戒若有闕者即須補滿其僧尼每月八日必應轉讀最勝王經每至月半誦戒羯磨每月
 六齋田公私不得漁獵殺生國司等宜恒加檢校此ニヨレハ其尼寺ハ法華滅罪寺ト稱セルナリ
 然ルニ衰頹ノ其寺名モ失テ奇異ノ号ヲ稱セルニ文明ノ化ニ及テ稍ク國分寺ノ舊墟ノミヲ稱
 スルニ至レリ然レモ其妄興ハ未其真ヲ得ス稽ルニ前ノ歌詠ハ野ナリトイヘモ孰レ上世ヨリ
 方俗ノ口碑ニ存ノ或ハ光明后ニ冷泉ヲ献シ或ハ伊勢寺ニ住侶ス女僧ノ徒漫ニ風詠スル處ノ
 遺タルナルヘシ井水ヲ献スト謂フニ空海ノ所鑿ト前輩ノ稱スルハ時世ノ差ナリ四條公任大
 納言ノ朗詠集ヲ道風ノ擬寫セルニ同シ捧腹ニ耐タリ猶續日本紀所載國分寺ノ例典ハ鈴鹿郡
 國分條ニ詳ニセリ併稽ヘシ

式内物部神社 同處國分寺境界ニアリ祭神火明神 度會延經神名帳考證云物部神社火明命
 姓氏錄云縣使ノ首ハ宇麻志廣遲命之後也火明命名倭名鈔云英太阿加太雜例集云飯高郡懸御
 厨今云阿形村 度會正身神名帳再考證云物部神社繼躰紀ニ物部ノ伊勢ノ父根ト云人アリ是
 伊勢ニ居ス物部氏ナレハ其祖ヲ祀リシナリ社地未考今詳ニスルニ延經考證ニ物部神社ノ名
 義ニ據テ火明命ヲ奉祀ス猶其地社ハ姓氏錄ヲ引徵ノ縣使首祖ハ宇麻志廣遲命ナリト即火明

命ノ別命也懸使ノ姓尸ニ據テ懸英太同シ神宮雜例集懸ノ御厨ハ此地ナリ故ニ今ノ阿形村ニ在トスノ解ナリ正身再考證ハ日本繼躰紀ニ物部父根本貫ノ地ナレハ其祖ヲ所祭ナリ社地ハ詳ニ考得スト云前考證火明命ヲ所祀ト云ハ懸使首姓氏ニ據テ阿形村ニ在トスト云ヘ凡物部神社ノ名義未其眞ヲ得難シ然レ凡英太今阿形アリ本郡ノ郡家ニノ郡司ノ所居ナリ其郡司ノ遠祖ヲ孰レ祭リタルナルヘシ然ルキハ歷代連綿ニ非ス其時ノ郡司ノ遠祖ナレハ何神凡定難シ物部神社ノ名義ニ據レハ伊勢ノ物部姓ノ遠祖ヲ祭レリト謂フモ相邇シ故ニ其神名ヲ詳ニ記スルニ難シ或ハ舊事紀天孫本紀云火明命十三世孫建彥連公伊勢荒比田連等之祖此ニ據レハ伊勢連ハ建彥連公ニノ火明命十三世ノ孫ナリ同紀ニ火明命物部竺志連公新家連等祖ト載ス故ニ其遠祖火明命ヲ祀リタルトモ云ヘシ又物部義ヲ宗トスルキハ饒速日命子宇麻志廣遲命ヲ祀ルト云舊事本記云宇麻志廣知命率天物部剪夷逆賊帥軍兵平定海内云云宇麻志廣知命率內物部乃堅矛楯嚴增威儀云云天皇神武詔宇麻志摩知命曰汝之勳功矣念惟大功也公之忠節焉推至忠也是以先授神異創崇報不世之勳今配股肱之職永傳不貳之美自今以後生々世々子々孫々八十聯綿必胤此職永爲龜鏡此ニ據レハ物部ノ始祖ニノ宇麻志摩遲命ヲ祀レリ凡云然レ凡他社ノ例ニ准セハ上祖火明命ヲ祭ル凡謂ヘシ既ニ前号一志郡ニ物部神社アリ同名ナリ是山邊神社ノ訛傳ニノ眞ノ物部神社ニ非ス其郡新家村ノ條ニ辨セリ此ニ標ス物部神社ハ即

物部氏ノ遠祖ヲ祀リ社号モ然謂フ處ナリ再考證舊事記ハ舍テ不取日本書紀ヲ舉テ物部連祖ヲ祀ル處ト云ヘ凡其祖神ノ名ヲ出スニ非ス臆斷ナリ舊事紀ハ取舍アリト故ニ此ニ取徵ノ物部ノ祖宇麻志摩遲ハ神武天皇朝ノ人ニノ其遠祖ノ火明命ヲ祀ル處ナルヘシト姑ク從ヘリ竜照近神名帳考正ハ其社地未詳トス式社案内記火明命ヲ所祀歟ト疑フ考證阿形村ニ在スト云ハ非ナリ其餘各從ヒ難シ

伊勢寺城址 同處ニアリ小管備後守住ス又後ニ久瀬五郎左衛門尉住セリ

横瀧寺 凡處ニアリ本邑西ノ山上ニアリ

淨土宗 本尊金色座像阿彌陀佛 行基大士作ト稱ス 同處瀧川寺兼帶地ナリ今領主ヨリ高

七石免除又境內觀音堂及當念佛堂アリ勢陽雜記所載惠雲寺庄伊勢寺村ノ山上ニノ他ニ異ナル靈場ナリ元弘建武ノ逆亂ニ大破ニ及ヒシニ應永二十六年ノ春三月ノ頃ヨリ何トナク五日十五日二十五日三度ノ縁日ニハ貴賤トナク現世安穩後世善處ノ結縁ノ參詣群ヲナス一時同郡ノ近里英太ト云處ニ貧窮ノ田夫アリ其名ヲ次郎三郎ト稱ス何ナル舊業ニカ遍身ニ惡瘡ヲ生シ心身苦痛甚シク止時ナシ醫療ヲ加ルノ便ナク空ヲ月日ヲ送リケルホトニ貧苦病苦日ニ重ク親モ踈クナリ悲歎骨髓ニ透リ今ハ現世ノ望モナク後世善處菩提心ヲ起シ念佛三昧ノ外他念ナシ此靈場ニ詣來リ無二ノ丹誠ヲ抽前世ノ惡業重ノ疾病平癒ノ感應有スハ後世ヲ救

玉へト斷食ノ祈誓ケルニ三日ニ當ル夜ノ靈夢ニ一老僧來テ云汝宿業ノ難病故ニ治難シトイ
 へト念佛斷食ノ願力強盛ナル因テ願望ヲ遂へシ然レハ惡瘡平愈ノ三年ノ後土ニ赴へシ亦病
 ヲ不治レハ八十餘歳ノ壽筭ヲ保へシヤ汝方望ニ任へシト有シホトニ夢中ニ答云斬ル業病ヲ
 受テ千年ヲ經ル凡何カセン唯願クハ瘡疾ヲ治セシノ玉へト云老僧然ハ針ヲ指スへシトテ惡
 瘡ニ針ヲ勅玉へハ其痛ニ夢醒テ見レハ通身ヨリ血流テ浴スルカ如シ六日ヲ經テ惡瘡悉ク平
 愈シケリ寔ニ難有カリシ奇特ナリ三年過テ十一月十五日ニ臨終正念ナリケレハ見聞スル人
 後世マテモ最憑モシク思ケル是ヨリ自他國ニ其隱レナク種々ノ疾病痲痺願ニヨリテ感應ア
 リ或ハ兩眼盲セシモノ急眼開テ杖モ琵琶モ寶前ニ掛マクモ辱ト歡喜踊躍ノ飯ルモアリ寔ニ
 衆生濟度ノ利益空シカラズ大著聞集曰伊勢國横竹ノ觀音ハ靈驗新ナリシニ或盲ニ七日籠リ
 テ一タヒ目ヲアケテ給へト祈リシカト何ノ驗モナカリシカハ

竹とてもすくなる竹かよこ竹の堂も佛も同じ木のはじ

ト讀テ下向シケルニ跡ヨリ呼カヘス人アリ誰トフリカヘレハ眼忽ニ開キシトナリ 今考ル
 ニ五劫思惟彌陀佛一軀別堂ニ安置ス雜記所載ハ本尊ノ如シ著聞集所謂ハ觀音薩埵ニノ方俗
 モ横瀧ノ觀音ト稱ノ偈仰セリ古屋双紙云天平年中行基大士開基ト云ハ國分寺ヲ混セルナリ
 國分寺一代ノ僧詠歌

横たきは名にころ立れ清瀧のなかれを汲て住らうれしき

式内堀坂神社 同處生土神ニノ坤位ノ小丘ノ半腹ニアリ方俗堀坂大明神ト稱ス 度會延經神
 名帳考證云堀坂神社堀ハ祝也舊事記云大山祇亦名正鹿山津見神美濃國坂祝ノ神社今堀坂山
 半腹有社 度會正身神名帳再考證云堀坂神社是丹生神社ノ下ノ神社也中ノ社アルヲ以知ル
 へシ堀坂ハ此山ヲ堀テ水銀ヲ出セル地ヲ云祀ル神壇山姬命堀坂山半腹ニアリ今詳ニスルニ
 延經考證ハ堀坂神社ノ名義ハ堀ハ祝ノ義ナリ祭神ハ坂ニ祝ルノ義ニ據テ神名帳美濃州坂祝
 神社ニ同ク正鹿山津見命ノ名ニ應ス故ニ此ニ祝ル處ナリト云解ナリ正身再考證ハ堀坂神社
 ハ丹生神社ヲ上トシ丹生中神社ヲ中トシ此神社ヲ下トス堀坂ノ名ハ此山ヲ堀テ水銀ヲ出ス
 地ヲ云ノ名ナリ故ニ丹生ニ相同ク次第ノ上中下ノ三社ノ内ナリト云意ニノ祭神瓊丹土中ニ
 生スルカ故ニ土神壇山比賣命ヲ祀ルト云注ナリ憶フニ堀坂ハ前考證ニ祝坂ノ轉訛ト云ハ卓
 說ナリ神靈ヲ祀ルノ地ノ謂ナリ然レ祝坂ノ名ニ應ノ正鹿山祇ヲ祀ルト云ハ牽強ナリ即大山
 祇命ノ別名ニノ山嶽ニ所祀ハ然ルへシト云へト其眞ハ得難シ臆度ニ近シ方俗堀坂明神或ハ
 富士權現ト稱ノ每歲晦夜五月農民火炬ヲ炷ノ登山ス或ハ木華開耶比賣命ヲ祀レリト云然レ
 是今俗ノ弊習ニノ富士禪定ニ比スルハ其實ニ非トス或云中世此神社ノ廢絶スル處ニ寶永
 年中伊勢寺村修驗者松壽院再興ノ富士權現ヲ祀リ五月登山參詣スルニイタル處ナリ正身再

考證ハ此神社ハ丹生上中下ノ三社ニ屬ス此山ニ水銀ヲ堀出スト云ハ妄誕ナリ既ニ丹生ニ遼隔ノ其地ハ遼ニ北位ニアリ上中ノ神社ニ續クヘキニアラス前号丹生神社條ニ載ス瓊丹土中ニ生スルカ故ニ土靈埴安比賣命ヲ此ニ配スト云モ牽強ナリ從ヒカタシ然レモ姑ク前者證ニ倣テ大山祇命ヲ充ツヘシ式社案内記此ニ同シ其社區ハ勢陽雜記ハ伊勢寺村ノ山上ニ社權アリ竜天權現ナリ勢陽雜記拾遺云堀坂山ノ半腹ニアリ神名帳考正相同シ各其地ヲ詳ニセストイヘモ今伊勢寺村ノ坤位ノ小山ノ半腹ニアリ即産土神ニノ方俗堀坂大明神ト稱ス又前ニ云堀坂山嶺上ノ富士權現ニ混合スルニ二説アリ其富士權現ト稱スルヲ眞トスヘシ堀坂山 同處ヨリ西一里頂上ニイタル東北ノ本邑ニ屬シ西南ハ勢津ニ屬セリ本郡ニ二ノ高嶽ナリ所謂當山白猪嶽局嶽ヲ本郡ノ三山ト稱シ東海廻船ノ舟人ノ的トノ三ツ星ト俗稱ス其一ナリ山上ニ富士權現祠アリ此祠中世絶タルヲ本邑ノ修験松壽院資永中再建セリ度會延貞云松坂ノ西南ニ伊勢富士ト云アリ則堀坂山衆山ニ秀テ高山ニテ淺間社アリ每歲五月晦日村々ヨリ登山ノ群ヲナセリ是山ノ形ノ富士ニ似タルニ非ス富士ノ如ク淺間ニ參詣スルニ因テ如此伊勢富士ト稱スルナリ此ニ據レハ前ノ堀坂神社ニ非ルヲ明ナリ

深長 八重田ノ北ニアリ正稅四百十四石今五百六十五石四斗新田四石三斗五升八合紀州松坂領ナリ 神風抄云内宮深長御厨二石六九十二月

式内大神社 同處ノ西ニアリ方俗泉ノ森ト稱シ和泉明神或ハ大和大明神ト名ク公麿泉大明神紀州領主ヨリ高七石免除アリ 度會延經神名帳考證云大神社大物主命在立野社南山室村吾欲住日本國之三諸山室與諸語通山室此謂乎諸言神籙万葉集三諸就三輪山就齋也三輪水曲名也此社及立野社之北東深長村有深長社其社傍東作時泉涌潤田收藏時酒竭出雲風土記云意美豆努命御子赤食伊奴意保復美比古佐倭氣能命意美豆怒大氷主也大物主之別名也赤食產神也大神君祖天日方奇日方命也比古佐與深長語通古佐與加多通水生南盛北南祀祖北祀裔而御子之神乎 度會正身神名帳再者云大神社今本方ホワノ神社ト点シタルハ非ナリヲホワト訓スルハ大神神社ナリ此下文大神社大神神社ト其別アリテ數處ニ見ヘタリ是ハ大神社ニテ飯高郡第一ノ大社ト云義ナリ古事記ニ天押帶日子命ハ伊勢飯高君壹志君祖也トアレハ飯高郡ヲ創メシ人祖其天押帶日子命ヲ祀ナルヘシ社地未考 今詳ニスルニ延經考證ニ大神社ヲ大神ノ神ト見誤リテ故ニ大物主命ヲ祀トス室ト三諸ノ字語通スニ據テ山室村ニ在トス猶三輪ハ水曲ノ名ニシテ此社域ノ良位深長社ノ傍ニ清泉アリ春種ノ時涌出シ秋收ノ時ニ竭涸ス故ニ出雲風土記ヲ引テ意美豆努命ハ大水主ノ轉ニシテ即大物主命ノ別命ナリ又大神氏ノ遠祖ハ天日方奇日方命ナリ伊努意保須美比古佐倭氣能命ノ比古佐ハ深長ノ名ニ語通ス古佐ハ加多ニ音通ス比古佐ハ比加多ニ同ク天日方寄日方ナリ水徳ハ南方ニ生シ北方ニ盛ナリ故ニ山室ニ

其祖大物主命ヲ祀リ北方深長ニ比古倭氣能命ヲ祀ルナルヘシト云正身再考證ハ大神社ヲ
 オホワノ神社ト訓シ大物主命ヲ祀ルト云ハ非ナリ大ノ神社ト讀テ飯野郡ニ最第一ノ大神
 社ト云義ナリ古事記ニ所載天押帶日子命伊勢飯高君壹志若ノ祖トアルニ據テ飯高郡ヲ草創ス
 ル人ノ遠祖此ニ祀ルナルヘシト云フ、憶フニ前考證ハ大神社ノ名義オホカト訓スル故ニ大
 物主命ヲ奉祀スル處ニ必定セリ然フニ再考證ニ所謂大ノ神社大神ノ社ノ區別アリ延喜式大
 和國城上郡大神大物主神社越後國頸城郡大神社備前上道郡大神社四座伯耆國會見郡大神山
 神社因幡國巨濃郡大神社備中國下道郡神社越前敦賀郡大神下前神社美濃國多氣郡大神神
 社駿河國益頸郡大神神社大神社尾張國中嶋郡大神神社等アリ大神ノ神社ハ即大物主ヲ所祀
 ナリ神ノ神社モ同シ各三輪ニ等シ越後因幡等大ノ神社ト載ハ此本條ト相同シ其郡大社ノ謂
 ナリ例ノ知ヘシ前考證ニ大神神社トノ大物主命ヲ配スルハ各非ナリ再考證ニ郡ノ大社ニ
 飯高壹志ノ姓氏ノ遠祖天押帶日子命ヲ祀リ大ノ神社ト稱スルハ的説トスヘシ此ニ從ヘリ猶
 山室ハ其地山丘ノ間ニ民居ノ奥室ノ如シ故ニ名ク山諸ノ義ニアラス牽強ナリ再考證ハ社地
 未考ト云式社案内記大神社祭神意美豆努命比古倭氣能命深長村西ノ方ニアリ今云大和大
 明神是前考證ニ從テ祭神ヲ定ム猶方俗大和大明神ト稱スルニ據テ大ノ神神オホワト訓シ此
 ニ倣ヒタルナリ考證ハ山室ノ名ニ三諸ヲ合シ案内記ハ大和明神ニ據テ深長ニ定タルナリ各

未詳ナリトスヘシ深長ノ神社タルヲ誤リテ大和明神ノ名ヲ強テ冒シ大物主命ノ別名ヲ此ニ
 合スルナリ飯高君祖天押帶日子命ヲ祀リ大ノ神社ト稱スルハ深長社ニ填ヘシ前證ニ云其社
 傍東作之時泉涌潤田收藏時涸竭ト今猶清泉アリ故ニ方俗泉ノ森ト稱シ和泉明神云往昔松
 坂城主古田織部正茶湯ノ料ニ此ヲ汲用タリ故ニ社領十二石ヲ寄ス今世沿革ノ茶ノ用ハ絶タ
 レ凡國印ヲ賜テ神田ハ存セリ稍ク米七石ヲ附ス此泉ノ傍ニ鬱林ノ中ニ石菖蒲ヲ生ス美濃州
 多藝郡養老ニ産スルニ同シ葉背劔背ナシ方俗賞ノ裁玩ス勢陽俚諺所謂本郡河俣谷作瀧村神
 社域ニ所祭祠アリ高ノ宮ト云是式内大神社ナリトスは無稽ノ言ナリ從ヒカタシ今按スルニ
 飯高君ノ祖天押帶日子命ヲ祀ルノ神社壹志郡及本郡ニ詳ナラス然レハ大神社ノ名ニ據テ其
 飯高ノ遠祖ヲコ、ニ奉祀スルニ始ラク從フヘシ

野村 深長ノ良位ニアリ正稅六百六十八石今六百三十七石八斗九升四合紀州松坂領也

殿村 八重田ノ東ニアリ正稅四百六十石今四百六十二石七斗二升六合紀州松坂領ナリ安濃郡
 同名アリ

田牧 殿村ノ良位ニアリ正稅百五十五石今百六十石紀州松坂領ナリ 神鳳抄云清松田牧二十

丁清松ハ領主ノ名ニシテ山室成武同吉光ノ如キナルヘシ

曲村 田牧ノ良位ニアリ正稅千五十四石今千百一石一斗新田一石四斗五升紀州松坂領ナリ神

鳳抄云二宮勾御三十一町各六石六九十二月

外五曲 曲村ノ巽位坂内川ノ外畔ニアリ故ニ名ク正稅百五十九石今百四十八石一升五合新田

一石六斗八升六合紀州松坂領ナリ 神鳳抄云二宮五勾御園四十一丁一石

内五曲 外五曲ノ南ニアリ坂内川ノ内畔ニ民居ス外五曲ニ對ノ名ク正稅百九石四斗一升三合

新田八石五升九合紀州松坂領ナリ

船江 外五曲ノ良位官道ニ民居ス正稅二千七十八石今八百八十一石一升八合紀州松坂領ナリ

舊名府内ト名ツク今船江ト轉訛ナリト云フ

八幡祠 同處ニアリ

利勝山藥師寺延命院 同處西口官道ノ傍ニアリ眞言宗 今紀州領主ヨリ六石五斗一升免除

ナリ 雜記所載文治年中後鳥羽天皇草創本尊藥師如來行基菩薩ノ制作ナリ左右毘沙門勝力

二天並ニ十二神將ヲ安置ス門前ノ二王ハ運慶ノ彫ス處也古昔ハ七堂伽藍ノ靈地タリシニ數

度ノ兵亂ニ寺堂悉ク炎上ノ漸ク本堂三間半廣三間ニ營ケル二王門モ亂世ノ後雨露ニ洗レ玉

フ今本堂二王門纔ニ造立シケリ 古屋草紙云聖武天皇勅願文治三年後鳥羽院再建 境内子

易地藏堂アリ 北畠物語云御本所北畠信意卿茶筌丸ヲ養子トシ船江ノ藥師堂ニ居ヘ置玉ヒ

シカ既ニ三年ヲ經テ元龜二年ノ夏御本所具教卿女信意卿ノ妹ヲ養ヒ茶筌丸ノ内室ニ定メラ

レ舟江ニ於祝言事ト、ノへ畢其後茶筌丸信意雄ヲ大河内ノ城ニ移サル 勢陽軍記及兵亂記

等右ニ同シ 永錄十二年河大内軍和親ノ後元龜二年ニイタリ三年ノ間織田茶筌丸此寺ニ在

住ナリ諸堂再建モ此時ナルヘシ其後天正慶長中ニ至テ此地ニ兵革ノ變ナシ雜記所載兵燹ニ

罹リ災スト謂フハ永祿以前ノ事ナルヘシ

船江城墟 同處東ノ田間ニアリ永祿天正中北畠家臣本田美作守其嗣本田左京亮等居セリ美

作守ハ乙部兵庫頭カ塔ナリ 伊勢兵亂記云永祿十二庚申年八月船江城ハ南方ヘノ道條故ニ

本田美作守ヲ大將トシ小原冷泉方名帳北村方同西岡方並弓一揆十文字一揆楯籠シホトニ兼

テ木造ニテ軍評定ノ時濫見城主乙部兵庫頭申ケルハ舟江城ニハ究竟ノ兵氏數多籠リケル程

ニ容易ニハ攻取難シト云 云彼本田美作守ハ乙部兵庫介カ塔ナリ其子小次郎親康幼少ナル故

ニ伯父右衛門尉代リテ下知ノケル信長思案ノ其枝ヲ捨本ヲ斷ニ及ハシトテ舟江ニハ取合ス

山際ヲ通り明廿六日夜阿坂城ヲ攻ントテ先手ヲ呼返玉フ舟江ノ本田勢森中西山邊高橋公

門齋藤以下打テ出曲ト深長ノ間小金塚ニテ信長勢ヲ追テラシ分捕高名ノ首數多討捕ケリ又

翌廿七日夜信長山際ヲ押テ南ヘ通ル程ニ公門六郎左衛門尉昨夜高名セサルヲ木意ナク思

ヒ諸卒ヲ進メテ是ヲ討ント云ケレハ山邊次郎右衛門尉是ヲ守テ不意ヲ擊ハ即利アリト云敵

兵昨夜ニ數多討レテ發憤シケル處ニ小勢ニテ取掛必利アリマシト制シケレモ不聞ノ昨夜ノ

如ク小金塚へ打出遮リ戰ケレハ案ノ如ク敵兼テ待受タルヲナレハ舟江勢散々ニ打負敗軍ノ一志郡住人長藤十郎左衛門尉息男善七郎藥師寺芳清法印己下數輩討死ス扱信長勢舟ニテ廻リケルカ諸勢陸へ上リケルヲ舟江ノ本田勢曾原ノ天花寺勢聞付テ黒部村へ馳向ヒ夜討ニノ數多討取云 又曰天正十二庚申年本田左京亮親康ハ舟江城ニ楯籠シカ親康カ聲中村仁右衛門尉カ謀ニ因テ秀吉公ニ心ヲ合セケレモ息千勝丸ヲ人質ニ遣シ松ケ島ニ在ケレハ何ニモノ盗出シタク思ヒ潛ニ高島次郎左衛門尉勝政ヲ語ラヒイカ、スヘキト密談シケレハ勝政頓テ託ノ三月十五日諸勢ニ紛テ松ケ島城ニ入リ置カ勢ニ交リ合戰ヲ拒ミ同二十日夜千勝丸ヲ盗出シ忍出ケレモ寄手ノ者共是ヲ見付落人ト思ヒ討捕ント千五百人三方ヨリ追懸タリ勝政案内ハ知タリ事故ナク舟江ニ着ケリ虎口ヲ脱レ出ケル働天晴勇士哉ト云ケル然モ本田城ヲ堅ク守リ居ケル程ニ敵味方是ヲ疑ヒ終ニ滅亡シケル 今稽ルニ前條永祿十二年本城ノ籠居ハ織田信長大河内城ヲ撃ントス時ナリ後條其男左京亮及千勝丸ノ事蹟ハ豊臣秀吉織田信雄ト矛盾ノ時ノ事ニ天正年中本田氏ハ滅亡ノ其城モ發スルニ及ヘリ故ニ永祿中ヨリ以後慶長中ニ至リ織田茶筌丸ノ藥師寺ニ迂居及古田兵部少輔石田三成カ逆亂ニ木食上人ト對話ノ片モ此藥師堂ニ會スヲ伊勢戰記ニ載タリ本郡松坂府城ノ條ニ詳ニセリ

八幡神社 同處ニアリ今領主ヨリ高一石免除ナリ 松坂禊云古田家城營再興ノ人夫村高ニ

應ノ課役セラレシカハ府内今船江ト云 高多ク人少ノ耕作等時ヲ失ヒ究人離散シ亡所トナリシヲ松坂商家ニ配帶セラレシ由是ヲ掛リ由ト云元和九癸亥年三月七日長野九左衛門手代大島四兵衛高田彦右衛門ヲ以二百石餘ノ無地ヲ七十石餘ノ無地ニ改ラレ寛文元辛丑年ヨリ六ツ二歩ノ定免取米千二百五十五石一斗三升但寛永四丁亥年常念寺増地被下掛リ高御除石ノ内二斗七升八合四夕引ル内千二百卅八石九斗三升二合 今稽ルニ前條ニ載ル處ノ府内ヲ舊名トスルニ似タリシカレトモ古田兵部少輔重勝文祿四年豊臣氏ノ命ニ依テ江州日野ヨリ移轉ノ松坂城經營ノ時ニ其城ノ府内ノ謂ニノ城府ニ屬スルノ處ナレハ舊名ハ船江ニノ後ニ府内ニ轉タルナルヘシ其謂ハ既ニ伊勢兵亂北畠物語等ニ永祿天正中ニ船江藥師寺船江城等ノ名アレハ府内ノ名ハ天正及文祿中以後蒲生氏郷古田重勝等松崎城ヲ此地ニ移遷ヨリ後ニ城府ニ屬スルノ名ハ起レリト看ツヘシ或ハ後人ノ附會ノ府内ノ名ヲ設タルヤコ、ニ於テ闕疑セリ

岩内 伊勢寺ノ北ニアリ正稅二百十三石今二百四十三石一合新田三石七斗一升四合紀州松坂領ナリ多氣郡ニ同名アリ 神風抄云岩内御園八町五斗

石觀音 同處山中ニアリ谿川ヲ隔テ山腹ニ巨石ノ面ニ觀世音菩薩ノ像ヲ彫鑿セリ諸人往々アリテ拜ス

岩内城趾同處山上ニアリ國司北畠家ノ別岩内主膳正光安住セリ時俗岩内御所ト稱ス其男岩

内王千代丸光吉二歳ノ時北畠具親ノ養子トス北畠ニ改稱ス具親敗走ノ後岩内ノ家系漸滅セ
リ或云後莊門ト稱ス其子孫度會郡山田ニ住セリ上多氣眞善院北畠諸士名署録ニ載ス

塚本 船江ノ北官道ニ民居ス正税四百六十七石今五百六十二石七斗二升四合新田八斗二合紀
州松坂領ナリ

潮田塚 同處ニアリ國司北畠家臣潮田長助此地本貫ニシテ、ニ死ノ壟埋スル處ナリト傳アリ
故ニ塚本ト村名ヲ稱ス詳ニ松坂府城ノ條ニ載タリ

大塚 塚本ノ巽位ニアリ正税三百十九石今三百十八石七斗七升五合紀州松坂領ナリ大塚ノ名
義モ塚本ニ倣ヒテ稱スナルヘシ 神鳳抄内宮大墓御園一石五斗六九十二異本ニ塚ニ作ル

久保田 大塚ノ東ニアリ正税四百石今四百石三斗四升五合紀州松坂領ナリ

大平尾 久保田ノ東ニアリ正税三百五十二石今三百九十一石四斗九升四合紀州松坂領ナリ平
尾ノ名義ハ海瀨ニ望テ平坦ノ意ナルヘシ大ハ町平尾ニ對シ方俗平尾トノミモ稱セリ神
風抄云内宮平生御厨

瀧川寺舊墟 同處ニアリ天正四年一志郡瀧ノ河瀧川寺ヲ此地ニ移轉シ天正九年又松坂府南

ニ迁ス今愛宕山竜泉寺ト革名ス其舊址ナリ方俗愛宕屋敷及愛宕川ト稱スアリ詳ニ松坂府竜
泉寺條ニ載ス

新松ヶ嶋 大平尾ノ北ニアリ正税三百十二石今五百十八石二斗四升新田百九十五石六斗七升

九合紀州松坂領ナリ 屬邑北町屋アリ松ヶ嶋ニ對シ新松ヶ嶋ト稱セリ

町平尾 新松ヶ嶋ノ巽位ニアリ正税三百四十三石今三百五十一石六斗一升三合新田七十九石
一斗八升三合紀州松坂領ナリ

大口 町平尾ノ南ニアリ正税三百一石今二百三十八石一斗二合新田三百二十四石七斗二升六

合紀州松坂領ナリ松坂府ヨリ良位二十町海舶湊集ノ地ナリ故ニ海口ノ意ヲ以テ大口ト稱ス
ナリ神鳳抄云大口御厨二貫二石一志郡ニ隸セリ惣テ舊本郡ノ差多シ今此ニ大口ノ名アルニ
據テ載ス

加世智神社舊跡 一丁半計乾位檜二株アリ是松坂繼松山岡寺ノ舊地ナリト云又一丁計ニ老松一株アリ賀信ノ松ト名ク其名義未詳

式内加世智神社 同處ノ西位叢林ノ中ニアリ一本校正ニ從ヒテ石津加世智神社トシ石津ニ在トイヘト今詳スルキハ石津大口隣比ノ邑ニシテ甚邇シセナカ浦又セクロ山又方俗シヤクシト云老松叢林ノ塚田間ニアリ是加比智社ニシテ社宇ナシトイヘリ眞蹟トスヘシ郷津村久爾都社ヨリ北去二丁祭神風木津別之忍男神 度會延經神名帳考證云加世智神社岐神猿田彥命ト同神古事記云於投棄御杖所成神名衝立船戶神倭名鈔云横首杖加世都惠盖取義有縱横智男也古事記云久久能智神稱土地之壽在波瀨村社此乎 度會正身神名帳再考證云加世智神社古事記ニ風木津別之忍男神ト云アリ訓風云加邪訓木以音按スルニカセト云ヘキヲ下ニ辭ヲ續ケントテ第四位ノ體ヲ第一位ノ用ニ轉スルナリ此神名皆假字カセハ新稻ナリセハ早稻ノセニしねノ切セトナリしねハ水根ニテウルシチオシチノしねト同シ又カリノリヲ畧ノゼト濃ルナリ木津ハ保ナリ別ハ風木津ヨリ別ル 稻男ノ神ト云義ナリ此神社ハ新稻保ノ神ニシテ保食神ニ同シ此智ノ字ノ上ニモノ畧アレハ濁ナキハ重濁ヲ避ルナリ社地未考今詳ニスルニ延經

考證加世智神社ノ名義ニ據テ加世ハ和名抄ヲ引徵メ加世都惠ト同ク畧語智ハ舅ニ彦舅ノ例ニ等ク杖ノ名ニ由テ古事記衝立船戶神ヲ所指ニノ即岐ノ神猿田彦大神ト相同シ又久久能智神ハ土地ノ久遠ノ壽ヲ云其社地ハ波瀨村ニ在ルヘシト解注セリ正身再考證ハ加世智神社ノ名ニ據テ古事記ニ所出風木津別之忍男神ノ名ヲ解ノ風ハ茹稻木津ハ保ニ同ヲ別ハ茹稻保ヨリ別ル稻男命ト云義ニノ保食神ト同ク加世毛智ノ訓ヲ畧ノ加世智神社ト号スルナリ社區ハ未詳ト云注ナリ案スルニ前考證和名鈔ニ横首杖ヲ加世都惠ト訓スルヨリ據テ鑿ノ杖ヲ用ルハ岐衢ニ從フ故ニ岐ノ神ヲ祭ルト云ハ迂ニノ解シ難シ後考證ニ祭神ハ風木津別之忍男神ニノ加世毛智ノ畧ヨリ神社ヲ名クト云フハ甚邇シ此ニ從フヘシ前考證社地波瀨村ニ在スナルヘシト云其徵ヲ得ス尙熙近神名帳考正云背奈浦石津社此乎ト云背奈浦未其地ヲ不知勢陽雜記拾遺此ニ從テ背奈浦ニアリトス式社案内記ニ大口村ニ在ス俗エツ社ト呼フ祭神風木津別之忍男神ナルヘシト云此後考證ニ從ヘリ勢陽俚諺風木津分忍男君ニ作ルハ非ナリ然レ凡本郡大口村ニ在ス處ト云キハ海舶湊集ノ地ニノ祭神衝立船戶神及猿田彦命等ナルヘシ其船工賈人ノ崇敬スル處ナリ方俗稱スエツ社ノ名ハ本邑ノ西位ニ小キ叢林アリ其地ノ小字ヲ惠津ト云未詳姑ク前說ニ從ヒテ此ニ定ムト云ヘ凡猶後稽ヲ俟モノナリ

郷津 大口ノ南ニアリ正稅二百七石今百八十九石二斗二升八合新田二十九石八斗四升三合紀

州松坂領ナリ舊本或ハ江津ト録ス

式内久爾都神社 同處ニアリ生土神ナリ祭神乙加豆知命 村老云本社ハ舊ト大口浦紀州御藏前東南ニヲンヤタト云田間ニ叢林アリ社宇ナシ里俗明神ト稱ス又並ヒテ半丁計ニ森アリ是ハ大口領ナリ今ハ江津村中ノ社ニ遷スト云然レハ今ノ地ハ後ニ秘造スルトコロナリ 度會延經神名帳考證云久爾都神社古事記云御眞津日子訶惠志泥命娶尾張連之祖與津余曾之妹余曾多木毗賣命生御子天押帶日子命伊勢飯高君壹志君之祖也續日本記云天平十四年四月甲申伊勢國飯高郡采女正八位下飯高君筥目之親族懸造等皆賜飯高君姓寶龜八年五月戊寅典侍從三位飯高宿禰諸高薨ス 伊勢國飯高郡人也今云卿津社此乎 度會正身神名帳再考證云久爾都神社号ハ國造ノ下畧大神社ノ下ニ引如ク古事記云壹志君飯高ノ君ノ始祖天押帶日子命ハ大ノ社ニ祀リ此郡ヲ創造リタル祖ハ此ニ祀レル也 今詳ニスルニ延經考證久爾都神社ノ名義ニ據テ古事記ヲ引徵ノ御眞津日子訶惠志泥命ハ即孝照天皇ナリ尾張連祖與津余曾ノ弟余曾多木毗賣命ヲ娶テ天押帶日子命ヲ生ス此命伊勢飯高君壹志君之祠ナリ又續日本紀天平十四年四月飯高郡采女正八位下飯高君筥目ノ親屬ノ懸造等ニ各飯高君姓ヲ賜フ又寶龜八年五月條ニ典侍飯高宿禰諸高薨ス此ニ飯高君ヲ改テ宿禰ト云皆本郡飯高ノ人ナリ今郷津村ニ所在ノ社ナルヘシト解セリ正身再考證云久爾都神社ノ号ハ國造リノ下久理ノ二字ヲ畧ス處ニ

ノ前深長村ノ大神社ニ天押帶日子命ヲ祀リ此社ハ本郡ヲ創造スル處ノ祖神ヲ祖レル處ナリト云注ナリ憶フニ久爾都ハ國津ノ假字ニ同ク其國造ノ祖ヲ祀リタルハ必セリ天押帶日子命ハ命ハ既ニ大神社ニ奉祀スルニ據レハ同郡ニ二社ニ祀ルヘキ謂ナシ後考證ニ此郡ヲ創造スル處ノ祖ヲ此ニ祀レリト云ハ至當ナリ然レハ前考證及勢陽雜記拾遺式社案内記等各天押帶日子命トスハ非ナリ古屋草紙土御祖神トス是國津神社ノ名ニ據テ牽強ナリ論ニ不足猶本邑郷津或ハ江津ト字ヲ填トイヘ凡舊名ハ久爾都ニノ後ニ國津ヲ假リ音讀ニコクツト謂ケルヲ後ニ郷津ト轉訛セルナルヘシ各神社ノ名ニ據リ神社ハ國造祖ヲ祭リヲ據テ名トス處ナリ天押帶日子ハ大神社ニ祀リ此ハ倭姬命世紀云活目人彦五十狹茅天皇二十二年癸丑冬十二月二十八日迂飯野高宮奉齋四箇年于時飯高懸造祖乙加豆知命汝國名阿門給白久意須比飯高國止白而進神田並神戶飯高懸造祖ニノ此郡ヲ創タルハ此神ナルヘシ此餘所見ナシ然ルキハ此久爾都神社ニ乙加豆知命ヲ祀レリト云ヘシ然レ凡今乙加豆知命ハ本郡作瀧村ノ神社ニ所祀ニノ其社司飯高君ノ裔孫ナリト稱ストイヘ凡各私稱ニシテ其真ヲ得難シ松坂府雨竜天王社ノ社司モ飯高等因ノ裔ト稱ス作瀧社ニ倣ヘルニ同シ孰レ乙加豆知命ハ懸造遠祖ニノ式内ノ神社ニ奉祀スヘキ處ナリ作瀧ハ式外ニノ今内宮ニ屬スト云ヘ凡上世ノ御厨ノ地ニノ強テ乙加豆知命ノ本祠凡定メ難シ然レハ此ニ久爾都神ノ社ノ名ト郷津ノ舊名ト相應シ國津神ト名

クキハ懸造ノ遠祖乙加豆知命ヲ奉祀スルニ必セリト云ヘシ

高町屋 郷津ノ南ニアリ正稅四百二十一石今四百二十一石六斗八升七合新田六百三石一斗四升一合 今稽スルニ古昔帝都ヨリ大神宮及齋宮ニイタル街道ハ一志驛ヨリノ飯高驛ニ到リ岸江朝田立利清水櫛田ヲ經テ齋宮ニ入り其餘ハ度會郡ニイタル中世ハ又今ノ帝京ヨリハ近江州ヲ經テ鈴鹿郡ニイリ安濃驛ヨリ垂水藤瀉三渡ヲ涉テ東海瀨ヲ過テ飯高驛即今ノ松ヶ島舊名保曾久美後ニ細頸ト稱ス今町ヤ或高町屋ト云ハ其驛ノ舊名ノ遺ルナルヘシ大口郷津等ヲ經東岸江ニ至リ朝田清水櫛田齋宮ニ至リ度會郡ニ入テ大神宮ニ詣スハ相同シ老農松本所謂ハ飯高驛ハ本郡石津ヲ至當トスハ恐ク非ナリ詳ニ首篇本州街道今古論ニ槩セリ然ルニ此松島ヨリ犬牙ノ地ニ町平尾北町屋高町屋等町坊ノ名ヲ稱スルハ細頸ノ古驛ノ餘戶ノ意ニシテ後世ニ至リ其名ヲ失サルナルヘシ然サレハ村落田間ニノ町ノ名ヲ冒スヘキナシ併セ稽フヘシ

荒木 大口ノ西ニアリ正稅百三十六石今百三十六石二斗一升八合新田二石一斗七升一合紀州松坂領ナリ

石津 荒木ノ押位ニアリ正稅二百七十三石今二百九十石二斗九升四合新田二石九升八合紀州松坂領ナリ 古屋草紙云石津村昔ノ飯高驛屋ナリ寶龜七年依勅大鹿瀨寺ヲ此處ニ迂ス